

# 目 次

はじめに	-----	1
事 業 概 要		
1 会員（活動資金）の増強及び管理	-----	2
(1) 会員増強と活動資金募集	-----	2
(2) 日本赤十字社有功章等贈与規則等による表彰	-----	5
2 社業振興事業	-----	7
(1) 地区分区事業の推進	-----	7
(2) 赤十字思想の普及啓発	-----	8
3 国際活動	-----	10
(1) 救援金等受付状況	-----	10
4 災害救護	-----	10
(1) 災害救護活動の実施	-----	10
(2) 救護装備品等の強化	-----	11
(3) 災害救護訓練等参加	-----	14
(4) こころのケア要員の養成	-----	15
(5) 赤十字防災ボランティアの登録、研修	-----	15
(6) 国内義援金取扱状況	-----	16
(7) 臨時救護の実施	-----	17
(8) 赤十字防災セミナーの実施	-----	17
(9) その他	-----	18
5 赤十字講習等の実施	-----	18
(1) 救急法	-----	18
(2) 水上安全法	-----	22
(3) 健康生活支援講習	-----	24
(4) 幼児安全法	-----	25
(5) 各種講習の指導員在籍状況	-----	27
6 有功会の育成及び活動	-----	28
7 赤十字奉仕団の育成及び活動	-----	30
(1) 地域奉仕団	-----	30
(2) 青年奉仕団	-----	31
(3) 特殊奉仕団	-----	31
(4) 奉仕団種別数及び合計団員数	-----	31
(5) モデル奉仕団指定	-----	31
8 青少年赤十字の育成及び活動	-----	33
9 医療施設の経営	-----	38
10 血液事業	-----	42
11 社会福祉施設の運営	-----	56
(1) 日赤岩手乳児院	-----	56
(2) 特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘	-----	59
12 会計報告	-----	61
13 評議員会の開催	-----	63

## 付 録

○ 日本赤十字社岩手県支部役員、評議員名簿	-----	64
○ 日本赤十字社岩手県支部現勢	-----	65
○ 日本赤十字社岩手県支部組織図	-----	66
○ 各施設等の職員数	-----	67
○ 各施設の幹部職員	-----	67
○ 岩手県支部のあゆみ	-----	68
○ 日本赤十字社現勢	-----	88
○ 日本赤十字社組織機構図	-----	89
○ 用語解説	-----	90
○ 各国赤十字社・赤新月社等一覧	-----	92
○ 赤十字標語一覧	-----	



## は じ め に

赤十字事業の推進につきましては、平素から県民の皆様並びに地区・分区をはじめとする関係者の皆様から深い御理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和元年度の支部事業につきましては、10月に東日本台風が発生して被災した市町村に救援物資を配送し、宮城県丸森町に救護班1班を派遣いたしました。

併せて日赤宮城県支部への支援のため、当支部職員2名を派遣したほか、支部内にボランティアセンターを設置し、沿岸被災地に防災ボランティア等26名を派遣いたしました。

また、12月下旬に新型コロナウイルスが発生し、全世界に感染が拡大いたしました。

当支部として、埼玉県および厚生労働省からの依頼に基づき、埼玉県内の一時滞在施設に滞在している中国武漢市からのチャーター便による帰国者およびクルーズ船からの下船者の経過観察を支援するため、2月下旬に救護班1班を派遣いたしました。

医療事業につきましては、信頼される医療を提供し、地域医療支援病院として医療・介護・福祉の連携に努めるとともに、救急医療および災害救護に貢献できる体制の整備を進めて参りました。

血液事業につきましては、日々進化する現代医療の中で医療機関の需要動向を把握し、より安全な血液製剤を安定的に供給するため、献血推進に努めて参りました。その一環として、献血者の健康志向啓発のために事業所等を訪問する際にパンフレット“献血 de 健康管理”を活用した献血推進を行ったほか、献血ルームで健康相談、健康に関するさまざまな情報をホームページに掲載しました。血液事業を通じて地域との連携“絆”を推進して、健康で住みやすい「ふるさといわて」の形成に貢献して参ります。

乳児院につきましては、身心ともに健やかに成長できる養育の提供に努めるとともに、新社会的養護の推進のため、家庭支援専門相談員と里親支援専門相談員が一体となり、早期家庭引取や円滑な里親委託に重点を置いて取り組みました。また「子育て短期支援事業」を実施し、地域の子育て支援を進めております。

鶯鳴荘につきましては、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じた介護支援に努め、医療的ケアのニーズが高まってきたこともあり、介護職員を対象とした「医療的ケア研修」へ積極的に参加し、看護職と介護職の職種間協働を図ってきました。また「介護・医療に関するシンポジウム」を開催して、地域住民に役立つ知識や情報の提供に取り組んでおります。

詳細につきましては、本書のとおり取りまとめましたので、御高覧をいただければ幸いに存じます。

今後とも、関係各位の一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本赤十字社岩手県支部

支部長 達 増 拓 也

# 事業概要

## 1 会員（活動資金）の増強及び管理

### （1） 会員増強と活動資金募集

赤十字活動の財政基盤をより強固にするため、毎年5月を赤十字会員増強運動月間として、地区・分区役職員や協賛委員・地域奉仕団・有功会などの赤十字関係者の理解と協力を得て、活動資金募集活動を実施するとともに赤十字思想の普及を図った。

その結果、一般活動資金及び法人活動資金を合わせた実績額は、1億8,069万円余であり、目標額2億52万1千円に対し90.1%となり目標額を下回った。

また、年度末の会員数（会費2,000円の納入）は一般会員数が2,209人、法人会員数が3,601社であった。

会員（活動資金）増強運動実施結果

区 分	目 標 額 （円）	実 績 額 （円）	達 成 率 （％）
一般活動資金	179,118,000	159,863,289	89.3
法人活動資金	21,403,000	20,827,192	97.3
合 計	200,521,000	180,690,481	90.1



（5月11日、赤十字ふれあいフェスティバル広報）



令和元年度活動資金収納状況一覧表

令和2年3月31日現在

地区・分区	一 般 活 動 資 金			法 人 活 動 資 金			総 額			前年度 実績額
	目標額	実績額	達成率	目標額	実績額	達成率	目標額	実績額	達成率	
盛岡市	43,152,000	20,555,310	47.6	4,348,000	3,257,000	74.9	47,500,000	23,812,310	50.1	24,203,300
宮古市	7,870,000	8,470,550	107.6	649,000	462,000	71.2	8,519,000	8,932,550	104.9	8,011,387
大船渡市	4,877,000	5,229,800	107.2	479,000	748,000	156.2	5,356,000	5,977,800	111.6	6,601,000
花巻市	13,187,000	12,773,550	96.9	1,681,000	1,895,988	112.8	14,868,000	14,669,538	98.7	14,747,000
北上市	12,927,000	10,633,238	82.3	2,700,000	2,854,500	105.7	15,627,000	13,487,738	86.3	13,530,309
久慈市	5,588,000	5,204,100	93.1	470,000	772,000	164.3	6,058,000	5,976,100	98.6	5,929,900
遠野市	3,844,000	4,741,600	123.4	389,000	477,000	122.6	4,233,000	5,218,600	123.3	4,766,300
一関市	16,587,000	19,639,245	118.4	1,512,000	1,458,500	96.5	18,099,000	21,097,745	116.6	21,651,340
陸前高田市	2,153,000	3,075,400	142.8	153,000	119,000	77.8	2,306,000	3,194,400	138.5	3,317,318
釜石市	4,814,000	3,950,855	82.1	433,000	898,300	207.5	5,247,000	4,849,155	92.4	4,590,155
二戸市	4,227,000	4,680,400	110.7	1,309,000	1,406,947	107.5	5,536,000	6,087,347	110.0	6,193,950
八幡平市	3,800,000	3,793,000	99.8	331,000	408,000	123.3	4,131,000	4,201,000	101.7	3,993,300
奥州市	16,068,000	16,369,587	101.9	1,468,000	1,097,000	74.7	17,536,000	17,466,587	99.6	17,824,636
滝沢市	8,035,000	4,885,138	60.8	405,000	162,700	40.2	8,440,000	5,047,838	59.8	5,041,793
盛 岡	13,328,000	13,409,800	100.6	1,180,000	1,030,915	87.4	14,508,000	14,440,715	99.5	14,283,950
雫石町	2,333,000	2,363,300	101.3	203,000	133,000	65.5	2,536,000	2,496,300	98.4	2,471,650
葛巻町	978,000	1,185,000	121.2	68,000	107,415	158.0	1,046,000	1,292,415	123.6	1,296,500
岩手町	1,963,000	2,158,000	109.9	139,000	211,500	152.2	2,102,000	2,369,500	112.7	2,336,500
紫波町	4,404,000	4,516,000	102.5	299,000	71,000	23.7	4,703,000	4,587,000	97.5	4,467,300
矢巾町	3,650,000	3,187,500	87.3	471,000	508,000	107.9	4,121,000	3,695,500	89.7	3,712,000
北 上	830,000	993,800	119.7	158,000	319,000	201.9	988,000	1,312,800	132.9	1,282,000
西和賀町	830,000	993,800	119.7	158,000	319,000	201.9	988,000	1,312,800	132.9	1,282,000
水 沢	2,184,000	2,181,000	99.9	293,000	105,000	35.8	2,477,000	2,286,000	92.3	2,136,000
金ヶ崎町	2,184,000	2,181,000	99.9	293,000	105,000	35.8	2,477,000	2,286,000	92.3	2,136,000
一 関	983,000	1,106,500	112.6	121,000	119,000	98.3	1,104,000	1,225,500	111.0	1,230,500
平泉町	983,000	1,106,500	112.6	121,000	119,000	98.3	1,104,000	1,225,500	111.0	1,230,500
大船渡	788,000	869,650	110.4	65,000	22,000	33.8	853,000	891,650	104.5	916,600
住田町	788,000	869,650	110.4	65,000	22,000	33.8	853,000	891,650	104.5	916,600
釜 石	1,225,000	1,734,900	141.6	52,000	50,000	96.2	1,277,000	1,784,900	139.8	1,602,900
大槌町	1,225,000	1,734,900	141.6	52,000	50,000	96.2	1,277,000	1,784,900	139.8	1,602,900
宮 古	3,804,000	4,591,000	120.7	377,000	519,500	137.8	4,181,000	5,110,500	122.2	5,291,700
山田町	1,767,000	2,389,800	135.2	86,000	83,500	97.1	1,853,000	2,473,300	133.5	2,661,200
岩泉町	1,508,000	1,653,200	109.6	258,000	406,000	157.4	1,766,000	2,059,200	116.6	2,081,500
田野畑村	529,000	548,000	103.6	33,000	30,000	90.9	562,000	578,000	102.8	549,000
久 慈	3,510,000	3,747,400	106.8	387,000	614,000	158.7	3,897,000	4,361,400	111.9	4,276,256
野田村	577,000	660,500	114.5	49,000	119,000	242.9	626,000	779,500	124.5	751,006
普代村	427,000	428,500	100.4	31,000	41,000	132.3	458,000	469,500	102.5	456,000
洋野町	2,506,000	2,658,400	106.1	307,000	454,000	147.9	2,813,000	3,112,400	110.6	3,069,250
二 戸	4,247,000	4,887,100	115.1	443,000	392,600	88.6	4,690,000	5,279,700	112.6	5,310,850
軽米町	1,398,000	1,475,500	105.5	234,000	305,000	130.3	1,632,000	1,780,500	109.1	1,777,500
九戸村	799,000	937,000	117.3	59,000	13,000	22.0	858,000	950,000	110.7	958,000
一戸町	2,050,000	2,474,600	120.7	150,000	74,600	49.7	2,200,000	2,549,200	115.9	2,575,350
地区計	147,129,000	124,001,773	84.3	16,327,000	16,016,935	98.1	163,456,000	140,018,708	85.7	140,401,688
分区計	30,899,000	33,521,150	108.5	3,076,000	3,172,015	103.1	33,975,000	36,693,165	108.0	36,330,756
地区分区計	178,028,000	157,522,923	88.5	19,403,000	19,188,950	98.9	197,431,000	176,711,873	89.5	176,732,444
支部扱い	1,090,000	2,340,366	214.7	2,000,000	1,638,242	81.9	3,090,000	3,978,608	128.8	9,932,733
総 計	179,118,000	159,863,289	89.3	21,403,000	20,827,192	97.3	200,521,000	180,690,481	90.1	186,665,177

(単位:円、達成率:%)

### 最近5ヵ年間の活動資金募集目標額と実績額の推移

単位：円

平成27年度	190,910,582	86.8%
目標額	219,992,000	
平成28年度	181,564,368	90.5%
目標額	200,521,000	
平成29年度	192,056,326	93.4%
目標額	205,521,000	
平成30年度	186,665,177	93.1%
目標額	200,521,000	
令和元年度	180,690,481	90.1%
目標額	200,521,000	

※平成29年度は日赤鷺鳴荘新築移転特別寄付金の募集があったため、目標額が増加していること。

### 一 般 活 動 資 金 金 額 別 内 訳

内 訳		会 費 (会員の拠出)		会 費 (会員以外の拠出及び 寄付金)		個人住民税にかかる指定事業				合 計	
						会 費 (会員の拠出)		会費 (会員以外の拠出及び 寄付金)			
1 件当たりの金額		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	1千万円以上										
2	100万円以上 1千万円未満	1件	1,000,000円							1件	1,000,000円
3	50万円以上 100万円未満	1件	500,000円	1件	600,000円	1件	500,000円			3件	1,600,000円
4	20万円以上 50万円未満	1件	200,500円	15件	3,663,400円	4件	1,100,000円			20件	4,963,900円
5	10万円以上 20万円未満	6件	671,000円	120件	14,566,070円	4件	400,000円			130件	15,637,070円
6	5万円以上 10万円未満	44件	2,906,500円	243件	15,865,478円					287件	18,771,978円
7	3万円以上 5万円未満	46件	1,720,000円	279件	10,218,780円					325件	11,938,780円
8	2万円以上 3万円未満	86件	1,959,300円	177件	4,188,200円					263件	6,147,500円
9	1万円以上 2万円未満	195件	2,320,000円	210件	2,865,617円					405件	5,185,617円
10	5千円以上 1万円未満	151件	829,795円	154件	989,600円					305件	1,819,395円
11	3千円以上 5千円未満	193件	590,350円	192件	699,000円					385件	1,289,350円
12	2千円以上 3千円未満	1,476件	2,952,000円							1,476件	2,952,000円
13	2千円未満			160,974件	88,557,699円					160,974件	88,557,699円
	合 計	2,200件	15,649,445円	162,365件	142,213,844円	9件	2,000,000円			164,574件	159,863,289円

## 法 人 活 動 資 金 金 額 別 内 訳

内 訳		指定事業法人活動資金				その他法人活動資金				合 計	
		会 費 (会員の拠出)		会 費 (会員以外の拠出及び 寄付金)		会 費 (会員の拠出)		会費 (会員以外の拠出及び 寄付金)			
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額		
1	2千万円以上										
2	1千万円以上 2千万円未満										
3	500万円以上 1千万円未満										
4	100万円以上 500万円未満										
5	50万円以上 100万円未満										
6	20万円以上 50万円未満	2件	466,060円							2件	466,060円
7	10万円以上 20万円未満	6件	600,000円			6件	600,000円			12件	1,200,000円
8	5万円以上 10万円未満	15件	781,348円			9件	450,000円			24件	1,231,348円
9	2万円以上 5万円未満	68件	1,600,000円			32件	714,000円			100件	2,314,000円
10	1万円以上 2万円未満	462件	4,647,000円			107件	2,110,040円			569件	6,757,040円
11	5千円以上 1万円未満					203件	1,998,535円			203件	1,998,535円
12	2千円以上 5千円未満					2,691件	6,715,909円			2,691件	6,715,909円
13	2千円未満							103件	144,300円	103件	144,300円
	合 計	553件	8,094,408円			3,048件	12,588,484円	103件	144,300円	3,704件	20,827,192円

### (2) 日本赤十字社有功章等贈与規則等による表（岩手県）

表 彰 区 分	(件)			
	社資功労	業務功労	献血（推進含）功労	合 計
紺 綬 褒 章				0
厚生労働大臣感謝状				0
特 別 功 労 表 彰	1			1
金 色 有 功 章		31	77	108
銀 色 有 功 章	37	37	87	161
特 別 社 員	99			99
支部長感謝状（金 枠）	53	60		113
支部長感謝状（銀 枠）		118		118
合 計	190	246	164	600

前記(2)有功章等贈与規則等による表彰の地区分区分別内訳表

地区分区分名	社 資 功 勞					業 務 功 勞					献血(推進含)功勞				
	特別表彰	金 色 有功章	銀 色 有功章	感謝状 金 枠	特別社員	特別表彰	金 色 有功章	銀 色 有功章	感謝状 金 枠	感謝状 銀 枠	特別表彰	金 色 有功章	銀 色 有功章	感謝状 金 枠	感謝状 銀 枠
地 区															
盛岡市			10	3	31							33	31		
釜石市				2	4								1		
宮古市				1	3		5	5	10	31		1	1		
一関市			6	9	18		20	11	16	35		3	4		
大船渡市					5	1	1	1	3	5					
奥州市			4	7	3		1	4	11	3		3	7		
花巻市			3	7	6	3	3	6	12	23		7	9		
北上市			13	7	8							7	10		
久慈市				2	4		1	7	1	14		1			
遠野市				5					4			2			
陸前高田市				1								1	2		
二戸市												2	3		
八幡平市												1	2		
滝沢市												5	5		
分 区															
雫石町												2	1		
葛巻町													1		
岩手町												1	1		
紫波町				1								1	2		
矢巾町				2	1							3	4		
西和賀町					2								1		
金ヶ崎町													1		
平泉町													1		
住田町															
大槌町															
山田町			1									1			
岩泉町					9										
田野畑村															
洋野町					1							1			
野田村				1	1										
普代村															
一戸町								3	3	7		2			
軽米町				5	3										
九戸村															
計	0	0	37	53	99	4	31	37	60	118	0	77	87	0	0
鶯鳴荘扱い	1														
乳児院扱い															
合計	1	0	37	53	99	4	31	37	60	118	0	77	87	0	0

## 2 社業振興事業

### (1) 地区分区事業の推進

会員の増強及び赤十字事業の進展を図るため、次のとおり説明会を開催し、全国赤十字大会赤十字奉仕団等奉仕者とともに参会した。また、地区・分区有功会総会に出席し、赤十字思想及啓発に努めた。

名 称	開催年月日	場 所	対 象 (人)	主な内容
地区・分区担当課長及び事務担当者説明会	H31. 4. 10～ 4. 11	アートホテル 盛岡	37	1 平成30年度活動資金募集実績及び令和元年度活動資金募集目標額について 2 令和元年度会員増強運動の実施 3 地区分区交付金の交付基準及び取扱要領について 4 その他
全国赤十字大会への参加	R 1. 5. 22	東京都 (明治神宮会館)	岩手県支部からの参会者23	社長あいさつ、有功章ご授与、社長表彰、厚生労働大臣祝辞、実践活動の報告 他
地区分区有功会総会への参加	年間 7 回	地区・分区	地区・分区有功会総会に出席し、会員増強等について協力要請	



(令和元年全国赤十字大会)

## (2) 赤十字思想の普及啓発

赤十字に対する理解を深め、社業発展の基盤を確立するために、さまざまな機会や媒体を活用した積極的な情報の発信が必要であることから、次のような赤十字思想の普及啓発に努めた。

### ア 会員増強運動月間における広報活動

会員・活動資金の増強は赤十字事業推進の基盤となるものであり、5月の赤十字運動月間を中心に幅広い広報活動を展開するとともに、各種イベント等を実施した。

#### (ア) イベントの開催

5月26日、イオンモール盛岡において「第19回赤十字ふれあいフェスティバル」を開催し、赤十字事業の普及啓発を行った。



#### (イ) マスコミを利用したの広報

##### ① 新聞掲載

5月1日付岩手日報紙(1ページ)に県内各法人の協賛による赤十字運動月間広告と地区分区の協賛広告を掲載。

##### ② 民放によるテレビスポット放送

(レッドライトアッププロジェクト)

I B C岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ

##### ③ 民放によるラジオスポット放送

I B C岩手放送、エフエム岩手、ラヂオもりおか

##### ④ ホームページ、インスタグラムによる情報提供

#### (ウ) 電車駅及び電車車両媒体の利用

5月に電車駅及び電車車両への赤十字運動月間ポスターを掲出

【電車駅】 J R 主要駅24か所、I G R 主要駅7か所、三陸鉄道主要駅5か所

【電車車両】 J R、I G R、三陸鉄道各車両

#### (エ) レッドライトアッププロジェクト

人道への理解を深めていただくことを目的にアンリー・デュナン生誕の日の

5月8日から31日まで盛岡城跡公園の石垣を赤くライトアップした。

#### (オ) 岩手県広報媒体の利用

5月7日から31日まで県民ホールに当支部活動パネルを掲示。

#### (カ) 地区・分区における広報

市町村広報紙への掲載

赤十字運動月間用チラシの全世帯配布とポスターの掲出

イ 印刷物による普及啓発  
(ア) 本社刊行物

種 別	部 数	発行回数	配布先等	備 考
赤十字新聞	1,500	毎月	地区分区、青少年赤十字加盟校、奉仕団、有功会、管内施設、金融機関等	
日本赤十字社事業紹介リーフレット	6,500	随時	協賛委員、各種講習受講者等	
会員増強運動用ポスター	4,000	随時	地区分区	

(イ) 県支部刊行物

種 別	部 数	発行回数	配布先等	備 考
赤十字いわて	11,000	年2回	赤十字会員、地区分区、青少年赤十字加盟校、奉仕団、有功会、管内施設、金融機関等	
会員増強運動用赤十字いわて特別号	454,000	年1回	全世帯、活動資金依頼法人	
会員・活動資金募集の手引	4,500	年1回	協賛委員、地区分区等	
岩手の青少年赤十字	580	3月発行	青少年赤十字加盟校等	
事業報告書	600	5月発行	地区分区、関係機関	



(「赤十字いわて2020特別号」)



### 3 国際活動

今日の国際情勢をみると、依然として、戦争や民族・宗教等の対立による武力紛争が生じており、多くの難民や避難民が発生している。

また、気候の変動や環境破壊が及ぼす自然災害による被災者も多く発生している。

このような国際情勢に迅速に対応するため、日本赤十字社では人道危機に対する緊急救援から復旧・再建、開発協力までの中・長期的な取り組みを展開している。

本県支部としても、毎年NHKと共催で実施している「NHK海外たすけあい」の募金を主な財源に、国際救護活動を国際赤十字の調整のもとに展開している。

#### (1) 救援金等受付状況

(令和2年3月31日現在)

	救援金名	受付期間	件数(件)	金額(円)
1	NHK海外たすけあい	R1. 12. 1～R1. 12. 25	643	849,887
	合 計		643	849,887

### 4 災害救護

災害救護は、赤十字の重要な使命であり不測の災害に対処するため、盛岡赤十字病院に医師、看護師、主事等からなる常備救護班の常時即応体制を整えるとともに、発災直後の超急性期に活動する災害派遣医療チーム(DMAT)を盛岡赤十字病院に育成し更なる救護体制の強化に努めた。

また、災害時の自助・共助のための知識と意識の向上のため、平時における防災・減災を学ぶ赤十字防災セミナー等を開催した。

災害発生に伴う「医療救護活動」や「救援物資の配分」、その後の「復興支援事業」、「次の災害への備え」と災害マネジメントサイクルに則した活動を実施した。

#### (1) 災害救護活動の実施

##### (ア)「台風第19号災害」対応

10月12日大型台風19号が発生し、関東甲信地方・東北の太平洋沿岸を中心に記録的大雨による河川の氾濫など、被害が甚大だった。11月4日まで第1ブロック～3ブロックまで、各々の地域で赤十字救護班が活動した。

岩手県内の医療ニーズはなく救護班派遣等の救護要請はなかったが、福島と宮城の被害が大きことから、宮城県支部からの協力要請を受けて、盛岡赤十字病院では救護班を派遣し、10月16日(水)～10月19日(土)まで宮城県丸森町仙南保健福祉事務所にて、巡回診療や本部調整などの支援を行った。また、宮城県支部の支部支援要員として、10月19日(土)～10月23日(水)に支部職員を派遣し支部支援を行った。



巡回診療の様子



(イ) ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催に係る救護班の事前待機

釜石市鶴住居スタジアムでラグビーワールドカップが 7 月 27 日にテスト試合日本 VS フィジー戦、9 月 25 日にウルグアイ VS フィジー戦が開催された。

県と釜石市、他各関係団体が協力して災害に備え、盛岡赤十字病院の救護班が派遣され、DMAT や医師会、歯科医師会、消防、警察、自衛隊等の関連機関と連携し、スタジアム横の浄水場に応急救護所を設置し、災害時に迅速に対応できるように待機した。



応急救護所設置の様子

(2) 救護装備品等の強化

近い将来、高い確率で発生が予想されている南海トラフ地震、首都直下地震等の地震災害や近年相次ぐ局地的な豪雨災害等に備え、支部及び地区分区配備の災害救援車の更新、救護資材等の強化を図った。

整備品等

- ・災害救援車 2 台 洋野町 八幡平市
- ・救護班用医療品更新
- ・救護班用非常食加温材整備
- ・救護班用非常食（副食缶詰等）更新
- ・避難所用パーテーション整備
- ・日赤業務用無線基地局バッテリー更新
- ・救護所用ホワイトボード整備
- ・救護所用パーテーション整備
- ・衛星携帯電話用バッテリー更新
- ・災害記録用カメラ整備



災害救援車

救護装備及び資機材の整備状況

(令和2年3月31日現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
災害救援車	支部 8 台 地区分区 49 台 } 57 台	災害用移動炊飯器	支部 4 台 地区分区 79 台 } 83 台
アマチュア無線局	固定局 1 局	救護服 夏用	105 着
	移動局 3 局	救護服 冬用	120 着
業務用無線局 150MHZ	基地局 1 局	救護服 メッシュタイプ	35 着
	陸上移動局 35 局	救護員用ベスト	90 着
業務用無線局 400MHZ	基地局 1 局	ヘルメット	65 個
	陸上移動局 15 局	救護員雨具	59 着
衛星携帯電話	9 台（支部 3、病院 3、血液センター 2、鶯鳴荘 1）	救護員防寒具	68 着
		救護員用編上靴	85 足
天幕	8 張	救護員用シャツ	161 着
エアーテント	大 3 張	救護班用ノート型パソコン	3 台
	中 1 張	救護班用プロジェクター	1 台
救護所用大型テント	2 張	救護班用床置スクリーン	1 台
災害救護用クインテント	2 張	救護員用バッグ	50 個
		救護員用ワシントンダガーバッグ	30 個
自動体外式除細動器（AED）	4 台	救護員用ヒップバッグ	30 個
		救護員用臨場ハンダー	15 個
浄水機	2 台	二段式簡易ベッド	6 台
医療セット置台	3 セット	医用テレメーター	1 台
スクープストレッチャー	2 台	トリアージシート	1 セット
担架	35 台	自吸式エアー担架	20 個
ワンタッチパーテーション	283 式	医療セット	8 セット
発電機	21 機	携帯型医療セット	3 セット
ドラムコードリール	16 巻	折りたたみ寝台	78 台
投光機	9 機	防災ボランティア装備品	15 着
ランタン	12 個	防災ボランティアゼッケン	300 枚
ハーバーク折畳自転車	2 台	トイレ用テント	3 張
大型扇風機	5 台	携帯トイレ	3,000 個
ジェットヒーター	6 台	トイレキット	3,000 枚
野外等多目的テント	61 基	本部用マイクセット	1 台
除雪機	2 台	救護班用血圧計	6 台
パルスオキシメーター	5 台	避難所用パーテーション（ひなんルーム）	300 張
ホワイトボード	3 台	救護所用パーテーション	6 台
記録用カメラ	1 台		

地区区分区に対する救援物資等配備状況及び弔慰金交付状況 (令和2年3月31日現在)

地区区分	毛布枚)	緊急セット (個)	バスタオル (枚)	救援車 (台)	炊飯器 (台)	弔慰金
盛岡市	58	76	105	2	1	30,000
釜石市	16	51	16	1	2	0
宮古市	263	199	331	3	5	0
一関市	176	96	150	4	13	110,000
大船渡市	174	214	360	0	4	0
奥州市	387	57	89	5	5	0
花巻市	69	80	66	3	5	20,000
北上市	12	8	9	1	1	10,000
久慈市	314	113	403	2	4	0
遠野市	39	21	39	2	5	20,000
陸前高田市	120	45	70	1	4	0
二戸市	140	79	138	2	2	0
八幡平市	31	26	61	3	5	0
滝沢市	17	6	18	1	0	0
雫石町	7	7	18	0	1	0
葛巻町	4	6	26	0	1	0
岩手町	17	13	15	1	1	0
紫波町	26	13	24	1	1	10,000
矢巾町	116	19	102	1	1	30,000
西和賀町	19	24	28	2	2	0
金ヶ崎町	20	8	12	1	0	0
平泉町	26	11	26	1	1	0
住田町	9	11	9	1	1	0
大槌町	12	11	20	1	2	0
山田町	4	49	56	1	2	10,000
岩泉町	14	13	14	1	0	0
田野畑村	0	117	0	1	1	0
洋野町	26	10	20	2	1	0
野田村	39	11	29	1	0	0
普代村	100	60	100	1	0	0
一戸町	15	6	15	1	5	10,000
軽米町	5	9	5	1	1	10,000
九戸村	19	13	22	1	2	0
小計	2,294	1,482	2,396	49	79	
岩手県支部	1,860	1,542	70	8	4	
合計	4,154	3,024	2,466	57	83	260,000

### (3) 災害救護訓練等参加

訓練・研修名	期 日	場 所	参 加 者(人)
救護班及び防災ボランティア合同救護資機材操作訓練	6 月 25 日 (火)	日本赤十字社岩手県支部	支部 (3) 病院主事(5) 防災ボランティア (11)
岩手県国民保護共同訓練	7 月 11 日 (木)	釜石市鶴住居復興スタジアム	支部(2)、病院(6) 防災ボランティア (4)
盛岡市総合防災訓練	11 月 2 日 (土)	盛岡市立高松小学校	支部(2)、病院(5) 防災ボランティア (5)
救護員(赤十字看護師)災害救護演習	11 月 19 日 (火)	日本赤十字社岩手県支部	支部(4)、病院(15) 防災ボランティア (8)

※日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練開催予定日 10 月 30 日 (水)～10 月 31 日 (木) は、「台風第 19 号災害」対応により中止。



盛岡市総合防災訓練の様子



国民保護共同訓練の様子

訓練・研修名	期 日	場 所	参 加 者(人)
第 1 回東北ブロック DMAT 技能維持研修	5 月 13 日(月)～14 日(火)	岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター	病院(6)、支部(1) 血液センター (1)
第 2 回東北ブロック DMAT 技能維持研修	8 月 28 日(水)～29 日(木)	福島県	病院(2)
第 12 回災害派遣医療チーム研修	10 月 7 日(月)～10 日(木)	国立病院機構災害医療センター	支部(1)
第 16 回災害派遣医療チーム研修	11 月 11 日(月)～13 日(水)	国立病院機構災害医療センター	病院(5)
第 3 級陸上特殊無線技士養成研修	11 月 19 日 (火)	いわて県民情報交流センターアイーナ	鶯鳴荘(1)
第 3 回東北ブロック DMAT 技能維持研修	令和 2 年 1 月 11 日(土)～12 日(日)	仙台市	病院(5)
第 1 回災害医療支援冬季対策～災害医療ロジスティクス研修～	令和 2 年 2 月 4 日(火)～5 日(水)	安比高原スキー場	支部(1)

訓練・研修名	期 日	場 所	参 加 者(人)
全国赤十字救護班研修	7 月 14 日(日)～16 日(火)	日本赤十字社本社	病院(5)
赤十字救護班研修指導スタッフ研修	7 月 14 日(日)～16 日(火) 令和 2 年 2 月 1 日(土)～3 日(月)	日本赤十字社本社	病院(1) 支部(1)
日赤災害医療コーディネーター研修	12 月 7 日(土)～8 日(日)	日本赤十字社本社	病院(2)

※令和 2 年 3 月 7 日～8 日に予定の日本赤十字社原子力対応基礎研修はコロナウィルス感染症対応のため中止。

#### (4) こころのケア要員等の養成

災害による被災者及び救援者である救護員が被る心理的影響の特性とこころのケアの重要性について理解を深め、従来の救護活動に加えて被災者に対するこころのケアが実施できると同時に、救護員自身のこころのケアに関する対処方法を習得することを目的に研修を行った。また、そうした支部で行うこころのケア研修の指導が出来る人材を新たに 1 名養成した。

研 修 名	期 日	場 所	参 加 者(人)
第 1 回こころのケア指導者養成研修会	11 月 15 日(金)～17 日(日)	日本赤十字社本社	病院(1)
こころのケア研修	12 月 9 日(月)	日本赤十字社岩手県支部	病院(17)

#### (5) 赤十字防災ボランティアの登録、研修

災害時に救援物資の輸送・配分、炊出し、避難所の運営など赤十字の災害救援活動に携わる方の防災ボランティア登録を行い、研修を行った。

研 修 名	期 日	場 所	参 加 者(人)
救護班及び防災ボランティア合同救護資機材操作訓練	6 月 25 日(火)	日本赤十字社岩手県支部	支部(3) 病院主事(5) 防災ボランティア(11)

令和 2 年 3 月 17 日予定の「赤十字防災ボランティア養成研修」は、コロナウィルス感染症対応にて中止。



赤十字防災ボランティア病院主事合同訓練の様子

防災ボランティア登録者数

(単位：人)

地域別	リーダー	地区リーダー	個人ボランティア	合計
盛岡	1	0	15	16
花巻	2	0	4	6
北上	0	0	1	1
奥州	1	0	5	6
一関	0	0	2	2
大船渡	0	1	0	1
陸前高田市	0	0	1	1
釜石	0	2	2	4
八幡平	0	0	4	4
二戸	0	0	2	2
宮古	0	0	3	3
滝沢	0	0	1	1
大槌	1	0	4	5
雫石	0	0	1	1
その他	0	0	1	1
合 計	5	3	46	54

(6) 国内義援金取扱状況

<県支部受付分>

(令和2年3月31日現在)

	義援金名	受付期間	件数(件)	金 額 (円)
1	東日本大震災義援金	H23. 3. 12～	419	48,844,724
2	平成28年熊本地震災害義援金	H28. 4. 15～R2. 3. 31	52	19,547,626
3	平成29年7月5日からの大雨災害義援金	H29. 7. 7～R2. 3. 31	6	89,315
4	平成30年7月豪雨災害義援金	H30. 7. 10～R1. 6. 30	22	4,704,625
5	平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	H30. 9. 11～R2. 3. 31	17	2,249,776
6	京都府京都市伏見区で発生した放火事件に係る被害者義援金	R1. 9. 9～R1. 10. 31	1	3,336
7	令和元年度台風15号千葉災害義援金	R1. 9. 18～R2. 6. 30	2	196,141
8	令和元年台風19号災害義援金	R1. 10. 16～R2. 3. 31	571	320,760,255
合 計			1,090	396,395,798

<岩手日報受付分>

(令和2年3月31日現在)

	義援金名	受付期間	件数(件)	金 額 (円)
1	東日本大震災義援金	H23. 3. 14～	6,401	487,149,008



### (7) 臨時救護の実施

県および各種団体の要請に応え、その主催する行事に救護要員の派遣を行い不慮の事故等による傷病者の救護にあたった。

(単位：人)

期 日	行事名	場 所	患者数	派遣人員
5月30(木)～ 6月1日(土)	第71回岩手県高等学校総合 体育大会ボート競技	錦秋湖川尻ボート場	3	看護師(3)
6月1日(土)	第21回岩手県障がい者スポ ーツ大会	岩手県営運動公園	10	看護師(1)
6月9日(日)	第19回全国障がい者スポー ツ大会	岩手県営体育館	0	看護師(1)
6月15日(土)	いわて男女共同参画フェス ティバル 2019	いわて県民情報交流 センター	0	看護師(1)
7月29(月)～ 31日(水)	リーダーシップ・トレーニ ングセンター	国立岩手山青少年交 流の家	17	看護師(4)
8月30日(金)～ 9月1日(日)	岩手県高等学校新人大会ボ ート競技	花巻市田瀬湖ボート 場	3	看護師(3)
11月23日(土)	第78回一関・盛岡間駅伝競 走大会	一関～北上間	0	医師(1) 看護師 (1) 運転手(1)

### (8) 赤十字防災セミナーの実施

東日本大震災などの過去の災害から学んだ知識や教訓を今後の備えとして多くの県民に広めるため地域住民や企業を対象に「赤十字防災セミナー」を実施した。

(単位：人)

期 日	参 加 者	内 容	受講者
7月20日(土)	一般住民	災害への備え・災害エスノグラフィー	6
8月7日(水)	一般住民	災害への備え	26
10月19日(土)	JICA	災害への備え	15
11月3日(日)	一般住民	災害への備え・応急手当	100
11月8日(金)	赤十字奉仕団員	災害図上訓練「DIG」	9
11月18日(月)	社会福祉協議会職員	災害エスノグラフィー	23
1月17日(金)	一般住民	災害への備え	74
赤十字防災セミナー 7回			253



災害図上訓練「DIG」の様子



災害エスノグラフィーの様子

## (9) その他

東北赤十字臨床検査技師会の要請により、赤十字の活動について講演を行った。

期 日	対 象	場 所	受講者
7月6日（土）	東北赤十字臨床検査技師	岩手保健医療大学	45

## 5 赤十字講習等の実施

全ての人々が健康で安全・安心な暮らしを送るために、人命救助の方法と具体的な知識・技術を普及するための救急法、水上安全法、健康生活支援講習、幼児安全法の講習を実施したが、年度末からの新型コロナウイルス流行に伴い、感染拡大防止のため2月28日以降の講習から中止となった。

### (1) 救急法

日常生活における事故防止の知識と、不慮の事故や急病に対して医師や救急隊に引き継ぐまでの手当の仕方を指導するもので、赤十字救急法基礎講習と赤十字救急員養成講習、その一部を短時間でを行う短期講習を実施した。



救急法基礎講習の様子

救急法基礎講習

(単位:人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
4/12	岩手県立大学	岩手県立大学	8
4/28	一般社団法人日本スイミングクラブ協会	花巻スイミングスクール SFやさわ	4
5/10	大原学園	大原学園盛岡校	24
5/17	日本赤十字社岩手県支部	日本赤十字社岩手県支部	21
5/20	岩手県警察学校	岩手県警察学校	40
5/25	盛岡医療福祉専門学校	盛岡医療福祉専門学校	11
6/11	(株)東京電波	(株)東京電波	10
6/16	日赤大槌町分区	大槌町城山公園体育館	4
7/1	岩手県警察学校	岩手県警察学校	36
7/5	日本赤十字社岩手県支部	日本赤十字社岩手県支部	18
7/24	一関修紅高等学校	一関修紅高等学校	13
7/29	盛岡社会福祉専門学校	盛岡社会福祉専門学校	16
8/9	日本赤十字社岩手県支部	盛岡市立総合プール	4
9/6	日本赤十字社岩手県支部	日本赤十字社岩手県支部	22
9/21	日本赤十字社岩手県支部	矢巾町保健福祉センター	5
10/9	盛岡ヘアメイク専門学校	盛岡ヘアメイク専門学校	25
10/16	盛岡ヘアメイク専門学校	盛岡ヘアメイク専門学校	18
12/11	北日本医療福祉専門学校	北日本医療福祉専門学校	7



1/24	日本赤十字社岩手県支部	日本赤十字社岩手県支部	25
1/27	日本赤十字社岩手県支部	紫波町総合体育館	9
1/28	岩手県バス協会	岩手県自動車会館	18
2/18	岩手県バス協会	岩手県自動車会館	29
2/22	日本赤十字社岩手県支部	奥州市水沢地区センター	5
2/27	岩手県バス協会	岩手県自動車会館	20
2/27	盛岡赤十字病院	日本赤十字社岩手県支部	10
救急法基礎講習 25 回			402

救急法救急員養成講習

(単位:人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
4/27～ 28	日本赤十字社岩手県支部	矢巾町保健福祉センター	10
5/21～23	岩手県警察学校	岩手県警察学校	40
5/25～26	日本赤十字社岩手県支部	日本赤十字社岩手県支部	17
6/22～23	日赤大槌町分区	大槌町城山公園体育館	4
7/2～4	岩手県警察学校	岩手県警察学校	36
7/11～12	(株)東京電波	(株)東京電波	9
7/30～31	盛岡社会福祉専門学校	盛岡社会福祉専門学校	16
9/7～8	日本赤十字社岩手県支部	日本赤十字社岩手県支部	20
9/28～29	日本赤十字社岩手県支部	矢巾町保健福祉センター	7
12/12～13	北日本医療福祉専門学校	北日本医療福祉専門学校	7
1/25～26	日本赤十字社岩手県支部	日本赤十字社岩手県支部	14
2/27～28	盛岡赤十字病院	日本赤十字社岩手県支部	10
救急法救急員養成講習 12 回			190

救急法短期講習

(単位:人)

開催日	実施主体	会場	受講数
4/6	日本赤十字社岩手県支部	天昌寺保育園	23
4/16	日本赤十字社岩手県支部	岩手県警察学校	24
5/8	日本赤十字社岩手県支部	岩手県警察学校	20
5/9	岩手県教育委員会	岩手県立総合教育センター	27
5/10	県立盛岡みたけ支援学校高等部	県立盛岡みたけ支援学校	20
5/15	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	59
5/16	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	39
5/16	盛岡赤十字病院	盛岡赤十字病院	47
5/19	盛岡市ボート協会	御所湖漕艇場	28
5/26	国立岩手山青少年交流の家	国立岩手山青少年交流の家	72
5/29	盛岡市立城南小学校	盛岡市立城南小学校	33
6/3	県立釜石高校	県立釜石高校	176

6/6	日本赤十字社岩手県支部	紫波町立長岡小学校	25
6/6	県立盛岡みたけ支援学校小中学部	県立盛岡みたけ支援学校	50
6/10	県立不来方高校	県立不来方高校	16
6/10	県立宮古商業高校	県立宮古商業高校	16
6/15	日本赤十字社岩手県支部	老人介護事業所 ドルチェふれあいサロン茶愛	7
6/16	日本赤十字社岩手県支部	盛岡市見前ニュータウン集会所	16
6/19	日本赤十字社岩手県支部	盛岡東警察署	30
6/22	(株) いんべ	(株) いんべ本社	24
6/23	矢巾町立煙山小学校	矢巾町立煙山小学校	70
6/24	県立盛岡聴覚支援学校	県立盛岡聴覚支援学校	40
6/25	日本赤十字社岩手県支部	盛岡赤十字病院	9
6/26	岩手県警察本部交通部運転免許課	国立岩手山青少年交流の家	41
6/27	日赤宮古市地区	イーストピアみやこ 市民交流センター	15
6/27	日赤二戸市地区	二戸市立御返地小学校	11
6/27	岩手県指定自動車教習所協会	国立岩手山青少年交流の家	37
6/28	岩手県指定自動車教習所協会	国立岩手山青少年交流の家	37
6/28	日本赤十字社岩手県支部	紫波町古館公民館	17
6/29	岩手県指定自動車教習所協会	国立岩手山青少年交流の家	37
6/29	矢巾町立徳田小学校	矢巾町立徳田小学校	40
7/1	日本赤十字社岩手県支部	富士大学	40
7/4	盛岡市立中野小学校	盛岡市立中野小学校	30
7/9	八幡平市立松尾中学校	八幡平市立松尾中学校	53
7/10	八幡平市立松尾中学校	八幡平市立松尾中学校	36
7/10	日本赤十字社岩手県支部	盛岡赤十字病院	20
7/12	盛岡市立好摩小学校	盛岡市立好摩小学校	20
7/18	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	60
7/19	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	19
7/24	盛岡市立東松園小学校	盛岡市立東松園小学校	12
7/26	日本赤十字社岩手県支部	大船渡市 MAC スイミングスクール	8
7/29	釜石市立双葉小学校	釜石市立双葉小学校	15
7/30	日本赤十字社岩手県支部	国立岩手山青少年交流の家	109
8/1	滝沢市教育研究会	滝沢市立中央小学校	13
8/1	県立盛岡聴覚支援学校	県立盛岡聴覚支援学校	13
8/8	日赤岩手県支部・チームもりおか	盛岡赤十字病院	11
8/22	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	60
8/23	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	38
8/28	岩手県社会福祉協議会	ふれあいランド岩手	28

8/31	日赤一関市地区	一関市民センターなのはなプラザ	16
9/5	日本赤十字社岩手県支部	天昌寺保育園	6
9/9	日本赤十字社岩手県支部	国際医療福祉専門学校	25
9/9	盛岡赤十字病院	正面ホール・医療社会事業部	41
9/10	盛岡赤十字病院	正面ホール・医療社会事業部	38
9/11	盛岡赤十字病院	正面ホール・医療社会事業部	26
9/11	日赤盛岡市地区	盛岡市総合福祉センター	17
9/12	盛岡赤十字病院	正面ホール・医療社会事業部	21
9/22	ひまわりの会	盛岡市総合福祉センター	12
9/24	ヒロセ東北（株）岩手支店	ヒロセ東北（株）岩手支店	7
10/2	県立山田高校	県立山田高校	123
10/3	日赤岩手県支部・チームもりおか	盛岡赤十字病院	18
10/6	日赤大船渡市地区	福祉の里センター交流広場	20
10/11	盛岡みたけ支援学校 研修部	滝沢市かつらぎ集会所	15
10/19	日本赤十字社岩手県支部	盛岡市立総合プール会議室	20
10/19	日本赤十字社岩手県支部	岩手大学不来方祭	5
10/20	日本赤十字社岩手県支部	岩手大学不来方祭	15
10/20	日赤矢巾町分区	矢巾町秋祭り（役場特設会場）	20
10/28	県立盛岡南高校	県立盛岡南高校	713
11/10	日本赤十字社岩手県支部	大槌町文化交流センター	10
11/12	日本赤十字社岩手県支部	津志田保育園	10
11/12	岩手県社会福祉協議会	岩手県社会福祉協議会	109
11/14	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	60
11/15	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	40
11/15	日本赤十字社岩手県支部	津志田保育園	10
11/17	盛岡市スキー協会	盛岡市土淵地区活動センター	28
11/18	日本赤十字社岩手県支部	津志田保育園	10
11/27	日本赤十字社岩手県支部	盛岡東警察署	15
11/30	特定非営利活動法人 盛岡 YMCA	日本基督教団 内丸教会	32
12/3	国立岩手大学	国立岩手大学	85
12/4	盛岡市立仙北中学校	盛岡市立仙北中学校	250
12/5	盛岡市立仙北中学校	盛岡市立仙北中学校	197
12/6	盛岡市立仙北中学校	盛岡市立仙北中学校	190
12/7	YKK AP 株式会社	花巻温泉ホテル花巻	60
12/7	日本ボーイスカウト岩手連盟	盛岡市三ツ割住民センター	18
12/8	日本ボーイスカウト岩手連盟	盛岡市三ツ割住民センター	18
12/9	岩手県社会福祉協議会	岩手県社会福祉協議会	96
12/17	国立岩手大学	国立岩手大学	85

1/23	日本赤十字社岩手県支部	県警察本部機動隊	33
1/29	日本赤十字社岩手県支部	花巻警察署	15
2/5	日本赤十字社岩手県支部	花巻警察署	11
2/9	日本赤十字社岩手県支部	盛岡市立総合プール	45
2/12	県立不来方高校	県立不来方高校	45
2/12	日赤花巻地区奉仕団	花巻市保健センター	26
2/13	日本赤十字社岩手県支部	高速道路交通課西根分駐隊	8
2/17	県立大船渡高校	県立大船渡高校	160
2/19	日本赤十字社岩手県支部	岩手警察署	12
2/20	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	60
2/20	株式会社オガール	オガール	10
2/20	日本赤十字社岩手県支部	矢巾町立矢巾中学校	8
2/21	日本赤十字社岩手県支部	矢巾町立矢巾中学校	8
2/21	岩手労働基準協会	岩手労働基準協会	40
2/22	岩手森林再生組合	盛岡市上田公民館	25
2/25	県立盛岡第二高校	県立盛岡第二高校	119
2/26	県立盛岡第二高校	県立盛岡第二高校	80
2/26	日本赤十字社岩手県支部	県警察本部機動隊	10
3/4	日本赤十字社岩手県支部	盛岡東警察署	10
救急法短期講習 106 回			4,897

#### 救急法指導員養成講習

(単位:人)

開催日		実施主体	会 場	受講者数	認定者数
事前	10/5～6	日本赤十字社 岩手県支部	日本赤十字社 岩手県支部	17	15
研修	11/29～12/1 12/14～15				
事後	2/11				

## (2) 水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、応急手当などの知識と技術を指導するもので、水上安全法救助員Ⅰ・Ⅱ養成講習、その一部を短時間でを行う短期講習を実施した。



水上安全法救助員Ⅰ養成講習の様子

#### 水上安全法救助員Ⅰ養成講習

(単位:人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
8/10～12	日本赤十字社岩手県支部	盛岡市立総合プール	8
水上安全法救助員Ⅰ養成講習 1 回			8

## 水上安全法救助員Ⅱ養成講習

(単位:人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
8/23～25	日本赤十字社岩手県支部	宮古市磯鶏公民館・ 宮古市藤の川海水浴場	6
水上安全法救助員Ⅱ養成講習 1 回			6

## 水上安全法短期講習

(単位:人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
6/7	県立盛岡視覚支援学校	県立盛岡視覚支援学校	30
6/15	盛岡市立青山小学校	盛岡市立青山小学校	40
6/18	岩手県スポーツ振興課	盛岡市立総合プール	23
6/19	八幡平市体育協会	八幡平市松尾 コミュニティセンター	23
6/28	岩手大学教育学部附属特別支援 学校	岩手大学教育学部附属特別支援 学校	30
7/5	奥州市立水沢小学校	奥州市立水沢小学校	16
7/6	滝沢市立滝沢東小学校	滝沢市立滝沢東小学校	56
7/8	雫石町社会福祉協議会	雫石町社会福祉協議会	12
7/8	盛岡市立太田東小学校	盛岡市立太田東小学校	100
7/17	滝沢市立滝沢東小学校	滝沢市立滝沢東小学校	153
7/18	紫波町立片寄小学校	紫波町立片寄小学校	10
7/18	盛岡市立都南東小学校	盛岡市立都南東小学校	30
7/19	日本赤十字岩手県支部	盛岡市立土淵小・中学校	20
7/19	滝沢市立滝沢第二小学校	滝沢市立滝沢第二小学校	60
7/19	日赤二戸市地区	二戸市立中央小学校	40
7/22	矢巾町立矢巾東小学校	矢巾町立矢巾東小学校	80
7/22	八幡平市立田山小学校	八幡平市立田山小学校	20
7/24	奥州市立黒石小学校	奥州市立黒石小学校	17
8/30	矢巾町立不動小学校	矢巾町立不動小学校	36
8/30	遠野市立青笹小学校	遠野市立青笹小学校	63
8/30	日本赤十字岩手県支部	岩手町立沼宮内小学校	87
9/4	奥州市立胆沢第一小学校	奥州市立胆沢第一小学校	53
9/10	遠野市立土淵小学校	遠野市立土淵小学校	70
10/1	日本赤十字岩手県支部	JSS あおやまスイミングスクール	3
水上安全法短期講習 24 回			1,072

### (3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすための介護・支援の知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合うボランティアの心を育み、赤十字活動に積極的に参加してもらうことを目的とした講習で、健康生活支援員養成講習と、一部を短時間で行う短期講習を実施した。

また、「災害時高齢者生活支援講習」を短期講習として実施した。



健康生活支援講習の様子

#### 健康生活支援員養成講習

(単位：人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
6/20～21	日本赤十字岩手県支部	日本赤十字岩手県支部	2
9/9～10	日赤奥州市地区	奥州市総合福祉センター	11
10/25～26	日本赤十字岩手県支部	日本赤十字岩手県支部	4
健康生活支援講習支援員養成講習 3回			17

#### 健康生活支援講習短期講習

(単位：人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
5/1	日赤八幡平市地区	八幡平市役所	25
5/29	日赤千厩奉仕団	日赤千厩支所	30
5/30	日赤盛岡市地区有功会	盛岡市総合福祉センター	23
7/3	岩手県有功会連合会	日本赤十字社岩手県支部	28
8/8	日赤岩手県支部・チームもりおか	盛岡赤十字病院	11
9/5	日赤田野畑村分区	アズビイ楽習センター	10
11/11	日赤花巻市地区有功会	東和温泉	26
12/5	日赤岩手県支部・チームもりおか	盛岡赤十字病院	12
2/16	消防団員等公務災害補償共済基金	陸中釜石グランドホテル	78
健康生活支援講習短期講習 9回			243

#### 健康生活支援講習短期講習（災害時高齢者生活支援講習）

(単位：人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
7/8	ひまわりの会認知症カフェ	盛岡市総合福祉センター	12
7/23	日赤滝沢市地区	岩手県立大学	120
8/3	日赤久慈市地区	慈光寺	46
8/7	日赤盛岡市地区	盛岡市渋民公民館	26
10/3	日赤岩手県支部・チームもりおか	盛岡赤十字病院	18
11/15	県立大船渡高校	県立大船渡高校	12
11/19	一関市東山赤十字奉仕団	日本赤十字社岩手県支部	35



12/3	日赤大船渡市地区	大船渡市総合福祉センター	13
1/17	八幡平市社会福祉協議会	八幡平市西根地区市民センター	74
2/6	日赤岩手県支部・チームもりおか	盛岡赤十字病院	18
健康生活支援講習短期講習 10回			374

#### (4) 幼児安全法

幼児期に起こりやすい事故の予防及び手当ての実際、かかりやすい病気と看病の仕方などの知識と技術を指導するもので、幼児安全法支援員養成講習とその一部を短時間でを行う短期講習を実施した。



幼児安全法の様子

##### 幼児安全法支援員養成講習

(単位：人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
5/23～24	日本赤十字岩手県支部	日本赤十字岩手県支部	19
8/3～4	盛岡医療福祉専門学校	盛岡医療福祉専門学校	29
8/19～20	盛岡医療福祉専門学校	盛岡医療福祉専門学校	13
9/20～21	日本赤十字岩手県支部	日本赤十字岩手県支部	21
1/14～15	盛岡医療福祉専門学校	盛岡医療福祉専門学校	32
幼児安全法支援員養成講習 5回			114

##### 幼児安全法短期講習

(単位：人)

開催日	実施主体	会 場	受講者数
4/17	日赤矢巾町分区	矢巾町さわやかハウス	17
5/15	宮古市社会福祉協議会	宮古市総合福祉センター	11
5/22	日赤岩手乳児院	日赤岩手乳児院	14
6/4	日赤釜石市地区	カリタス釜石	25
6/6	本宮保育園	本宮保育園	12
6/7	盛岡市ファミリーサポートセンター	盛岡市総合福祉センター	11
6/7	日本赤十字岩手県支部	花巻まなび学園	15
6/14	日本赤十字岩手県支部	ニチイキッズ北上本通り保育園	4
6/21	奥州市立玉里保育所	奥州市立玉里保育所	20
6/27	ぎんがの里保育園	ぎんがの里保育園	20
7/4	日赤二戸市地区	二戸市総合福祉センター	14
7/7	コープ共済連	盛岡市立大慈寺児童センター	20
7/7	日本赤十字岩手県支部	第二若葉保育園	10
7/12	盛岡大学	盛岡大学	44

7/13	コープ共済連	奥州市水沢南公民館	16
7/16	岩手大学教育学部付属幼稚園	岩手大学教育学部付属幼稚園	40
7/19	巣子保育園	巣子保育園	12
7/25	巣子保育園	巣子保育園	11
8/9	日本赤十字岩手県支部	キャトル宮古	14
8/20	岩手大学教育学部付属幼稚園	岩手大学教育学部付属幼稚園	9
8/21	岩手子育てネット	リリオ	6
9/3	きらきらぼし	きらきらぼし	14
9/5	日赤二戸市地区	二戸市総合福祉センター	15
9/8	日赤大船渡市地区	大船渡市防災観光交流センター	20
9/13	盛岡赤十字病院	盛岡赤十字病院	15
9/30	五藤光学研究所	子ども科学館	25
10/4	花巻市ファミリーサポートセンター	花巻まなび学園	16
10/10	青少年赤十字岩手県指導者協議会	日本赤十字社岩手県支部	14
10/10	わんぱく保育園	わんぱく保育園	7
11/2	日本赤十字岩手県支部	田代児童館	17
11/12	コープ共済連	一関菜の花プラザ	7
11/15	田野畑村教育委員会	田野畑村地域子育て支援センター	9
11/16	コープ共済連	仙北地区活動センター	14
11/27	日本赤十字岩手県支部	ニチイキッズ北上本通り保育園	4
11/29	全国子育てタクシー協会	奥州市鋳物技術交流センター	11
12/4	日赤花巻市地区	花巻市生涯学園都市会館	20
12/12	日赤釜石市地区	かまいしこども園	12
12/18	聖光保育園	聖光保育園	15
12/19	聖光保育園	聖光保育園	15
12/23	日本赤十字岩手県支部	小山田保育所	9
1/8	日赤二戸市地区	二戸市総合福祉センター	4
1/15	日本赤十字岩手県支部	小山田保育所	11
1/16	日本赤十字岩手県支部	宮古市社会福祉協議会	7
2/19	日赤矢巾町分区	さわやかハウス	21
幼児安全法短期講習 44 回			647



幼児安全法指導員養成講習

(単位:人)

開催日		実施主体	会 場	受講者数	認定者数
事前	12/21	日本赤十字社 岩手県支部	日本赤十字社 岩手県支部	7	6
研修	1/17～1/19 2/1～2				
事後	未定				

※事後（新任）研修は、コロナウィルス感染症対策のため、開催未定。

指導員研修

(単位:人)

開催日		実施主体	会 場	参加者数
救急法	3/9	日本赤十字社	日本赤十字社	63
	4/20	岩手県支部	岩手県支部	12
水上安全法	3/21	日本赤十字社	日本赤十字社	16
	5/15	岩手県支部	岩手県支部	3
健康生活 支援講習	5/18	日本赤十字社 岩手県支部	日本赤十字社 岩手県支部	12
幼児安全法	5/18	日本赤十字社 岩手県支部	日本赤十字社 岩手県支部	28

※救急法・水上安全法指導員研修は、教本改訂のため、前年度にも今年度の研修として開催。

(5) 各種講習の指導員在籍状況

(単位:人)

所 属	救急法	水上安全法	健康生活支援	幼児安全法	雪上安全法
支 部	7	1	1	2	1
赤 十 字 病 院	17	0	10	12	0
血液センター	2	1	0	0	0
乳 児 院	2	1	0	1	0
日 赤 鶯 鳴 荘	1	1	0	0	0
ボランティア	66	13	7	23	0
合 計	95	17	18	38	1

(令和2年3月31日現在)



救急法指導員養成講習の様子



幼児安全法指導員研修の様子

## 6 有功会の育成及び活動

赤十字思想の普及や活動資金増強等、赤十字事業の推進に大きな役割を担っている支部有功会連合会及び地区分区有功会の活動が円滑に展開されるよう、地区分区有功会総会に出席するなど支援に努めた。

### 岩手県支部有功会連合会

有功会名	会 長 名	加盟数	設置年月日	備 考
県支部有功会連合会	守 谷 祐 志	18	昭和63年3月14日	

### 地区分区有功会名簿

(令和2年3月31日現在)

有功会名	会 長 名	会員数	設置年月日	備 考
1 盛 岡 市 地 区	守 谷 祐 志	100	昭和62年10月26日	旧都南村分区有功会(S47.6.14 結成・H4.4合併)
2 遠 野 市 地 区	佐々木 達郎	149	昭和51年4月19日	
3 奥 州 市 地 区	佐 藤 克 夫	42	平成18年7月24日	
4 北 上 市 地 区	高 橋 祥 元	130	昭和55年2月1日	
5 一 関 地 区	高 橋 仁 省	11	昭和59年4月18日	
6 二 戸 地 区	山 崎 雄 一	12	昭和60年10月18日	
7 宮 古 地 区	——	—	昭和61年8月28日	休会 (H18.4.1)
8 陸 前 高 田 市 地 区	遠 藤 勝 博	27	昭和62年1月24日	
9 大 船 渡 市 地 区	橋 爪 幸 平	164	昭和63年11月21日	
10 花 巻 市 地 区	齊 藤 洋 美	71	平成1年3月29日	
11 北上地区西和賀町分区	——	—	平成1年12月7日	休会 (H29.9.22)
12 久 慈 地 区	荒 谷 弘	38	平成2年11月20日	
13 盛岡地区葛巻町分区	——	—	平成3年3月25日	休会 (H28.5.19)
14 盛岡地区雫石町分区	——	—	平成3年5月29日	活動休止 (H20.6.5)
15 大船渡地区住田町分区	——	—	平成5年3月8日	活動休止 (H20.4.1)
16 釜石地区大槌町分区	——	—	平成7年3月28日	活動休止 (H29.4.1)
17 釜 石 市 地 区	——	—	平成8年6月25日	活動休止 (H20.6.20)
18 二 戸 市 地 区	國 分 敏 彦	32	平成10年11月6日	
計 18		776		

# 令和元年度地区分区有功会活動状況

(令和2年3月31日現在)

○印は活動実績あり、人数、回数は報告のあった延べの数である。

地区・分 区名	会員数 (人)	活 動 状 況							研修・ 講習 (人)	総会・役員会	
		社員増強 活動	募金活動	他有功会 との交流	地域福祉 活動	献血活動	他団体主催 会議協力	その他		回数	参加 人員
盛岡市	100		○				○		37	2	30
遠野市	149	○	○			○			16	3	27
奥州市	42	○	○			○		○	36	3	45
北上市	130	○	○			○	○	○			
一関	11		○			○				1	2
二戸	12							○		1	11
宮古	-										
陸前高田市	27					○				2	9
大船渡市	164	○	○			○				3	41
花巻市	71	○	○	○		○	○	○	24	3	33
西和賀町	-										
久慈	38									3	13
葛巻町	-										
雫石町	-										
住田町	-										
大槌町	-										
釜石市	-										
二戸市	32		○			○		○		3	27
合 計	776	5	8	1	0	8	2	5	113	24	238



(有功会連合会総会)



(有功会連合会研修会)

## 7 赤十字奉仕団の育成及び活動

赤十字奉仕団は、人道的活動を実践する奉仕者の組織で、市町村の区域ごとに設けられた地域赤十字奉仕団と専門技術を活かした特殊赤十字奉仕団、学生で組織する青年赤十字奉仕団が結成されている。

奉仕団の活動は、赤十字思想の普及、活動資金募集活動、災害時の炊き出しや救護訓練への参加、献血への呼びかけなどのほか、地域の実情に合わせた福祉活動や奉仕団の特色を活かした活動を展開している。

奉仕団による東日本大震災等の災害被災者への支援活動として、ふれあい交流会を実施。現在も継続して行っている。

### 赤十字奉仕団結成状況

#### (1) 地域奉仕団

令和2年3月31日現在

名 称	委 員 長	団 員 数			結成年月日
		男	女	計	
盛岡市赤十字奉仕団	柴崎一恵	7	17	24	S23.6.1
宮古市赤十字奉仕団	金丸久子	2	27	29	H7.12.22
大船渡市赤十字奉仕団	中村和司	7	20	27	S58.7.10
花巻市花巻地区赤十字奉仕団	木村博	2	22	24	S54.4.16
花巻市大迫地区赤十字奉仕団	佐々木偉夫	8	9	17	S50.3.22
花巻市石鳥谷地区赤十字奉仕団	南館唱子	0	30	30	S57.12.13
花巻市東和地区赤十字奉仕団	伊藤穂子	4	15	19	S54.6.16
北上市赤十字奉仕団	石崎昭江	0	29	29	S61.7.26
久慈市赤十字奉仕団	畑村由夫	9	19	28	S58.8.30
遠野市赤十字奉仕団	海老糸子	0	85	85	S63.3.30
一関市一関赤十字奉仕団	吉川眞理子	8	80	88	S39.2.4
一関市花泉赤十字奉仕団	佐藤みさ子	18	35	53	H8.3.11
一関市大東赤十字奉仕団	増沢純	5	39	44	S60.4.7
一関市千厩赤十字奉仕団	五嶋秋子	18	56	74	H6.3.25
一関市東山赤十字奉仕団	岡崎ノリコ	0	84	84	H1.3.23
一関市室根赤十字奉仕団	小山友子	0	27	27	S60.8.2
一関市川崎赤十字奉仕団	三浦千代子	5	18	23	H7.2.9
陸前高田市赤十字奉仕団	菅野トシ子	2	14	16	S61.5.8
釜石市赤十字奉仕団	中川カヨ子	1	16	17	S57.9.13
二戸市赤十字奉仕団	田口和子	16	47	63	H4.7.8
八幡平市赤十字奉仕団	佐々木幸雄	19	22	41	H19.3.11
奥州市水沢赤十字奉仕団	菅原宏幸	2	1	3	S53.4.1
雫石町赤十字奉仕団	中川眞理子	0	48	48	H7.2.2
矢巾町赤十字奉仕団	川原久子	14	59	73	S60.1.22
西和賀町赤十字奉仕団	照井満	29	45	74	H8.3.31
金ヶ崎町赤十字奉仕団	氏家富士子	7	31	38	H5.3.8
大槌町赤十字奉仕団	堀合成子	0	14	14	H8.11.10
岩泉町赤十字奉仕団	志和謙一	13	17	30	H2.2.20
田野畑村赤十字奉仕団	上村牧子	0	13	13	H3.2.18
野田村赤十字奉仕団	平谷東英	11	4	15	H6.3.29
洋野町赤十字奉仕団	猪石悦男	7	7	14	H6.3.29
九戸村赤十字奉仕団	若山秀一	9	13	22	H4.2.15
計 32団		223	963	1,186	

## (2) 青年奉仕団

名 称	委 員 長	団 員 数			結成年月日
		男	女	計	
岩手大学学生赤十字奉仕団	和田 将典	11	6	17	H21.7.1
イーハトーブ学生赤十字奉仕団	松原 悠	4	3	7	H21.7.18
岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字奉仕団	梨子木 蘭	15	39	54	H24.6.6
計 3団		30	48	78	

## (3) 特殊奉仕団

名 称	委 員 長	団 員 数			結成年月日
		男	女	計	
岩手県アマチュア無線赤十字奉仕団	中村 昌司	20	0	20	S45.12.6
岩手県赤十字水上安全法奉仕団	高瀬 一行	15	2	17	S53.4.1
岩手県赤十字安全奉仕団	木村 博	40	41	81	S55.11.20
岩手県青少年赤十字賛助奉仕団	佐々木 壮一	56	7	63	H14.7.25
日赤釜石市地区赤十字安全奉仕団	佐々 隆裕	4	5	9	S42.7.22
久慈ライフセービング赤十字奉仕団	久慈 剛史	35	3	38	H13.2.1
胆沢スキーパトロール赤十字奉仕団	菅原 基治	24	2	26	S60.7.20
むろね山岳赤十字奉仕団	小山 一成	13	0	13	S58.12.20
大船渡ライフセービング赤十字奉仕団	(休 団)	0	0	0	H16.4.1
岩手県赤十字バイク奉仕団	田中 清也	97	4	101	H18.2.2
岩手県赤十字ライフセービング奉仕団	伊藤 真悟	10	6	16	H18.7.1
山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団	上野 祐一	14	3	17	H18.10.1
岩手県柔道整復師会赤十字奉仕団	及川 磨	149	2	151	H20.11.15
岩手県ノルディックウォーキング赤十字奉仕団	太田 正孝	5	6	11	H24.5.10
計 14団		482	81	563	

## (4) 奉仕団種別数及び合計団員数

種 別	団 数	団員数	男	女
地域奉仕団	32	1,186	223	963
青年奉仕団	3	78	30	48
特殊奉仕団	14	563	482	81
合 計	49	1,827	735	1,092

## (5) モデル奉仕団指定

- ・平成29年度指定 金ヶ崎町赤十字奉仕団
- ・平成30年度指定 大船渡市赤十字奉仕団
- ・令和元年度指定 一関市東山赤十字奉仕団



## 赤 十 字 奉 仕 団 事 業 内 容

### (1)本社主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
青年赤十字奉仕団 全国協議会	4/20～21	日本赤十字社 本社	新規団員のリクルートについて、 他団体との交流について、全国 協議会の役割について、協議・ 照会事項など	岩大学奉 委員長 和田 将典
赤十字奉仕団中央委員 会	5/30～5/31	日本赤十字社 本社	各ブロック赤十字奉仕団委員長会議 等の報告、日本赤十字社事業計画・ 長期ビジョンについて、地域共生社 会の実現に向けた地域づくり、活動 資金募集事例発表など	赤十字奉仕団岩 手県支部委員会 委員長 増沢 純
全国青少年赤十字賛助奉 仕団協議会総会	7/9～10	日本赤十字社 本社	平成30年度事業報告・会計報告、役 員改選、令和元年度事業計画・予算 など	岩手県青少年赤 十字賛助奉仕団 委員長 佐々木 壮一
赤十字ボランティア・ リーダー研修会（地域・ 特殊・青年赤十字奉仕団 対象）	8/24～26	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター（東京都）	赤十字の基本方針と奉仕団活動、 赤十字について、赤十字奉仕団に ついて、地域ニーズを捉える、活動 計画書作成 など	一関市千厩奉 委員長 五嶋 秋子 岩大学奉 阿部 光希
赤十字奉仕団中央委員 会常任委員会	12/4	日本赤十字社 本社	令和2年度中央委員会についてな ど	赤十字奉仕団岩 手県支部委員会 委員長 増沢 純

### (2)ブロック主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
青年赤十字奉仕団第1 ブロック協議会	6/1～2	ホテルパールシ ティ盛岡	全国協議会参加報告について、 第1ブロック統一キャンペーンに ついて、協議事項・照会事項に ついてなど	岩大学奉 和田 将典、 三浦 綾華 イーハトーブ学奉 松原 悠、 附田 拓弥 県大宮古短大学 奉 梨子木 蘭、 外館 亜美
赤十字奉仕団第1ブ ロック委員長会議	中止		台風第19号災害対応のため延 期し、その後、開催が調整できず 中止	
青年赤十字奉仕団第1 ブロック協議会統一 キャンペーン	10/26～27	南相馬市復興公 営団地（福島県）	福島県南相馬市の被災された 方々との交流など	岩大学奉 和田 将典、 武石 瑞季、 三橋 嵯絵

### (3)支部主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
青年赤十字奉仕団岩手 県支部協議会	4/27	日本赤十字社 岩手県支部	令和元年度役員について、青 年赤十字奉仕団第1ブロック協 議会役割について、第1ブロッ ク統一キャンペーンについて など	岩大学奉 和田 将典 イーハトーブ学 奉 松原 悠 県立大宮古短大 学奉（顧問） 田中 宣廣
赤十字奉仕団岩手県支 部委員会			新型コロナウイルス感染拡大 の影響により中止	
赤十字奉仕団委員長・ 事務担当者会議			新型コロナウイルス感染拡大 の影響により中止	

## 8 青少年赤十字の育成及び活動

将来を担う青少年が赤十字の精神を正しく理解し、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、登録式等学校教育活動のなかで青少年赤十字の活動を促進した。

また、指導者を養成するため、各種研修への教員の派遣、小・中学生及び高校生を対象としたリーダーシップ・トレーニング・センター等を開催し、リーダーの育成に努めた。

### 青少年赤十字事業内容

#### (1) 本社主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会	5月24日 ～26日	日赤本社	青少年育成事業についての理解を促進し、県支部において青少年赤十字活動の指導・推進を行う指導者を育成する。	日本赤十字社岩手県支部 主 事 及川 愛摘
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	6月24日 ～25日	日赤本社	各県指導者協議会長による諸問題について協議する。	盛岡市立城南小学校 校 長 荒川 享司
青少年赤十字中央研修会	11月23日	日赤本社	青少年赤十字活動を推進する指導者が、赤十字と青少年育成事業について理解を深め、教育現場のニーズに即し、学校が抱える課題を解決するための一助となるような育成手法・プログラムを検討し、今後の青少年赤十字のさらなる普及活動を行う。	滝沢市立滝沢中央小学校 指導教諭 紺野 潤子 大船渡市立大船渡中学校 教 諭 及川 啓太
青少年赤十字研究会	2年 1月9日	日赤本社	青少年赤十字活動を推進している意図やその意義を、学校教育行政関係者に正しく理解していただく。	盛岡教育事務所 指導主事 齋藤 智彦
青少年赤十字スター・センター	中止		新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止	

#### (2) ブロック主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
第1ブロック青少年赤十字指導者研究会	10月30日 ～3日	福島県支部	望ましい人格形成に資するための方法について情報交換をし、今後の活動の推進に資するものである。	日本赤十字社岩手県支部 主事 及川 愛摘 嘱託 小向 和秀



(3) 支部主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター (小・中・高校生)	7月29日～ 7月31日	国立岩手山 青少年交流 の家	集団宿泊体験を通して人道・博愛の精神と奉仕活動を学び、学校におけるリーダーとしての資質向上を図る	小学生 62名 中学生 29名 高校生 17名 スタッフ・講師等20名
岩手県青少年赤十字指導者研修会	7月29日～ 7月31日	国立岩手山 青少年交流 の家	青少年赤十字を学校教育に生かし、活動内容及び方法等を協議し教育の向上に資する	小学校教員 4名 中学校教員 1名 高校教員 0名
こども赤十字活動研究会	10月10日	日本赤十字社岩手県支部	幼稚園、保育所におけるこども赤十字活動等について情報交換しながら、指導の在り方を共に考え活動を推進する  JRC賛助奉仕団理事 坂本信行氏 幼児安全法指導員 八重樫京子氏	幼・保教職員 12名
青少年赤十字活動事例発表研究会	11月18日	サンセール盛岡	実践活動の在り方を研究推進校の事例発表をもとに研究協議し、活動内容の充実・発展を図り学校教育に寄与する事例発表  ・滝沢市立滝沢第二小学校 教 諭 小野寺 結 ・大船渡市立大船渡中学校 教 諭 及川 啓太 ・岩手県立宮古商業高等学校 養護教諭 長岡 千咲	参加者 80名 賛助奉仕団20名を含む  表彰関係 受章校 4校 受章者 2名 奉仕団 0名



(トレセン：健康安全プログラム)



(トレセン：フィールドワーク)

(4) 研究推進指定校

指定年度	学 校 名	研 究 主 題
平成30年～令和元年度	滝沢市立滝沢第二小学校	豊かで思いやりのある児童の育成 ～進んで実践行動ができるボランティア活動を通して～
令和元年～2年度	大船渡市立大船渡中学校	生徒一人一人が主体的に取り組むJRC活動 ～「気づき、考え、実行する」の輪を広げる活動を通して～
令和元年～2年度	岩手県立宮古商業高等学校	「宮古商業高等学校JRC活動について」 ～地域の笑顔に寄り添う活動を目指す～



# 令和元年度 青少年赤十字加盟状況

◎新規加盟校 令和2年3月31日

地区区分	校数	メンバー数	校種	校数	メンバー数	加 盟 校				
盛岡市	44	12,248	幼稚園・こども園	6	508	太田水道橋くるみ	なでしこ	盛岡	都南	
			小学校	26	9,211	好摩				
						青山太田	太田東	河北	厨川	
						好摩桜城	山王	洪民	城南	
						仙北大慈寺	月が丘	繋	手代森	
						都南東杜陵	中野	東松園	松園	
						緑が丘見前	見前南	向中野	本宮	
						山岸				
釜石市	2	341	中学校	6	1,692	下橋城東	仙北	繋	見前	
			高等学校	3	747	米内				
			特別支援	3	90	岩手女子盛岡二高	盛岡南			
宮古市	3	307	幼稚園・こども園	2	141	盛岡聴覚支援盛岡青松	岩大附属特別支援			
			小学校	1	318	小佐野				
			高等学校	1	23	釜石商工				
			中学校	1	44	宮古商業				
一関市	3	172	高等学校	1	11	宮古商業				
			幼稚園・こども園	2	141	千厩小羊花泉				
			高等学校	1	31	一関二高				
大船渡市	18	2,047	保育所	3	160	赤崎末崎	明和			
			小学校	8	1,174	猪川大船渡	大船渡北	盛	立根	
			中学校	5	684	末崎吉浜	綾里			
			高等学校	2	29	赤崎大船渡	越喜来	第一中	末崎	
奥州市	12	786	幼稚園・こども園	2	57	大船渡〃定時制				
			保育所	6	136	駒形稲瀬わかば				
			中学校	1	524	江刺南もみじ	梁川	広瀬	玉里	
			高等学校	3	69	田原				
花巻市	10	740	保育所	4	70	江刺第一				
			中学校	3	629	岩谷堂	前沢	水沢		
			高等学校	3	41	太田西公園	宮野目	湯口		
北上市	10	758	保育所	7	482	大迫花巻北	矢沢			
			中学校	1	217	大迫花巻東	花巻南			
			高等学校	2	59	江釣子大通り	口内	鳩岡崎	二子	
			保育所	7	482	南横川目				
久慈市	2	503	小学校	1	84	和賀東				
			中学校	1	419	北上翔南	専大北上			
遠野市	14	1,771	小学校	11	1,129	大川目				
			中学校	3	642	久慈				
			高等学校	1	13	青笹綾織	小友	上郷	附馬牛	
陸前高田市	6	355	保育所	2	101	土淵遠野	遠野北	宮守	鱒沢	
			小学校	3	241	達曾部				
			高等学校	1	13	遠野西	遠野東			
二戸市	8	1,578	保育所	2	101	小友気仙				
			小学校	3	241	小友竹駒	広田			
			高等学校	1	13	高田				
八幡平市	15	1,499	保育所	1	16	石切所	金田一	浄法寺	中央	仁左平
			小学校	10	950	福岡				
			中学校	4	533	浄法寺	福岡			
八幡平市	15	1,499	保育所	1	16	畑保育園				
			小学校	10	950	安代田	大更	柏台	平舘	田山
			中学校	4	533	安代西	根	西根第一	松尾	木

地区区分	校数	メンバー数	校種	校数	メンバー数	加 盟 校			
滝 沢 市	10	4,051	幼稚園・こども園	2	461	つばめ	ふじなでしこ		
			小 学 校	7	3,197	一本木	鵜飼	篠木	滝沢第二
						滝沢中央	滝沢東		
			中 学 校	1	393	滝沢第二			
雫石町	2	397	小 学 校	2	397	御所	雫石		
葛巻町	1	110	小 学 校	1	110	葛巻			
岩手町	5	747	小 学 校	3	478	一方井	川口	沼宮内	
			中 学 校	2	269	川口	沼宮内		
紫波町	3	1,146	小 学 校	2	504	日詰	片寄		
			中 学 校	1	642	紫波第一			
矢 巾 町	15	2,754	幼稚園・こども園	5	304	矢巾中央	ふどう	やはば	こずかた
			保 育 所	3	246	北川	煙山	徳田	
			小 学 校	4	1,449	煙山	徳田	不動	矢巾東
			中 学 校	2	714	矢巾	矢巾北		
			高等学校	1	41	不来方			
住 田 町	2	172	小 学 校	2	172	有住	世田米		
山 田 町	1	266	中 学 校	1	266	山田			
岩 泉 町	2	25	中 学 校	1	13	岩泉			
			高等学校	1	12	岩泉			
一 戸 町	3	419	小 学 校	2	231	小鳥谷	一戸		
			中 学 校	1	188	一戸			
軽 米 町	2	404	小 学 校	1	203	軽米			
			中 学 校	1	201	軽米			
九 戸 村	2	186	小 学 校	1	40	長興寺			
			中 学 校	1	146	九戸			
総 計	195	33,782	幼稚園・こども園	17	1,471				
			保 育 所	26	1,211				
			小 学 校	92	21,225				
			中 学 校	38	8,709				
			高 等 学 校	19	1,076				
			特 別 支 援	3	90				

<加盟学校を有していない町村>

・平泉町 ・金ヶ崎町 ・大槌町 ・洋野町 ・西和賀町 ・野田村 ・普代村 ・田野畑村

<新規加盟校・園>

・八幡平市立柏台小、平館小、田山小、寺田小、田頭小、平笠小、松野小、寄木小  
 ・八幡平市立安代中、西根中、西根第一中、松尾中  
 ・滝沢市立滝沢中央小、滝沢東小、一本木小  
 ・花泉こども園

<活動再開校>

・葛巻小学校

<加盟辞退校>（統合等による辞退）

・一関市立永井小学校 ・一関市立興田中学校  
 ・盛岡市立つなぎ幼稚園 ・花巻市立笹間保育園

<部員不足等による脱退校>

・盛岡市立高等学校

青少年赤十字加盟登録状況の推移

年度別	保 育 所		幼 稚 園		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		特別支援学校		合 計	
	校 数	メンバー数	校 数	メンバー数	校 数	メンバー数	校 数	メンバー数	校 数	メンバー数	校数	メンバー数	校 数	メンバー数
16	31	2,413	13	1,592	93	23,725	55	14,799	34	580			226	43,109
17	30	2,660	14	1,384	96	24,279	56	14,690	34	511			227	43,308
18	30	2,711	14	1,572	93	23,824	59	14,463	32	482			228	43,052
19	31	2,595	16	1,953	91	23,406	57	14,049	25	361	3	86	223	42,450
20	32	1,893	9	1,229	87	22,778	50	11,845	24	398	3	90	205	38,233
21	34	2,112	9	1,109	86	22,253	48	11,659	22	380	3	88	202	37,601
22	33	1,912	9	1,105	85	21,261	47	10,654	22	412	4	110	200	35,454
23	33	1,720	9	1,120	85	21,682	46	10,551	22	430	4	110	199	35,613
24	36	1,908	9	1,273	86	20,916	46	10,198	20	394	4	107	201	34,796
25	37	2,074	9	1,406	88	21,234	38	9,558	22	443	4	226	198	34,941
26	37	2,597	9	1,464	86	20,719	38	9,559	21	1,139	3	42	194	35,520
27	37	1,780	9	1,293	87	21,063	38	8,872	21	1,121	3	90	195	34,219
28	35	1,743	11	961	86	21,157	36	9,192	20	1,077	3	95	191	34,225
29	30	1,318	13	1,337	84	20,865	36	8,820	20	371	3	96	186	32,807
30	29	1,320	15	1,127	81	20,725	35	8,295	20	369	3	100	183	31,936
元	26	1,211	17	1,348	92	21,225	38	8,709	19	1,076	3	90	195	33,659

(参考) 一円玉募金協力校

合 計 400,661円

保育所	小学校		中学校	高等学校・支援学校
北上市立大通り保育園	篠木小学校	沼宮内小学校	下橋中学校	一関第二高等学校
〃 二子保育園	大慈寺小学校	盛小学校	紫波第一中学校	盛岡青松支援学校
〃 口内保育園	中野小学校	太田小学校	仙北中学校	釜石商工高等学校
〃 南保育園	緑が丘小学校	雫石小学校	興田中学校	岩手女子高等学校
〃 江釣子保育園	福岡小学校	長興寺小学校	軽米中学校	大船渡高等学校
〃 鳩岡崎保育園	煙山小学校	本宮小学校	繫中学校	盛岡第二高等学校
〃 横川目保育園	杜陵小学校	田山小学校	九戸中学校	花巻南高等学校
陸前高田市立小友保育所	繫小学校	滝沢中央小学校	越喜来中学校	岩谷堂高等学校
陸前高田市立長部保育所	厨川小学校	青笹小学校	江刺第一中学校	北上翔南高等学校
明和保育園	向中野小学校			不来方高等学校
幼稚園	仙北小学校			前沢高等学校
盛岡市立つなぎ幼稚園	城南小学校			盛岡聴覚支援学校
なでしここども園	遠野北小学校			盛岡市立高等学校
都南幼稚園	鵜飼小学校			
13	23		9	13

## 9 医療施設の経営

令和元年度は、岩手県の二次医療圏盛岡構想区域における中核の公的病院として、又、『地域医療支援病院』として、地域の医療・介護・福祉機関との連携を強化し、医療の質向上に努めるとともに救急患者受入に対応し患者中心の医療を実践した。

救急部門の更なる充実のために設置した HCU（High Care Unit：高度治療室）は、重症患者に対して、より手厚い医療・看護の提供を実現するとともに管理料の算定により収入も増加した。

6 月には来年更新期限が到来する公益財団法人日本医療機能評価機構の『病院機能評価』受審のキックオフを行った。患者が満足して受診できるよう多方面にわたる病院機能の充実を目指し改善活動を行っている。9 月にはラグビーワールドカップ釜石大会が開催され競技場に救護班を派遣した。また、同月岩手医科大学付属病院の矢巾町移転に伴い、病院移転前後の診療体制と患者受け入れの協力体制を敷き、移転当日には協力医療機関として患者搬送もおこなった。10 月には台風 19 号災害対応として宮城県丸森町へ救護班を派遣した。

令和 2 年 2 月以降、全国的、世界的に新型コロナウイルス感染が拡大しており、医療提供の重要性が増している。岩手県の新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針にのっとり、感染者の増加を見据えた医療提供体制の準備をすすめるとともに、十分な院内感染対策を徹底していく。

令和元年度の経営収支は、患者数の増加と診療単価が上昇したことから収入が増加した。費用も変動費を中心に増加したものの 8 年ぶりに黒字を確保した。次年度以降は高額医療機器の整備や電子カルテシステム改修費用の支出予定もあることから、引き続き地域医療連携の強化と救急患者受け入れによる収入増加を図りつつ、診療材料費等の医業経費全般の見直しによる収支改善を図り連続黒字化を目指す。また、岩手医科大学付属病院の矢巾町へ移転後の受診患者動向に対応する連携体制強化と環境変化に応じた病院運営体制を構築し、経営基盤の強化を図っていく。



(9 月 ラグビーワールドカップ釜石大会)



(12 月 クリスマスコンサート)

# 年度別患者数調べ

( )内は一日平均

区 分 科 別	入 院 患 者 数			外 来 患 者 数			外来新患延べ数(再掲)			健康診断受診数		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
総合内科	(5.3) 1,938	(12.5) 4,553	(10.1) 3,694	(18.0) 4,384	(14.3) 3,478	(14.3) 3,426	(2.4) 575	(2.7) 653	(2.4) 565			
精神科			0 0	(11.5) 517	(2.0) 479	(11.4) 480	(0.0) 8	(0.0) 7	(0.1) 5			
神経内科			(1.0) 382	(8.0) 804	(6.1) 1,493	(8.4) 2,023	(0.0) 2	(0.6) 146	(1.0) 246			
血液内科	(31.3) 11,408	(31.6) 11,551	(40.5) 14,841	(21.4) 3,033	(13.4) 3,266	(17.0) 3,941	(0.5) 126	(0.5) 115	(1.2) 272			
呼吸器科	(10.9) 3,969	(8.5) 3,098	(6.9) 2,512	(18.8) 2,704	(8.9) 2,165	(13.8) 2,083	(1.8) 445	(1.5) 368	(2.4) 357			
消化器科	(21.2) 7,730	(20.3) 7,393	(19.7) 7,222	(37.9) 9,211	(38.1) 9,254	(37.5) 9,001	(7.4) 1,799	(6.9) 1,678	(6.8) 1,622			
循環器科	(21.2) 7,732	(14.4) 5,261	(15.3) 5,605	(36.5) 8,872	(28.1) 6,818	(29.0) 6,967	(3.6) 883	(3.1) 743	(2.7) 646			
小児科	(13.6) 4,929	(15.5) 5,648	(14.0) 5,124	(42.8) 10,408	(39.7) 9,646	(39.2) 9,410	(9.3) 2,252	(9.5) 2,298	(9.7) 2,339	(6.8) 1,663	(7.1) 1,731	(5.3) 1,264
外科	(30.6) 11,155	(27.0) 9,838	(27.5) 10,064	(47.5) 11,544	(45.2) 10,980	(47.9) 11,489	(5.3) 1,278	(4.2) 1,024	(4.4) 1,045	(3.3) 803	(3.3) 796	(3.1) 743
小児外科	(0.6) 214	(0.3) 119	(0.5) 197	(4.5) 606	(1.8) 429	(3.2) 471	(0.8) 195	(0.6) 150	(1.2) 182			
整形外科	(32.6) 11,901	(32.0) 11,692	(36.5) 13,354	(45.6) 8,842	(35.9) 8,726	(46.2) 8,787	(6.2) 1,515	(5.9) 1,445	(7.3) 1,386			
脳神経外科	(19.9) 7,275	(19.2) 7,018	(17.1) 6,264	(21.0) 5,094	(18.6) 4,529	(17.8) 4,260	(4.8) 1,161	(4.0) 972	(3.6) 865	(0.7) 166	(0.7) 161	(0.7) 178
皮膚科	(1.0) 368	(1.0) 349	(1.1) 399	(34.8) 8,465	(33.3) 8,091	(29.9) 7,166	(3.4) 834	(3.0) 723	(2.3) 542			
泌尿器科	(17.0) 6,202	(15.6) 5,683	(15.1) 5,543	(67.6) 16,436	(66.7) 16,196	(69.4) 16,654	(3.2) 771	(3.6) 874	(3.8) 904			
産婦人科	(52.2) 19,036	(51.3) 18,732	(41.9) 15,325	(100.2) 24,353	(97.2) 23,625	(94.1) 22,591	(9.1) 2,210	(8.3) 2,029	(8.4) 2,006	(3.9) 958	(4.0) 978	(3.6) 864
眼科	(0.4) 150	(0.5) 169	(0.4) 154	(30.7) 5,923	(22.0) 5,355	(25.8) 4,413	(0.7) 171	(0.5) 123	(0.5) 90			
耳鼻咽喉科	(3.8) 1,397	(4.5) 1,647	(5.4) 1,978	(23.1) 5,623	(21.9) 5,333	(23.6) 5,663	(4.6) 1,121	(4.2) 1,013	(4.4) 1,048			
放射線科				(42.6) 10,350	(43.6) 10,598	(44.4) 10,667	(2.1) 501	(2.2) 541	(2.3) 551			
麻酔科	(0.1) 9	(0.0) 0	0.0 0	(5.3) 533	(2.3) 549	(4.5) 450	(0.0) 10	(0.0) 6	(0.1) 14			
リハビリテーション科				(16.3) 2,441	(12.8) 3,112	(30.6) 4,313	(0.0) 0	(0.0) 0	0.0 0			
緩和ケア科	(17.0) 6,193	(15.6) 5,677	(16.9) 6,193	(0.4) 63	(0.2) 60	(1.4) 206	(0.1) 32	(0.1) 22	(0.3) 38			
健診部										(8.0) 1,951	(7.7) 1,863	(6.9) 1,665
合 計	(278.4) 101,606	(269.7) 98,428	(270.1) 98,851	(577.0) 140,206	(552.2) 134,182	(560.3) 134,461	(65.4) 15,889	(61.4) 14,930	(61.3) 14,723	(22.8) 5,541	(22.8) 5,529	(19.6) 4,714

# 健診部業務内容年度別実績表

健診部活動 (単位:人)		平成29年度	平成30年度	令和元年度
子宮がん検診	受診者数	978	830	864
	要精検者数	31	29	40
	精検受診者数	23	16	22
	がん発見者数	1	0	0
乳がん・甲状腺がん検診	受診者数	796	677	743
	要精検者数	39	20	46
	精検受診者数	34	17	42
	がん発見者数	3	1	0
1泊人間ドック	受診者数	250	252	274
	要精検者数	143	126	129
	がん発見者数	1	0	1
1日人間ドック	受診者数	507	369	336
	要精検者数	267	183	158
	がん発見者数	0	1	0
脳ドック	受診者数	161	177	178
	要精検者数	16	22	55
成人病健診(協会けんぽ)	受診者数	768	780	821
	要精検者数	283	263	161
	がん発見者数	1	1	1
一般健康診断 職域健康診断	受診者数	585	574	506
	がん発見者数	0	1	1
肺がんCT検診	受診者数	3	1	3
	がん発見者数	0	0	0
集団健診(学校等)	受診者数	3,605	3,563	3,428
乳児健診(受診券)	受診者数	1,727	1,564	1,263
妊産婦健診(受診券)	受診者数	6,424	6,051	5,101
肺がん検診(喀痰検査)	受診者数	723	581	595
	要精検者数	0	0	0

※ 肺がんCT検診 平成29年7月より実施

※ 盛岡市産婦健診 平成30年6月より実施



# 医療社会事業部業務内容年度別実績表

実人数

1 ソーシャルワーカー配置数	平成29年度	平成30年度	令和元年度
実人数(常勤職員数)	3	3	4
実人数(非常勤職員数)	1	1	0
常勤換算合計	4	4	4

実人数

2 ケース人数	平成29年度	平成30年度	令和元年度
実人数	2,105	2,639	2,525
延人数	10,480	11,256	11,586
新規ケース(入院)	1,576	2,227	2,218
新規ケース(外来)	497	347	224
終了ケース	0	0	0

実件数

3 新規ケースの紹介経路	平成29年度	平成30年度	令和元年度
医師	20	28	17
理学療法師、作業療法士、言語聴覚士等	0	0	0
保健師、助産師、看護師、准看護師	1,679	2,271	2,271
その他院内職員	74	64	40
本人	50	40	30
家族・親戚縁者	79	52	23
院外関係機関	160	107	57
近隣者・知人	1	0	1
ソーシャルワーカー	10	12	3
合計	2,073	2,574	2,442

実件数

4 問題実数	平成29年度	平成30年度	令和元年度
家族関係及び家族が抱える問題	9	17	7
介護・療養生活上の問題	1,571	2,152	2,275
経済に関する問題	24	24	10
日常生活上の問題	6	6	6
就労・職場の問題	1	2	1
教育の問題	0	1	0
医療の確保に関する問題	84	55	28
人権に関わる問題	8	3	2
心理・情緒的問題	32	25	3
制度活用に関する問題	398	330	288
その他	63	196	9
合計	2,196	2,811	2,629

延件数

5 援助方法		平成29年度	平成30年度	令和元年度
面接	本 人	2,276	1,985	1,798
	家族、親戚縁者	1,931	1,833	1,702
電話	本 人	72	63	58
	家族、親戚縁者	945	1,059	1,047
訪問	家庭訪問	12	24	12
	その他	2	2	0
同行・同伴・代行		3	2	2
文書(電子メール、FAX含む)		350	350	350
情報収集		1,777	4,731	5,390
院内協議・カンファレンス		8,302	7,751	8,312
院外協議・カンファレンス		5,424	5,691	5,225
合同カンファレンス		250	365	260
合計		21,344	23,856	24,156

延件数

6 相談援助調整内容	平成29年度	平成30年度	令和元年度
家族関係に関すること	146	224	121
在宅介護・地域生活に関すること	4,236	4,357	4,437
療養生活に関すること	2,115	2,559	1,027
経済的問題に関すること	126	138	91
就労・職場環境に関すること	8	19	14
教育環境・就学に関すること	0	5	1
虐待・暴力・人権に関すること	17	20	10
受診・受療に関すること	3,230	3,566	5,310
転院に関すること(医療機関)	1,683	1,878	1,868
他施設利用に関すること(医療機関以外の全ての施設)	747	1,370	1,131
心理・情緒的問題に関すること	59	70	33
他福祉関係法利用に関すること	1,642	1,683	1,409
その他(件数)	113	234	68
合計	14,122	16,123	15,520

実人数

7 介入の時期	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受診	94	56	39
外来継続	208	166	123
入院時	444	711	677
入院継続	996	1,394	1,484
退院時	117	99	67
その他(件数)	214	148	52
合計	2,073	2,574	2,442



## 10 血液事業

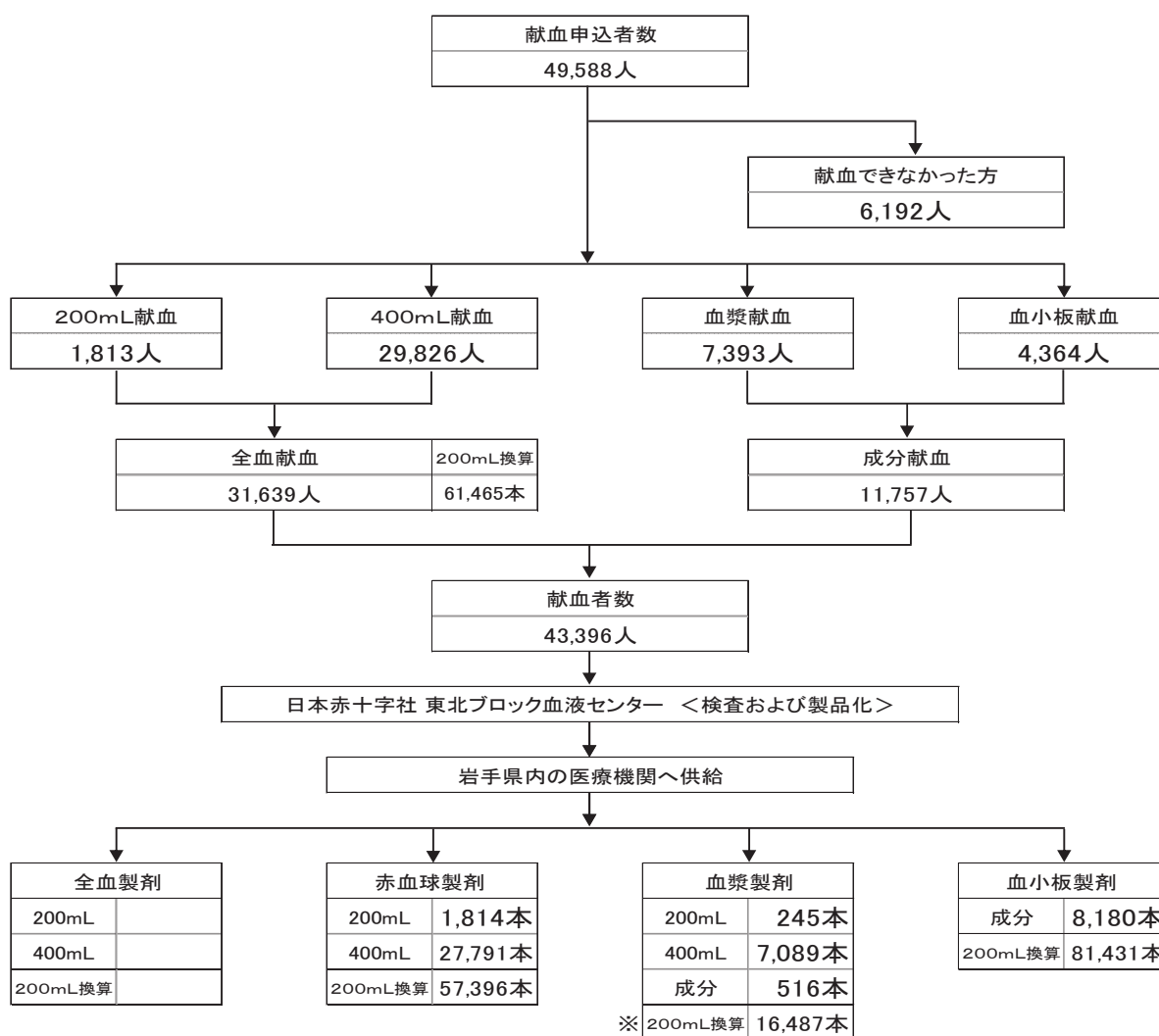
日本赤十字社は病気やけがで苦しみ、輸血を必要とする患者さんのために、安全な血液製剤を安定的にお届けするという使命を担い、血液事業に取り組んでいる。

令和元年度の県内における血液事業の状況

医療機関の需要に見合った血液の確保に努めた。

令和元年度においては、全血献血 31,639 人（前年度比 101.6%）、成分献血 11,757 人（前年度比 104.8%）、合計 43,396 人（前年度比 102.4%）の方々から献血のご協力をいただいた。





また、全血献血の 400mL 献血率は 94.3%と目標（96.5%）を下回ったものの、医療機関が必要とする輸血用血液製剤は、安定して供給することができた。




## (1) 献血思想の普及啓発

### ア 献血キャンペーンの実施

広く県民に対し献血思想の普及啓発を図り、献血血液による血液製剤の医療機関への安定供給を図るため、県、市町村、血液センターが相互に連携し、また、医療機関での需要が増加している 400mL 及び成分献血由来の血液を確保することを目的に各種献血キャンペーンを実施した。

キャンペーン内容	期間	期間中の献血者数（人）			
		成分	400mL	200mL	合計
サマーキャンペーン 	R1. 8. 2、8. 12	19	50	2	71
愛の血液助け合い運動 	R1. 7. 1～7. 31	920	2, 538	164	3, 622
クリスマス献血キャンペーン 	R1. 12. 1～12. 25	838	2, 349	155	3, 342
はたちの献血キャンペーン 	R2. 1. 1～2. 29	2, 037	4, 818	276	7, 131

バレンタイン献血キャンペーン					
	R2. 2. 1～2. 14	556	1, 337	73	1, 966

## イ 若年層を対象とした普及啓発

### (ア) 小学生への普及啓発

小さい頃から血液についての知識や献血の大切さについて知っていただくために、血液センターと奥州供給出張所において「親と子の血液センター見学会」を8月5日から8月9日まで延べ10回実施し、220人の参加があった。



献血・血液についてのお話



血圧測定



献血バスでの説明



血液運搬車の見学

(イ) 高校生への普及啓発

高校生対象の献血セミナーを延べ3回実施した。  
また、文化祭等におけるパネル展示などを実施した。  
高校献血については、延べ26校で実施し412名から献血協力をいただいた。参加人数の少ない高校では近隣の献血会場へ送迎や案内などをして協力いただいた。



種市高校でのセミナー

ウ 献血会場の告知

新聞、ラジオにおいて翌日又は当日の献血会場の告知を行い、また、市町村広報誌、血液センターホームページで当月の告知を行った。

新聞	<ul style="list-style-type: none"><li>・(株) 岩手日報社</li><li>・(株) 東海新報社</li><li>・(株) 盛岡タイムス社</li></ul>
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"><li>・(株) I B C 岩手放送</li><li>・(株) ラヂオもりおか</li><li>・特定非営利活動法人カシオペア市民情報ネットワーク</li><li>・えふえむ花巻 (株)</li><li>・奥州エフエム放送 (株)</li><li>・一関コミュニティFM (株)</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・各市町村の広報誌</li><li>・血液センターホームページ</li></ul>

エ 報道各社への献血啓発依頼

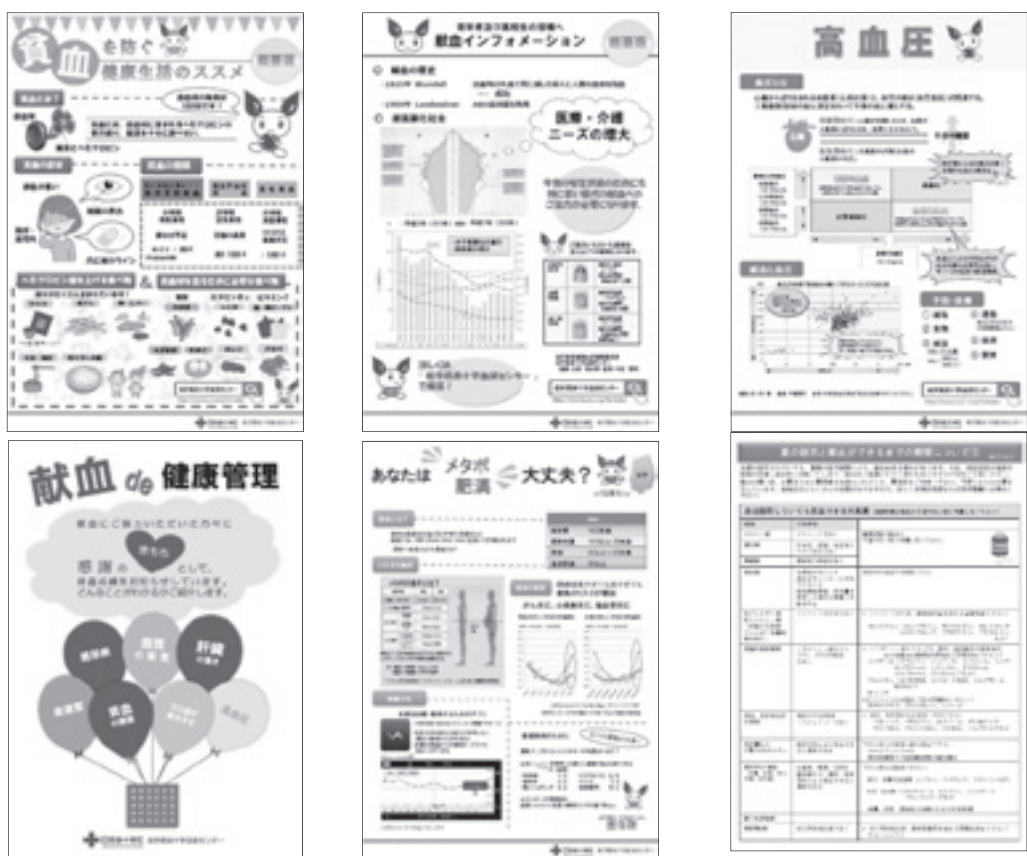
本社作成の献血啓発CMを、民放テレビ局(4社)、民放ラジオ局(6社)において冬期間を中心に放送していただいた。また、NHK盛岡放送局においては、毎週金曜日に献血情報の放送をしていただいた。

テレビ	<ul style="list-style-type: none"><li>・(株) I B C 岩手放送</li><li>・(株) 岩手朝日テレビ</li><li>・(株) 岩手めんこいテレビ</li><li>・(株) テレビ岩手</li></ul>
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"><li>・NHK盛岡放送局</li><li>・(株) I B C 岩手放送</li><li>・(株) エフエム岩手</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株) ラヂオもりおか</li> <li>・えふえむ花巻 (株)</li> <li>・奥州エフエム放送 (株)</li> <li>・宮古エフエム放送 (株)</li> </ul>
--	---

#### オ 各種リーフレットを活用した献血推進と健康啓発

血液センターで作成した各種パンフレットを献血者や各企業に配布し、健康増進や献血推進に活用した。



#### カ 献血ルームの機能強化

キッズコーナーの利用促進を図り、リラクセーションサービス（毎週水曜日の午後）や折り紙教室（第二・四土曜日）、ハンドエステ、ハンドトリートメントサービス（不定期開催）を実施した。毎週火曜日には、所長による献血時の検査結果に基づいた健康相談を行い、健康啓発に務めた。



ハンドエステサービス

## (2) 成分献血・400mL 献血の推進

輸血を必要とする患者さんに対する輸血リスクの軽減を図るため、輸血用血液製剤の高単位化が求められていることから、血小板成分献血・400mL 献血の推進を行っている。

献血種別献血状況

区分		献血者数（人）		対前年度比	
		令和元年度	平成 30 年度	人数（人）	率（％）
全血	200mL	1,813	1,629	184	111.3
	400mL	29,826	29,512	314	101.1
成分	血 漿	7,393	5,754	1,639	128.5
	血 小 板	4,364	5,468	△1,104	79.8
合 計		43,396	42,363	1,033	102.4

※献血ルーム 365 日開設、献血バス 605 台稼働（前年度 620 台稼働）

## (3) 複数回献血協力確保事業の普及

平成 30 年 10 月に導入した献血推進・予約システム「ラブラッド（愛称）」を活用し、献血の WEB 予約を働きかけるとともに、予約による献血者の利便性向上に努めた。

複数回献血クラブ「ラブラッド」会員数 8,066 人（令和 2 年 3 月末現在）


## (4) 献血推進専門員の設置

献血者の確保のため、地域に密着した啓発活動・協力事業所の新規開拓など、県民医療に不可欠な輸血用血液を安定的に確保するため、献血推進専門員が県内 4 カ所（中部保健所、大船渡保健所、宮古保健所、二戸保健所）に駐在し、献血推進カーにより精力的に献血推進活動を行い延べ 9,575 カ所の事業所・学校等協力団体を訪問した。

## (5) ボランティアの育成と活動

県、市町村及び血液センターが相互に連携し、ライオンズクラブ、学生ボランティア及びその他各種団体等に対し献血制度の啓発を行い献血ボランティア団体の育成（研修）を行った。

各種ボランティア団体等の献血研修会

団 体 名	開催日	場 所	参加人数 (人)
東北ブロック内血液センター 学生献血奉仕団	4/20	W e b 会議	4
	6/29・30	仙台市	2
	10/19	W e b 会議	2
	11/30	W e b 会議	2
	2/22・23	仙台市	3
ライオンズクラブ国際協会 332-B 地区 	11/18	ホテルメトロポリタ ン盛岡本館	44
岩手教区献血たすけあいの会	3/2	天理教岩手教務支庁	30

各種献血キャンペーン参加団体

キャンペーン名	実施期間	協力団体
サマーキャンペーン	R1. 8. 2	イーハトーブ学生赤十字奉仕団
	R1. 8. 12	岩手大学学生赤十字奉仕団
クリスマス献血 キャンペーン	R1. 12. 1 ～12. 25	イーハトーブ学生赤十字奉仕団
		一関修紅高等学校
		一関市一関赤十字奉仕団
		一関中央ライオンズクラブ
		一関ライオンズクラブ
		岩手教区献血たすけあいの会
		岩手県立大船渡東高等学校
		岩手県立北上翔南高等学校
		岩手県立前沢高等学校
		岩手女子高等学校 JRC 部



		岩手大学学生赤十字奉仕団
		江釣子ライオンズクラブ
		奥州市水沢赤十字奉仕団
		大船渡五葉ライオンズクラブ
		大船渡赤十字奉仕団
		大船渡ライオンズクラブ
		釜石市赤十字奉仕団
		釜石ライオンズクラブ
		釜石リアスライオンズクラブ
		釜石レオクラブ
		北上国見ライオンズクラブ
		北上市赤十字奉仕団
		北上市地区有功会
		北上西ロータリークラブ
		北上ライオンズクラブ
		北上和賀ロータリークラブ
		専修大学北上高等学校
		専修大学北上福祉教育専門学校
		滝沢市保健推進員
		花巻市花巻地区赤十字奉仕団
		花巻東ライオンズクラブ
		前沢ライオンズクラブ
		盛岡不来方ライオンズクラブ
		盛岡市保健推進員
		盛岡南ライオンズクラブ
		和賀ライオンズクラブ
		北上ロータリークラブ
バレンタイン献血 キャンペーン	R2. 2. 1 ～ R2. 2. 14	イーハトーブ学生赤十字奉仕団
		一関中央ライオンズクラブ
		岩手教区献血たすけあいの会
		岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字奉仕団
		岩手大学学生赤十字奉仕団
		岩手女子高 J R C 部
		江釣子ライオンズクラブ

	奥州市水沢赤十字奉仕団
	金ケ崎町赤十字奉仕団
	金ケ崎ライオンズクラブ
	釜石ライオンズクラブ
	釜石リアスライオンズクラブ
	北上市赤十字奉仕団
	北上市地区有功会
	専修大学北上高等学校
	専修大学北上福祉教育専門学校
	玉山姫神ライオンズクラブ
	二戸市赤十字奉仕団
	二戸ライオンズクラブ
	花巻市花巻地区赤十字奉仕団
	花巻ライオンズクラブ
	三ヶ尻地区自治会連合会
	宮古岩手ライオンズクラブ
	宮古市赤十字奉仕団
	盛岡市保健推進員
	盛岡中津川ライオンズクラブ
	陸中宮古ライオンズクラブ
	釜石レオクラブ
	釜石市赤十字奉仕団

#### (6) 医薬情報活動充実・強化

安全かつ適正な輸血医療について、医療機関に対する情報提供及び情報収集を目的に、県内主要医療機関への院長訪問、院内輸血療法委員会への参加や説明会の実施など積極的な医薬情報活動に努めた。

また、毎年定期的開催している「岩手県合同輸血療法委員会」を県健康国保課と共同事務局としていわて県民情報交流センターアイーナにて行い、輸血医療に関わっている各職種の先生方にご講演を頂いた。

また、令和元年度は同委員会の活動のひとつである厚生労働省「血液製剤使用適正化方策調査研究事業」に採択されたことに伴い、採択課題名「輸血関連認定資格を持つ看護師の育成を通じた安全・適正な輸血実施体制の構築～輸血の不安を解消するスキルアップセミナーと認定資格取得のための学習ヘルプラインによる支援の試み～」を目的として、岩手県内医療機関に対し、スキルアップセミナーの実施等の活動に対して協力する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、セミナー等の開催は中止となった。



合同輸血療法委員会

活動の対象

区分	令和元年度		平成 30 年度	
	人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)
医 師	50	11.6	69	11.6
薬 剤 師	22	5.1	90	15.1
検 査 技 師	343	79.6	402	67.3
看 護 師	14	3.2	23	3.9
事 務	2	0.5	13	2.1
合 計	431	100.0	597	100.0

活動の内容

区分	令和元年度		平成 30 年度	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
問 い 合 わ せ 処 理	16	3.7	10	1.7
副 作 用 処 理	23	5.3	28	4.7
苦 情 処 理	10	2.3	12	2.0
回 収 処 理	0	0.0	0	0.0
情 報 提 供	218	50.6	398	66.7
情 報 収 集	25	5.8	22	3.7
遡 及 調 査	37	8.6	18	3.0
使 用 実 態 調 査	14	3.2	15	2.5
説 明 会	6	1.4	18	3.0
技 術 協 力	0	0.0	0	0.0
挨 拶	8	1.9	21	3.5

契 約	0	0.0	0	0.0
そ の 他 の 活 動	40	9.3	21	3.5
院内輸血療法委員会	34	7.9	34	5.7
合 計	431	100.0	597	100.0

## (7) 輸血用血液の医療機関への供給状況

安全性の高い血液を安定的に医療機関に供給するため、平成 24 年度から新たに実施している血液事業広域事業運営体制（全国 7 ブロックでの運営体制）により、北上地区以南・沿岸南部・西和賀地区医療圏は奥州供給出張所から、県北医療圏（二戸・久慈地区）は青森県赤十字血液センター八戸出張所からの供給体制を整えたことにより迅速な供給が可能となり、令和元年度は岩手県内 104 の医療機関に下図のとおり血液製剤の供給をした。



輸血用血液の岩手県内供給状況（単位：200mL 換算）

区 分	供給数		比較増減	
	令和元年度	平成 30 年度	単位数	前年度対比
全 血	0	0	—	—
赤血球	57,396	58,423	△1,027	98.2%
血 漿	16,487	17,103	△ 616	96.4%
血小板	81,431	80,270	1,161	101.4%
合 計	155,314	155,796	△ 482	99.7%

※血漿は FFP-LR120=1 単位、FFP-LR240=2 単位、FFP-LR480=4 単位として計上

※災害訓練のため、平成 30 年度県外供給赤血球製剤 2 単位×1 本は計上しておりません。

(8) 献血表彰

献血運動の推進に関し積極的に協力し、他の模範となる実績を示した献血推進団体及び献血団体に対して、厚生労働大臣表彰等の贈呈を行った。



厚生労働大臣表彰状・感謝状



岩手県知事感謝状

日本赤十字社岩手県支部長感謝状

【厚生労働大臣表彰状：2 団体】

団 体 名	所在地
株式会社 岩手銀行	盛岡市
ライオンズクラブ国際協会 332-B 地区 2R1Z 花巻東ライオンズクラブ	花巻市

【厚生労働大臣感謝状：8団体】

団 体 名	所在地
株式会社システムベース	北上市
岩手県立釜石病院	釜石市
盛岡医療福祉専門学校	盛岡市
株式会社一関 LIXIL 製作所	一関市
東北オカヤ株式会社	一関市
東北銀行健康保険組合	盛岡市
岩手県立盛岡第三高等学校	盛岡市
協同組合 二戸ショッピングセンター	二戸市

【知事及び日赤岩手県支部長感謝状：11団体】

団 体 名	所在地
株式会社ミクニ 盛岡事業所	滝沢市
岩手県立千厩病院	一関市
北上地区消防組合	北上市
東北日東工業株式会社	花巻市
岩手県立久慈病院	久慈市
盛岡地方検察庁	盛岡市
東北電力株式会社 水沢電力センター（金ヶ崎事業所）	金ヶ崎町
岩手県立盛岡南高等学校	盛岡市
ライオンズクラブ国際協会 332-B 地区 4R1Z 東山ライオンズクラブ	一関市
イオンスーパーセンター一関店	一関市
久慈ショッピングセンター	久慈市

### (9) 骨髄ドナー登録事業

法に基づく造血幹細胞提供支援機関である日本赤十字社の事業所として、次の指定業務を行った。

○ドナー登録手続き（献血併行型ドナー登録会も含む）

#### 骨髄登録者の状況

	岩 手 県		全 国	
	登録者数(人)	対前年度比(%)	登録者数(人)	対前年度比(%)
平成 27 年度末	3,089	99.3	458,352	101.7
平成 28 年度末	3,062	99.1	470,270	102.6
平成 29 年度末	3,058	99.9	483,879	102.9
平成 30 年度末	3,182	104.1	509,263	105.2
令和元年度末	3,191	100.3	529,965	104.1

※令和元年度新規登録 181 人、取消 172 人（年齢超過などの理由による）。



## 1 1 社会福祉施設の運営

### (1) 日赤岩手乳児院

令和元年度の乳児入退所状況は、入所 11 名、退所 8 名により年度末在籍は 17 名であった。入所理由は（ネグレクトなどを含む）虐待が 11 名で、養育困難 6 名、であった。退所理由は、家庭引取り 6 名、養護施設等への措置変更が 2 名となっており、里親委託となったケースはなかった。なお、昭和 9 年創設以来の総養育乳児数は 1,966 名となった。

近年、少子化や核家族化、離婚増加など子どもを取り巻く環境が大きく変化し、社会的養護を必要とする子どもが増加傾向にある中、現在地に新築移転後は、小規模グループケアを中心とした養育に移行し、家庭的な養育を目的とした担当養育制を実施している。

スタッフには医師、看護師、心理判定員、保育士、栄養士など資格を有する職員を配置し、よりきめ細かな養育を必要とする病虚弱児も受け入れを積極的に行っている。

加えて、児童虐待や DV などが増加傾向にある中、乳幼児の養育とともに保護者への支援も重要な課題となっていることから、家庭支援専門相談員による児童相談所との密接な連携のもとに家族への相談援助等を行った。

また、入所児のより幸せな生活を実現するための里親制度への支援として、里親支援専門相談員により、里親同士や職員との交流をより密にし、マッチングの支援や専門機関との連携に努めた。

さらに、地域貢献として、市町村からの委託による「子育て短期支援事業」や保護者・家族を対象とした子育て電話相談、もぐもぐ食育体験教室を実施。また、個人や赤十字奉仕団などのボランティア、県内外の学生の保育実習や中学校の体験学習を積極的に受け入れ、地域に貢献する施設として専門機能の提供に努めた。



院内研修（幼児安全法短期講習）

ア 日赤岩手乳児院入退所状況

(単位：人)

児童相談所 (市町村名)	30 年度末現在			入 所 児			退 所 児			元年度末現在		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
福祉総合相談センター	9	3	12	4	3	7	4	2	6	8	4	12
盛岡市	3	1	4							3	1	4
北上市				1		1				1		1
久慈市	3	2	5				1	1	2	1	1	2
遠野市				1		1	1		1			
滝沢市	1		1		1	1				1	1	2
岩手町				1		1	1		1			
紫波町					1	1					1	1
矢巾町					1	1		1	1			
軽米町				1		1				1		1
九戸村	2		2				1		1	1		1
一関児童相談所	1	1	2		1	1	1	1	2		1	1
奥州市	1	1	2		1	1	1	1	2		1	1
宮古児童相談所				3		3				4		4
宮古市				3		3				4		4
他県委託												
合計	10	4	14	7	4	11	5	3	8	12	5	17

※ 入所児童の住所変更（久慈市→宮古市）による担当児童相談所の調整 1 名。

イ 初日在籍児数及び延べ人数の状況

(入所定員 20 人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年 度比
初日在 籍児数	13	15	17	17	18	17	19	19	19	19	19	20	212	26
延べ 人数	423	539	531	580	617	570	589	570	615	613	580	601	6876	688

ウ 実習生の受入状況

(単位：人)

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備考
保育実習	大学	1	2		2						2		7	
	短大							4					4	
	専門・高校			1		5		1					7	
計		1	2	1	2	5	0	5	0		2	0	18	
養育里親			5	1			2	3					11	
延べ人数		10	30	12	20	58	4	66			20		220	

エ ボランティア受入状況

(単位：人)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備考
一 般	4	2	4	3		6	6	4	8	3	6		46	
学 生		1	1			1				3	2		8	
団 体	3	3	8	5		2	5	2	3	1	1		33	
延べ人数	15	12	22	15		20	21	15	17	16	15		168	

## (2) 特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘

### ア 施設入所

日赤鶯鳴荘では、1ユニット10名の完全個室・小規模グループとしたユニットケアを実施し、プライバシーの配慮、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていけるように介護支援を行い、また、要介護度の重度化や認知症の増加傾向にあるなか、利用者の安心と安全で笑顔あふれる生活が送れるよう入居者どうしの関係や職員との信頼関係・なじみの関係が構築できるよう努めている。安らぎと生き甲斐、潤いのある施設生活を送っていただくため、園の行事を積極的に行い、趣味活動を通じて情操感を高め、地域の人々やボランティアとの交流を図っている。



(介護・医療シンポジウム)



(近隣小学校からの車椅子贈呈式)

また、令和元年度の新規入居者は27人、退居者25人（うち死亡11人）、年度末在籍者は78人で、開設以来の入居者は825人、また、短期入所生活介護の利用者数は延べ3,861人（1日平均10.5人）となっている。

なお、要介護度別の入居者数は下記のとおりである。（単位：人）

要介護度別	30年度末			入 居			退 居			年度途中の 介護度変動			元年度末		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要介護度1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護度2	0	2	2	0	0	0	0	1	1	0	△1	△1	0	0	0
要介護度3	1	15	16	2	9	11	0	4	4	1	1	2	4	21	25
要介護度4	9	20	29	1	8	9	3	7	10	1	△2	△1	8	19	27
要介護度5	8	21	29	3	4	7	6	4	10	△2	2	0	3	23	26
計	18	58	76	6	21	27	9	16	25	0	0	0	15	63	78

イ 日赤鶯鳴荘デイサービスセンター

平成 30 年 4 月から雫石町の指定を受け、単独事業として地域密着型通所介護を行っている。介護保険法に規定する在宅の要介護者等に対し、通所の方法により各種のサービスを提供することによって、要介護者等の自立的生活の助長、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族介護者の身体的、精神的な負担の軽減を図ることを目的に実施した。

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用者実数（人）	44	46	46	45	45	49	46	47	47	49	48	47	559
利用者延数（人）	358	379	365	372	377	358	376	379	363	353	322	339	4,341
実施日数（日）	25	24	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	293

ウ 指定居宅介護支援事業所

在宅の要援護高齢者若しくは要援護となるおそれのある高齢者、また、その家族に対し、在宅介護等に関する総合的相談に応じ、地域の要援護高齢者及びその家族等の福祉の向上を図ることを目的としたサービスを提供した。

なお、令和元年度の相談件数は 856 件、介護保険法に規定された在宅要介護者に対するケアプランの作成件数は、延べ 478 件（うち在宅要支援者 78 件）であった。

（単位：件）

区 分	本 人	家 族	関係機関	相談協力員 (民生委員)	その他	合 計
電 話	2	194	128	0	8	332
訪 問	476	25	16	0	0	517
来 所	0	3	1	0	0	4
そ の 他	0	1	1	0	1	3
合 計	478	223	146	0	9	856

## 12 会計報告

### (1) 一般会計歳入歳出決算報告(日本赤十字社岩手県支部)

一般会計 (歳入)	1	会費収入		180,713,481 円
	2	委託金等収入		1,101,026 円
	3	補助金及び交付金収入		2,477,934 円
	4	災害義援金預り金収入		320,760,255 円
	5	繰入金収入		23,000 円
	6	雑収入		4,991,454 円
	7	前年度繰越金		21,623,470 円
歳 入 合 計				531,690,620 円
一般会計 (歳出)	1	災害救護事業	災害義援金 災害救護訓練への参加 救護装備の整備 救援物資の整備	331,061,718 円
	2	講習普及事業	救急法等講習の普及 講習資材の整備	11,086,057 円
	3	青少年赤十字・ボランティア	ボランティアの育成、強化 青少年赤十字の普及	20,001,532 円
	4	赤十字思想の普及・社業振興	広報活動の促進 活動資金募集及び会員管理	26,203,365 円
	5	市町村での赤十字事業	市町村での赤十字事業の促進	33,482,904 円
	6	医療事業・血液事業 ・社会福祉事業	医療施設基盤整備 血液事業普及整備 社会福祉施設基盤整備	10,352,765 円
	7	国際事業	海外救援金	748,000 円
	8	業務管理運営費等		61,872,921 円
	9	本社送納		25,589,410 円
	10	翌年度繰越金		11,291,948 円
歳 出 合 計				531,690,620 円

## (2) 医療施設特別会計歳入歳出決算報告

盛岡赤十字病院

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
	円		円
医 業 収 益	8,151,190,556	医 業 費 用	8,079,851,090
医 業 外 収 益	108,125,207	医 業 外 費 用	36,608,443
医 療 社 会 事 業 収 益	363,983	医 療 奉 仕 費 用	90,355,356
特 別 収 益	2,756,439	特 別 損 失	28,426,013
		法 人 税 等	3,178,156
		当 期 利 益 剰 余 金	24,017,127
歳 入 合 計	8,262,436,185	歳 出 合 計	8,262,436,185

## (3) 社会福祉施設特別会計歳入歳出決算報告

日赤岩手乳児院・日赤鶯鳴荘

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
日赤岩手乳児院分	円		円
措 置 費 収 入	206,511,034	事 務 費	11,468,836
受 託 収 入	1,994,130	事 業 費	13,548,276
寄 付 金 収 入	238,989	固 定 資 産 取 得 支 出	723,000
他 会 計 繰 入 金 収 入	100,000	そ の 他 の 支 出	193,764,460
そ の 他 収 入	21,362,602		
前 年 度 繰 越 金	49,220,085		
小 計	279,426,840	小 計	219,504,572
日赤鶯鳴荘分	円		円
介 護 保 険 事 業 収 入	473,588,805	人 件 費 支 出	329,934,462
寄 付 金 収 入	469,000	事 務 費	30,015,918
補 助 金 収 入	0	事 業 費	70,991,167
受 取 利 息 配 当 金 収 入	8,814	借 入 金 償 還 支 出	41,742,000
他 会 計 繰 入 金 収 入	679,982	固 定 資 産 取 得 ・ 除 却 支 出	473,000
そ の 他 の 収 入	1,462,288	フ ァ イ ナ ン ス ・ リ ー ス 債 務 返 済 支 出	5,688,720
前 年 度 繰 越 金	151,895,092	そ の 他 支 出	17,674,820
小 計	628,103,981	小 計	496,520,087
歳 入 合 計	907,530,821	歳 出 合 計	716,024,659

歳入歳出差引額 191,506,162円（翌年度繰越金）

日赤岩手乳児院 59,922,268円

日赤鶯鳴荘 131,583,894円



## 13 評議員会の開催

令和元年度の評議員会は次のとおり開催され、支部並びに施設における事業、予算、決算等について審議した。

評議員会	期 日・場 所	審 議 等 事 項
第1回評議員会	令和元年6月20日（木） エスポワールいわて	協議事項 1 平成30年度事業報告 2 平成30年度一般会計歳入歳出決算 3 平成30年度医療施設特別会計歳入歳出決算 4 平成30年度社会福祉施設特別会計歳入歳出決算 5 その他 ・日本赤十字社長期ビジョンについて
第2回評議員会	令和元年2月5日（水） エスポワールいわて	報告事項 1 令和元年度活動資金（社資）収納状況及び災害義援金等の受付状況 2 令和元年度災害救護活動について 協議事項 1 令和元年度補正予算 2 令和2年度活動資金（社資）募集目標額 3 令和2年度事業計画 4 令和2年度一般会計歳入歳出予算 5 令和2年度医療施設特別会計歳入歳出予算 6 令和2年度社会福祉施設特別会計歳入歳出予算 7 本社代議員の選出



# 付 録



# 日本赤十字社岩手県支部役員、評議員名簿

(令和2年4月1日現在)

役 員 名 等	氏 名	職 業 名 等	摘要(選出区分等)
支 部 長	達 増 拓 也	岩 手 県 知 事	
副 支 部 長	谷 藤 裕 明	盛 岡 市 長	
〃	野 原 勝	岩 手 県 保 健 福 祉 部 長	
本社理事・代議員	三 浦 宏		
代 議 員	柿 木 康 孝		
〃	守 谷 祐 志		
〃	齊 藤 洋 美		
監 査 委 員	三 浦 千 代 子		
〃	遠 藤 勝 博		
〃	清 野 信 雄		
評 議 員	三 浦 宏	(株)岩手日報社相談役	支 部 長
〃	鎌 田 英 樹	(株)IBC岩手放送代表取締役社長	支 部 長
〃	柿 木 康 孝	(株)岩手銀行常務取締役	支 部 長
〃	守 谷 祐 志	無 職	盛 岡 市
〃	平 井 興 太 郎	会 社 役 員	盛 岡 市
〃	十 文 字 悦 子	無 職	盛 岡 市
〃	沼 崎 幸 夫	無 職	宮 古 市
〃	橋 爪 幸 平	会 社 役 員	大 船 渡 市
〃	齊 藤 洋 美	無 職	花 巻 市
〃	高 橋 祥 元	会 社 役 員	北 上 市
〃	木 戸 口 敏 男	団 体 職 員	久 慈 市
〃	菅 原 直 徳	公 務 員	遠 野 市
〃	坂 本 紀 夫	一 関 市 社 会 福 祉 協 議 会 長	一 関 市
〃	三 浦 千 代 子	会 社 役 員	一 関 市
〃	遠 藤 勝 博	無 職	陸 前 高 田 市
〃	清 野 信 雄	釜石市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	釜 石 市
〃	國 分 敏 彦	二 戸 市 議 会 議 員	二 戸 市
〃	田 村 勇	無 職	八 幡 平 市
〃	小 原 里 司	飲 食 業	奥 州 市
〃	菊 地 傳	無 職	奥 州 市
〃	主 浜 照 風	農 業	滝 沢 市
〃	猿 子 恵 久	雫 石 町 長	盛 岡
〃	佐 々 木 光 司	岩 手 町 長	盛 岡
〃	熊 谷 泉	紫 波 町 長	盛 岡
〃	細 井 洋 行	西 和 賀 町 長	北 上
〃	高 橋 由 一	金 ヶ 崎 町 長	水 沢
〃	青 木 幸 保	平 泉 町 長	一 関
〃	神 田 謙 一	住 田 町 長	大 船 渡
〃	平 野 公 三	大 槌 町 長	釜 石
〃	佐 藤 信 逸	山 田 町 長	宮 古
〃	小 田 祐 士	野 田 村 長	久 慈
〃	山 本 賢 一	軽 米 町 長	二 戸

(評議員任期 2019年2月14日～2022年2月13日)

# 日本赤十字社岩手県支部現勢

令和2年度 赤十字運動国際標語  
人間を救うのは、人間だ。

◎赤十字の基本原則	◎ジュネーブ条約締結国	196カ国
・人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性	○国際赤十字・赤新月社	192社

1. 沿革  
明治20年(1887)11月12日・・・日本赤十字社岩手委員部創立  
明治29年(1896) 5月20日・・・日本赤十字社岩手支部に改称  
昭和27年(1952) 8月14日・・・日本赤十字社岩手県支部に改称

2. 会員                      個人                      2,209人  
                                    法人                      3,601社

3. 評議員                      32人      (定員32人)

4. 役 員      (令和2年4月1日現在)  
支部長                      達増拓也  
副支部長                    谷藤裕明、野原勝  
本社理事                    三浦 宏  
本社代議員                   柿木康孝、守谷祐志、瀬川隆子  
支部監査委員                三浦千代子、遠藤勝博、清野信雄

5. 青少年赤十字                      (令和2年3月31日現在)

幼稚園・保育所	43校	2,682人
小 学 校	92校	21,225人
中 学 校	38校	8,709人
高 等 学 校	19校	1,076人
特 別 支 援 学 校	3校	90人
計	195校	33,782人

6. 赤十字ボランティア                      (平成30年3月31日現在)

地域赤十字奉仕団	32団	1,186人
青年赤十字奉仕団	3団	96人
特殊赤十字奉仕団	15団	632人
計	50団	1,914人

7. 有功会                      (令和2年3月31日現在)

組 織 数	会 員 数
18	776人

8. 講習普及活動

区 分	指 導 員 登 録 者 数
救 急 法	95人
水 上 安 全 法	17人
雪 上 安 全 法	1人
健 康 生 活 支 援	18人
幼 児 安 全 法	38人
計	169人

9. 国際活動  
NHK海外たすけあいキャンペーン

643件	849,887円
------	----------

10. 災害等救援

救 護 班	8班 48人
無 線 局	基地局 2、移動局 50
救 護 車 両	8台
取扱義援金等額	7,490件 873, 546, 292円
配布救援物資(令和元年度)	1,858個(毛布、緊急セット、バスタオル)

11. 医療事業

施 設 数	
病 院	1
病床総数(令和元年度)	438床
総患者数(令和元年度)	
入 院	98,851人 (270.1人/日)
外 来	134,461人 (560.3人/日)

12. 血液事業

施設数	車両台数
血液センター	1 献血バス 4台
献血ルーム	1 血液運搬車 10台
奥州供給出張所	1 その他車両 16台
献血者数(令和元年度)	供給本数(令和元年度)
成分献血 11,757人	赤血球 57,396本
400mL献血 29,826人	血漿 16,487本
200mL献血 1,813人	血小板 81,431本
合計 43,396人	合計 155,314本

13. 社会福祉施設

事業の区分	施設の種類の種類	施設数
児童福祉施設	乳 児 院	1
老人福祉施設	特別養護老人ホーム	1

14. 施設及び職員数 (令和2年4月1日現在)

区 分	施設数	職員数
支 部	1	11人
病 院	1	590人
血 液 セ ン タ ー	1	83人
乳 児 院	1	33人
特別養護老人ホーム	1	82人
合計	5	799人

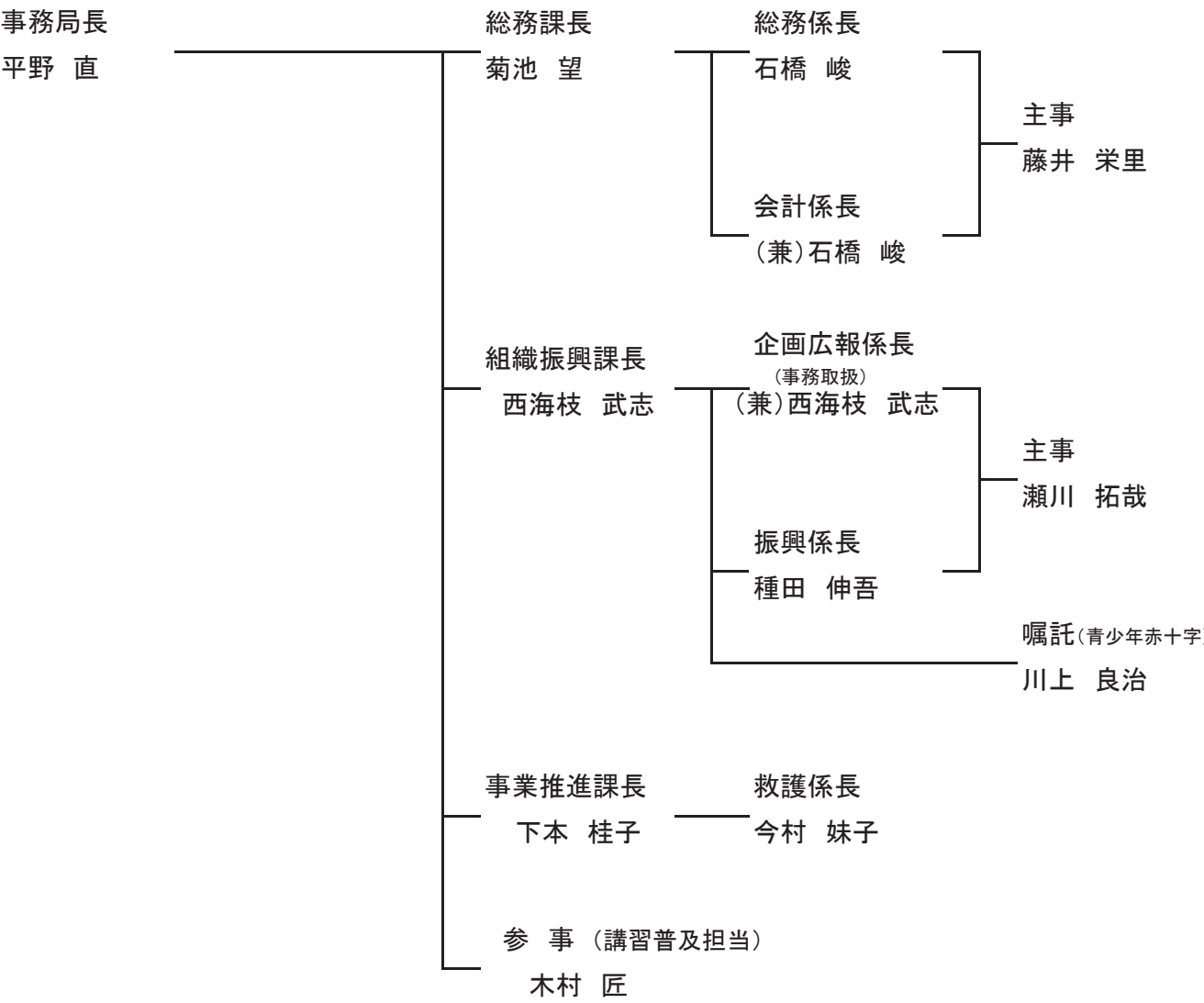
15. 会計 (令和2年度当初予算)

一 般 会 計 ( 支 部 )	214,812千円
社会福祉特別会計	956,194千円
医療事業特別会計	8,453,181千円

※血液事業特別会計は、ブロック化に伴い岩手センター単独での計上はなし

日本赤十字社岩手県支部組織図

令和2年4月1日現在



各施設等の職員数

施設等名	正職員	嘱託	臨時職員等	計
日本赤十字社岩手県支部	10人	1人	0人	11人
盛岡赤十字病院	471人	18人	101人	590人
岩手県赤十字血液センター	50人	24人	9人	83人
岩手県赤十字血液センター盛岡大通り出張所	(12人)	(4人)	(0人)	(16人)
岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所	(3人)	(2人)	(3人)	(8人)
日赤岩手乳児院	22人	8人	3人	33人
特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘	38人	29人	15人	82人
合計	591人	80人	128人	799人



各施設の幹部職員

「盛岡赤十字病院」

(令和2年4月1日現在)

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
病 院 長		久 保 直 彦	眼 科 部 長		欠
副 院 長		杉 村 好 彦	耳 鼻 咽 喉 科 部 長		佐 藤 尚 徳
			放 射 線 科 部 長		廣 瀬 敦 男
			麻 酔 科 部 長		西 嶋 茂 樹
総 合 診 療 科 部 長		欠	リハビリテーション科部 長	兼	久 保 直 彦
第 一 血 液 内 科 部 長		菅 原 健	ペインクリニック科部 長	兼	西 嶋 茂 樹
第 二 血 液 内 科 部 長		峰 貴 浩	健 診 部 長		鎌 田 弘 之
精 神 科 部 長		欠	病 理 部 長		欠
神 経 内 科 部 長		米 澤 久 司	薬 剤 部 長		鈴 木 弘 文
呼 吸 器 内 科 部 長		田 村 伸 夫	医 療 技 術 部 長	兼	杉 村 好 彦
消 化 器 内 科 部 長		藤 原 隆 雄	医 療 社 会 事 業 部 長	兼	藤 原 隆 雄
循 環 器 内 科 部 長		小 澤 真 人	医 療 技 術 部 技 師 長		藤 原 雅 之
小 児 科 部 長		欠			
消 化 器 外 科 部 長	兼	杉 村 好 彦	看 護 部 長		目 時 の り
第 一 外 科 部 長		大 山 健 一	看 護 副 部 長		藤 根 美 知 子
第 二 外 科 部 長		高 橋 正 統	看 護 副 部 長		小 田 切 宏 恵
小 児 外 科 部 長		欠	看 護 副 部 長		高 橋 節 子
緩 和 ケ ア 科 部 長		青 木 穀 一			
第 一 整 形 外 科 部 長		一 戸 克 明	事 務 部 長		佐 々 木 宏 文
第 二 整 形 外 科 部 長		八 重 樫 幸 典	総 務 課 長		石 山 武 美
第 一 脳 神 経 外 科 部 長		和 田 司	企 画 管 理 課 長 職 務 代 理		生 内 正 悦
第 二 脳 神 経 外 科 部 長		船 山 雅 之	管 財 課 長		阿 部 賢 二
皮 膚 科 部 長		馬 場 由 香	医 事 課 長		赤 平 寛 彦
泌 尿 器 科 部 長		瀬 尾 崇	施 設 管 理 課 長		松 橋 剛 久
第 一 産 婦 人 科 部 長		藤 原 純	医 療 社 会 事 業 課 長		畠 山 誠 次
第 二 産 婦 人 科 部 長		本 田 達 也	健 診 課 長		鷹 觜 康 之

「岩手県赤十字血液センター」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
所 長		増 田 友 之	採 血 課 長		中 島 み どり
事 業 部 長		梅 野 真 和	品 質 情 報 課 長		乳 井 和 夫
総 務 課 長		三 上 浩 二	医 務 課 長	兼	増 田 友 之
献 血 推 進 課 長		佐 藤 泉 悦	盛岡大通り出張所 長		岩 崎 満
学 術 情 報 ・ 供 給 課 長		中 村 秀 一	奥州供給出張所 長		齋 藤 久 悦

「日赤岩手乳児院」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
院 長	兼	梶 原 和 華	事 務 長		佐 々 木 孝 司

「特別養護老人ホーム鶯鳴荘」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
園 長		千 葉 豊 重	事 務 長	兼	千 葉 豊 重

# 岩手県支部のあゆみ

( )内は月

年 号	西 暦	あ ゆ み
明治10年	1877	博愛社創立
20年	1887	「博愛社」を「日本赤十字社」と改称(5) 「日本赤十字社岩手委員会」を創立(11)社員数14人
27年	1894	日清戦争が起こり救護活動開始(8) 日清戦争の間、盛岡駅等主要駅に救護員を派遣し傷病兵の救護、各駅に休憩所を設け茶菓等を提供(27.10～28.5)
29年	1896	本社規則の改正により「岩手委員会」を「岩手支部」と改称(7) 三陸大津波発生(6)被災者救護のため医員、看護婦等延102人を派遣。救護人員3,542人 岩手、稗貫、和賀3郡の地震被災地に医員2人を救護のため派遣。現地に診療施設を仮設して25人を救護(8)
30年	1897	本年度社員数5,239人
(10周年)		看護婦生徒養成細則を定め看護婦養成を開始。初年度入学10人
31年	1898	達曽部村の水害被災地に医員、看護婦4人を派遣し13人を救護 岩手、宮城、福島3支部共同で看護人教育を仙台陸軍衛戍病院に委託(岩手3人)
32年	1899	第1回岩手支部総会を盛岡中学校運動場で開催。参加人員3,244人。この総会の際第1回救護演習を盛岡城跡等を会場に実施(12)
33年	1900	北清事変の救護として、本社の召集により模範看護婦1人を広島予備病院に派遣 看護婦養成所を盛岡市内丸に移転。実務練習は私立盛岡病院に委託(10)
35年	1902	沼宮内町火災の被災地に医員、看護婦等8人を派遣し20人を救護(5)
36年	1903	第2回岩手支部社員総会を盛岡中学校運動場で開催。参加人員約3,500人。この総会の際第2回救護演習を盛岡城跡等を会場に実施(11)
37年	1904	日露戦争が起こり救護活動を開始(2)本社及び各県支部で教護班149人派遣 第50救護班を大阪予備病院(のちに弘前予備病院)に派遣 第51救護班を姫路予備病院に派遣 同戦争中盛岡駅等に患者休憩所を設け、支部職員及び篤志看護婦人会員などによる傷病兵の救護、送迎等を実施
39年	1906	東北飢饉に米国から義援金を受ける
40年	1907	本年度社員数20,681人
(20周年)		過去10年間の看護婦養成実績入学80人卒業61人
41年	1908	支部本館等の建設敷地を盛岡市仁王内丸に取得。面積2,550.65坪、価格6,750円
42年	1909	支部本館、看護婦生徒寄宿舍等新築建坪188.5坪建築価格23,800円
43年	1910	支部に救護看護婦養成所を設け本年から養成開始

年 号	西 暦	あ ゆ み
明治45年	1912	看護人教育を盛岡衛生病院に委託
大正 2年	1913	岩手支部「結核予防撲滅規程」制定(2)衛生劇、講演会等実施。診療取扱患者235人 (大正11年までの延患者取扱数9,921人)
5年	1916	日本赤十字社岩手支部病院設立計画本社承認 青森県下田・古間木駅間で本県入営兵の搭乗列車が貨物列車と衝突。死亡29人重軽傷100人の事故が発生。医員13人を救護のため派遣(11)
6年 (30周年)	1917	岩手支部病院工事着工(10)
7年	1918	盛岡市内に流行性感冒大流行のため臨時救護班等により延309人救護(11)
8年	1919	弘前第8師団各隊に流行性感冒大流行。同師団軍医部長の依頼により救護看護婦長等5人を派遣し553人を救護(12)
9年	1920	岩手支部病院落成(4) (内科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科98床工事費18万円余) 総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ開院式を挙(6) 第3回岩手支部社員総会に総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ岩手公園で開催。 参加入員4,800人(6) 支部病院開院に看護婦養成を同病院で実施
12年	1923	支部病院に小児科設置、病床数132床に増床(6) 関東地方大震災の救護のため、本社要請に応じて医員(4人)等27人の救護班を派遣し救護活動。篤志看護婦人会、学童の義援金、救援物資による救護も実施 岩手支部病院看護婦長峰谷カツ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
13年	1924	山田町大火にあたり、被災地に医員等3人を派遣11人救護(4) 日本赤十字社岩手県支部少年赤十字結成(9)
昭和 3年	1928	総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ御親授式を支部楼上において開催。さらに少年赤十字団御親閲式を岩手公園において挙(10) 岩手支部病院看護婦長長谷川トミ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
4年	1929	岩手支部病院看護婦宿舎を改築(7)
5年	1930	岩手支部病院附属産婆養成所開所(2) 総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ第4回社員総会、御親授式、支部病院創立10周年記念式及び少年赤十字団御親閲式を挙(9)
6年	1931	満州事変派遣救護班鉄嶺衛戍病院(昭和7.8.20解散)に救護看護婦3人派遣
7年	1932	岩手支部病院看護婦長沢田キヌ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
8年	1933	秋田県尾去沢鉱山の沈殿池堤防決壊による被災救護に救護班を派遣(11) 三陸大津波被災者救護のため4班(釜石町、山田町、小本村及び八木村各方面)の救護班を派遣し、臨時教護所を開設して延1,310人の患者を救護(3) (東京支部、新潟支部からも救護班の派遣あり)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和 9年	1934	岩手支部病院に乳幼児保育所(現日赤岩手乳児院)を開設(日本赤十字社の最初の児童福祉施設)
10年	1935	本年度少年赤十字結成状況366団体103,295人
11年	1936	秋田県尾去沢鉱山事故に救護班を派遣。17日間救護活動(11) 日本赤十字社の社旨普及の映画開催19か所参観者23,600人
12年 (50周年)	1937	日華事変が起こり、救護活動を開始(7) 赤十字病院の補助制が実施され、支部病院が陸海軍の戦時衛生業務を補助することとなる。(第1次昭14.1.10～15.5.15、第2次昭20.4.20～20.8.30、この間の収容治療延42,800人) 岩手支部病院看護婦菱川ハツ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
14年	1939	松尾鉱山の坑道が崩壊。生埋め者(246人)の救護のため医療班(医員3、看護婦27人、書記1)を派遣。救護患者数延1,397人
15年	1940	高松宮殿下より岩手保育所に対して500円を援助金として下賜(有栖川宮記念厚生資金)
16年	1941	青森県三本木町の大火に救護班を派遣(5) 第2次世界大戦が起こり、救護活動開始(12)
18年	1943	支部病院規則改正により、岩手支部病院を盛岡赤十字病院と改称(1)
19年	1944	大戦救護に全力を傾注するため平時事業中止
20年	1945	第2次世界大戦終る(8) 第2次世界大戦の救護本部廃止(II) (日華事変(昭12.7)から大戦終結までに派遣した救護班17班657人)
21年	1946	引揚者救護のため派遣救護班岩手第1班を編成し浦賀検疫所に派遣(5)
22年 (60周年)	1947	皇后陛下を日本赤十字社名誉総裁に推戴(1) 日本国憲法施行(5) キャサリン台風による被災地(一関市)に救護班を派遣、被災者救護の街頭募金を実施(9) 盛岡駅に赤十字ハウスを開設し病弱な旅行者等を救護(9) 社員の社費年額を10円以上と改正(1) 社員の社費年額を30円以上と改正(10)
23年	1948	アイオン台風による被災地(死亡393人、行方不明316人、被災者180,117人、被害総額127億円余)に対し、救護班9班を派遣延5,983人の患者を救護(9) 日赤岩手乳児院が児童福祉法に基づく福祉施設として認可(11) 岩手支部家庭看護法講習開始

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和25年	1950	共同募金と分離し赤十字単独で募金運動開始(白い羽根赤十字募金)(5) 岩手県と日赤岩手支部共催で身体障害者巡回相談を開始 看護婦養成所を盛岡赤十字看護学院と改称(3)。さらに11月盛岡赤十字高等看護学院と改称
27年	1952	「日本赤十字社法」制定。特殊法人となりこれを契機に募金運動より社員増強運動に移行(8) 「日本赤十字社岩手支部」を「日本赤十字社岩手県支部」と改称
28年	1953	日本赤十字社「新定款」制定(3) 社員の社費年額を100円以上と定款改正(4) 岩手県支部事務局長が第5次帰国船興安丸の日本赤十字社代表乗船者となる(天津より1,192人帰国)(8)
30年	1955	日本赤十字社「支部規則」制定(9) 本年度社員数128,496人 本年度社費募集額13,233,881円 本年度末赤十字奉仕団の結団状況 地域奉仕団143団12,839人 学生奉仕団1団50人 職域奉仕団1団130人 計145団13,019人
31年	1956	岩手県支部創立70周年記念事業として盛岡市大志田地区に赤十字山林造成開始 盛岡赤十字病院血液銀行を開設し、開所式を挙行(1) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ第5回社員大会並びに御親授式を県公会堂において開催(9) 社員制度改正、法人社員を設ける(有功章を金色、銀色の2種とする)(4)
32年 (70周年)	1957	浄法寺町火災の被災16世帯に医療班を派遣(4) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ親授式を支部において開催(11) 和賀、胆沢地方の強風災害に災害救助法が適用され、被災世帯に救援金を贈る(12)
33年	1958	21号及び22号台風の被災に対して盛岡地区及び久慈地区に災害救助法が適用され、日赤県支部は報道機関、岩手県社会福祉協議会とともに「水害義援金募集岩手県委員会」を設置して募集(支部扱い義援金5万円余、義援品1,720点) 盛岡赤十字病院附属藪川診療所開設(6) 本社主催の日赤奉仕団中央指導者講習会を花巻市志戸平において開催(第1ブロック各支部から43人参加)
34年	1959	15号台風の被災地への救援のため「義援金募集岩手県委員会」を設置して募集。愛知県等に義援金品を分配 三陸村及び田老町の豪雨災害に災害救助法が適用され、救援品を贈る。 イタリア赤十字から贈られたソルフェリーノの記念樹「糸杉」の種子の配布があり、小山苗圃で愛育管理(62年現在県内には育成していない)



年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和35年	1960	チリ地震津波の被害が甚大なことから「義援金募集委員会」を設置して募集。県内外から多大の義援金品が寄せられ、配分委員会によって7,545万円余、2万5千余個の配分を決定し被災地に送付 赤十字による在日朝鮮人の帰還業務が開始され、岩手県支部に臨時帰還業務岩手県対策本部を設置。市地区、町村分区に日赤窓口を設置して帰還業務にあたる。第1回帰還30人
36年	1961	三陸沿岸大火強風災害による被災者(1,008世帯 5,211人 死者5人)に救護班(8班延169人 取扱い患者2,300余人)を派遣したほか、「義援金募集岩手県委員会」を設置して募集(義援金2,104万円余、義援品7,718個)(5) 日赤、郵政省、NHK共催によるNHK夏季移動相談(医療等)を山田町において実施(8)
37年	1962	第1回赤十字奉仕団及び青少年赤十字大会を盛岡市下ノ橋中学校において開催。参加者200人(5)
38年	1963	盛岡赤十字病院第1期改築工事完成(1) 国際赤十字百周年記念岩手県大会を県公会堂において開催(10) 在日朝鮮人の帰還業務が日赤単独で実施となる。38年の帰還者11人 累計124世帯494人
39年	1964	新潟地震の被災者に義援金品を贈る(1,052万円余、8梱包) 北海道冷害、山陰地方水害及び大島火災者の被災に義援金品を贈る 東京オリンピック県内聖火リレーに救護班を派遣 協賛委員制度の充実を図るため、社業推進地区として5町村分区を指定 「岩手県献血推進協議会」設置(11)
40年	1965	「岩手県赤十字血液センター」開所(3) 名誉副総裁高松宮妃殿下の御臨席を仰ぎ有功章御親授式並びに社員大会を県公会堂において開催(9) 本年度社員数192,025人 本年度社費募集総額28,349,416円 本年度献血者4,105人
41年	1966	県北・沿岸豪雨災害にあたり、久慈市に救護班を派遣。県内外から義援金品が贈られる。 地域代表協賛委員研究会を4地域で開催(初年度)
42年 (80周年)	1967	岩手県献血推進員制度発足。県内15保健所に駐在(9) 盛岡赤十字病院第2期病棟改築工事完成(12) 釜石地区に水上安全奉仕団(25人)結成
43年	1968	岩手県赤十字会館新築落成(鉄筋コンクリート造4階建延2,643㎡支部事務局、血液センター及び乳児院)(1)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和44年	1969	盛岡赤十字高等看護学院新築落成(鉄筋コンクリート造4階建1,554㎡)(1) 赤十字会館、高等看護学院及び赤十字病院第2期工事の完成を祝して落成式を挙行(7) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、岩手県赤十字社員大会を県公会堂において開催。参加約1,000人(10) ナイジェリア内戦によるビアフラ難民救済の義援金品を本社計画に応じて募集
45年	1970	山形、大野両村の林野火災の被災地に救護員を派遣し、義援金品を贈る ペルー地震ならびに東パキスタン地方高潮の被災者に救援金を募集。本社を通じて被災地に送る。
46年	1971	岩手アマチュア無線クラブに赤十字奉仕団結成(団員208人) 社員の社費額を300円以上と定款改正(5か年間の経過措置を設ける)(4) 雫石町上空における全日空機墜落事故にあたり、赤十字病院医師、看護婦による死体処理作業班(4班72人)を派遣。アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団は情報通信連絡等で救援活動(7)
47年	1972	北朝鮮帰還援助。第6次帰還船ですべての帰還業務終了 家庭看護法講習会に第3部(老人看護)を新設 本県初の有功会結成(都南村分区)
48年	1973	青少年赤十字岩手県大会を県公会堂において開催。参加者800人(10) 和賀地方豪雪被災地に全国から食料品の援助
49年	1974	主要国道事故多発地帯に「交通事故救急連絡所」を4カ年計画で設置(62カ所のうち初年度15カ所]
50年	1975	本年度社員数216,020人 本年度社費募集額81,460,873円 本年度献血者46,629人 本年度赤十字奉仕団状況7団689人 本年度青少年赤十字加盟校64校13,998人
51年	1976	山形県酒田市の大火災の被災者に対する救援金募金 中国から永久帰国者に対する日本語習得のための講師派遣等の事業を県の委託で本年度から実施(本年3世帯) 盛岡赤十字高等看護学院が看護専門課程の設置認可を受け、盛岡赤十字看護専門学校と改称(4)
52年 (90周年)	1977	遠野市地区有功会結成(4) 日本赤十字社新社屋落成(4) 日本赤十字社創立100周年記念事業を実施 1.日赤100周年記念座談会を岩手日報社と共催で開催(4)



年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和53年	1978	2.赤十字事業についての史実、現況等を収録した日赤100周年記念特集号の発行(5) 3.赤十字「岩手のつどい」開催。参加400余人(5) 献血者予約登録(現献血登録)制度発足(7) 宮城県沖地震により仙台赤十字病院の給食設備が被害を受け、岩手県支部は救援車によりパン(390食)牛乳(300ケ)を輸送して救援 主要スキー場にスノーボード配置を始める(初年度6台)
54年	1979	水沢市地区有功会結成(3) 特別養護老人ホーム「日赤鶯鳴荘」開設(鉄筋コンクリート造平屋建2,314㎡工事費4億2,800万円余、入所定員80人)(5) ベトナム難民の永住者、中国からの永住帰国者及びカンボジア難民に対して寝具、日用品、救援金を贈る。
55年	1980	北上市地区有功会結成(2) 紫波町同(6) 日赤救援車を3市地区に配置(4カ年計画で全市地区(13)に配置する計画) 救護用天幕を20町村分区に配置(3カ年計画で全市地区、町村分区(62)に配置する計画) 家庭看護法講習に幼児家庭看護法を加える
56年	1981	台風15号本県縦断。被災者に本社を経て義援金の寄託があり、遠野市ほか4地区に配分 盛岡赤十字病院移転用地の売買契約締結
57年	1982	「愛の血液助け合い運動月間」に県南地区を対象として献血キャラバン隊によるPR実施(7) 岩手県Rh(一)友の会連合会結成。会員600人
58年	1983	国際赤十字創設120周年並びにNHKテレビ放送30周年にあたり、NHKと日本赤十字社で「海外たすけあい」を実施(2) フェーン現象のもとで林野等の火災が県内各地に発生(4.27)。被害甚大な久慈市に医療救護班(7人)の派遣並びに救援物資配布(1,000人分)のほか義援金品の募集(18,243,000円、40,400個)
59年	1984	陸前高田市芸能奉仕団結成(2) 江刺市地域奉仕団結成(4) 西磐井地区有功会結成(4) 北部3県支部災害救護訓練。参加者450人(うち奉仕団250人)(10) 東磐井地区有功会結成(11) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンを歳末たすけあいと同時に初めて実施(12)
60年	1985	県総合防災訓練に花巻市赤十字奉仕団非常炊き出し訓練に初めて参加(8) 災害用移動炊飯器を地区分区に配置開始

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和61年	1986	<p>矢巾町、大東町、紫波町、室根村の4地域奉仕団結成</p> <p>二戸地区有功会結成(10)</p> <p>本年度社員数 303,958人</p> <p>本年度社費募集額 178,721,869円</p> <p>本年度有功会結成状況 9有功会 457人</p> <p>本年度赤十字奉仕団状況 28団 1,082人</p> <p>本年度青少年赤十字加盟校 116校 33,443人</p> <p>本年度献血者 95,143人</p> <p>社員の社費年額を500円以上と定款改正(3ヵ年間の経過措置を設ける)(4)</p> <p>花巻地区有功会結成(3)</p> <p>盛岡赤十字病院移転工事着工(3)</p> <p>岩手県機構改革に関連し、日赤郡地区の名称及び所管区域変更(4)</p> <p>宮古地区有功会結成(8)</p> <p>支部創立100周年記念事業計画概要まとまる。第1回地区分区担当職員の本社1目研修会実施</p>
62年 (100周年)	1987	<p>陸前高田市、北上市に地域奉仕団結成</p> <p>陸前高田市地区有功会結成(1)</p> <p>赤十字フェスティバル開催(5)</p> <p>盛岡市地区有功会結成(10)</p> <p>水沢地区有功会結成(11)</p> <p>盛岡赤十字病院、盛岡赤十字看護専門学校及び災害救援センター新築落成(11)</p> <p>(病院) 鉄筋コンクリート5階 延29,244㎡ 61億円</p> <p>(学校) 鉄筋コンクリート2階 1,998㎡ 3億2,000万円</p> <p>(センター) 鉄筋平屋建 569㎡ 3,000万円</p> <p>敷地90,573㎡</p>
63年	1988	<p>岩手県支部有功会連合会結成(3)</p> <p>名誉副総裁三笠宮寛仁親王妃殿下のご臨席を仰ぎ支部創立100周年記念岩手県赤十字大会を岩手県民会館において開催。参加者約2,000人</p> <p>支部事務局組織改正(総務課、振興課、事業課)(7)</p> <p>大船渡市地区有功会結成(10)</p> <p>盛岡市大通りに血液センター献血ルーム開設(11)</p> <p>遠野市赤十字奉仕団(3) 住田町アマ無線赤十字奉仕団結成(8)</p>
平成元年	1989	<p>皇后陛下を名誉総裁に推戴(1)</p> <p>花巻市地区有功会結成(3)</p> <p>東山町赤十字奉仕団結成(3)</p>

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成 2年	1990	赤十字フェスティバル開催(5) 日赤鷺鳴荘創立10周年記念式挙行(9) 地区分区事務担当職員本社研修会実施(9) 北上地区有功会結成(1) 江刺市地区有功会結成(3) 日赤鷺鳴荘老人短期保護施設建設 岩泉町赤十字奉仕団(2)、江刺市赤十字芸能奉仕団(3)結成 血液センター移転新築工事着工(7) 中東湾岸戦争の発生により本社において救援活動開始(8) 北部3県支部合同災害救護訓練。参加者700人(10) 台風による被害甚大(9月18号 11月28号)救援物資等の救援活動 久慈地区有功会結成(11)		
3年	1991	田野畑村赤十字奉仕団結成(2) 葛巻町分区有功会結成(3) 北上市地区、和賀町分区、江釣子村分区合併(4) 中村直支部長退任(4)、工藤巖支部長就任(5) 雫石町分区有功会結成(5) 赤十字フェア大船渡市において初めての地方開催(5) 新北上市地区有功会結成総会(7) 血液センター新築落成(7)。鉄筋コンクリート造5階 延4,495.09㎡ 10億5千万円余 赤十字会館改装成る(12) 長崎県普賢岳災害に救援金募集。5,300万余円(6-12)		
4年	1992	九戸村赤十字奉仕団、一戸町アマチュア無線赤十字奉仕団結成(2) 浄法寺町赤十字奉仕団結成(4) 盛岡市地区と都南村分区合併(4) 盛岡市地区有功会と都南村分区有功会合併(4) 盛岡赤十字病院診療棟増築(リハビリ、透析)(4) 盛岡赤十字病院が社団法人日本病院建築協会主催第1回病院建築賞受賞(4) 支部が雫石町から受託し、デイサービス事業(D型)開始(7) 二戸市赤十字奉仕団結成(7) 「'92赤十字フェア」二戸市で開催(10) 大韓赤十字代表団が来県(11) 盛岡赤十字病院平成4年度都市景観賞受賞(11)		

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 5年	1993	<p>’93アルペンスキー世界選手権に積極支援 (救護、通訳、旗門審判、医療セット配備)(2月3日～4日)</p> <p>大船渡地区有功会結成(3月8日)</p> <p>金ケ崎町赤十字奉仕団結成(3月8日)</p> <p>支部事務局組織5年ぶりに改正(4月1日)</p> <p>支部初の献血功労・金色功労楯表章者誕生(献血350回)(4月)</p> <p>「’93赤十字フェア」(一関市)(5月20日)</p> <p>第29回献血運動推進全国大会に全国から2,000名参加。成功裡に終わる(7月14日)</p> <p>皇太子、同妃両殿下岩手県血液センター、盛岡赤十字病院ご視察(7月13日)</p> <p>北海道南西沖地震(7月12日地震発生)被災者救援に盛岡赤十字病院の医師、看護婦及び支部職員を救護班として派遣したほか、義援金1億2百万円余(6年3月末までの間)と空前の善意集まる</p> <p>支部がデイサービスセンター(雫石町)の経営を受託し、地域との連携大きく前進(工事着工8月、完成12月、業務開始6年2月)</p> <p>北海道南西沖地震被災者に対する見舞金贈呈式(具志堅用高氏から工藤支部長に)(10月16日)</p> <p>献血ルーム「メルシー」開設5周年(一日所長にグレートサスケを迎える)(11月4日)</p> <p>ネパール給水事業の現地確認と周辺赤十字の視察研修に支部職員派遣(12月13日～25日)</p>
6年	1994	<p>献血ルーム70,000人達成(1月7日)</p> <p>千厩町赤十字奉仕団結成(3月25日)</p> <p>種市町赤十字奉仕団、野田村赤十字奉仕団結成(3月29日)</p> <p>支部受託の雫石町デイサービスセンター(B型)完成し、事業開始(4月1日)</p> <p>盛岡赤十字病院診療棟増築工事完了(4月30日)</p> <p>世界赤十字デー蘇生法普及全国統一イベント(盛岡市)(5月8日)</p> <p>「’94赤十字フェア」(北上市)(5月20日)</p> <p>血液事業全国統一システム導入(6月1日)</p> <p>ルワンダ難民救援金募集開始(8月2日)</p> <p>本社主催青少年赤十字ネパール派遣事業に全国10人の1人に選出される(岩手女子高生)(8月3日～17日)</p> <p>献血ルーム成分献血の日キャンペーンに城南小学校生(JRC)が一日所長(9月4日)</p> <p>宮城県豪雨災害に際し、救援物資(毛布1,000枚、日用品セット500個)贈る(9月23日)</p> <p>北部3県支部合同災害救護訓練(青森)(9月27日)</p> <p>第3回全国ボランティアフェスティバル岩手(10月15日～16日)</p> <p>三陸はるか沖地震発生(マグニチュード7.5 震度八戸6、盛岡、青森5)(12月28日)</p>

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成 7年	1995	<p>三陸はるか沖地震義援金募集開始(1月4日)</p> <p>兵庫県南部地震災害(阪神・淡路大震災)発生。直ちに義援金募集開始(1月17日)</p> <p>兵庫県南部地震災害被害者救援として支部職員2名派遣(1月21日～1月27日)</p> <p>兵庫県南部地震災害医療救護班第1陣(8名)現地派遣(1月28日～2月4日)</p> <p>兵庫県南部地震災害医療救護班第2陣(5名)現地派遣(2月17日～2月21日)</p> <p>雫石町赤十字奉仕団結成(2月2日)</p> <p>川崎村赤十字奉仕団結成(2月9日)</p> <p>釜石地区大槌町分区有功会結成(3月28日)</p> <p>有功章社員章等贈与規則の一部改正(4月1日)</p> <p>支部受託雫石町在宅介護支援センター事業開始(4月1日)</p> <p>盛岡赤十字病院開院75周年記念式典(4月15日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部工藤巖支部長退任(4月28日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部増田寛也支部長就任(4月29日)</p> <p>世界赤十字デー周知キャンペーンの一環として瀬戸内寂聴氏の講演会開催(5月6日)</p> <p>サハリン地震被災者救援のため救援金募集開始(6月1日～8月31日)</p> <p>赤十字日韓職員交換研修のため支部職員を韓国に派遣(6月8日～6月17日)</p> <p>病院問診項目の全国統一(7月1日)</p> <p>ボランティアによる在宅訪問サービス事業開始(一関市)(7月25日)</p> <p>日赤同方会桐花会殉職会員等慰霊祭(9月10日)</p> <p>岩手県赤十字血液センター創立30周年記念式典(9月14日)</p> <p>本社主催海外視察研修(ヨーロッパ)のための支部職員派遣(9月24日～10月9日)</p> <p>岩手日報主催読者が選んだ'95岩手の10大ニュース「阪神・淡路大震災義援金件数で全国一」が7位となる(12月25日)</p>		
8年	1996	<p>日赤社長名で阪神・淡路大震災義援金の感謝広告、1月27日全国紙5紙ブロック紙4紙に広告。本社都道府県支部扱い件数2,612,439件 金額100,189,633,654円(1月17日現在)</p> <p>遠野地区宮守村分区有功会結成(2月26日)</p> <p>花泉町赤十字奉仕団結成(3月11日)</p> <p>沢内村赤十字奉仕団結成(3月22日)</p> <p>盛岡赤十字病院、岩手県における基幹災害拠点病院に指定(4月)</p> <p>献血ルーム「メルシー」献血者10万人達成(4月19日)</p> <p>秋山ちえ子講演会(赤十字運動月間広報キャンペーンの一環として)(5月9日)</p> <p>北上川上流水防演習に医療救護班派遣(5月31日)</p> <p>釜石市地区有功会結成(6月25日)</p> <p>救護用エアーテント2張りを配置(8月22日)</p>		

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 9年 (110周年)	1997	<p>阪神・淡路大震災被災者に対する支援活動に対し菅厚生大臣からの感謝状受賞(8月22日)</p> <p>盛岡赤十字病院、血液センター主会場に第1ブロック合同災害救護訓練の実施(9月25日～26日)</p> <p>県支部特別企画「赤十字の創始者アンリー・デュナンの足跡を訪ねて」初の海外研修視察(10月5日～15日)</p> <p>大槌町赤十字奉仕団結成(11月10日)</p> <p>日赤鶯鳴荘で、デンマーク介護専門職員招聘による介護技術研修開催(2月3日～5日)</p> <p>阪神・淡路大震災への支援活動続く</p> <p>平成8年度岩手県支部扱い義援金累計732,502,079円</p> <p>石鳥谷、紫波町山林火災に救援物資(炊き出し資材、毛布40枚、タオル40枚)支部職員4名派遣(5月2日)</p> <p>海老名香葉子講演会(赤十字運動月間広報キャンペーン)の開催(5月7日)</p> <p>県内献血協力者延べ200万人を達成(6月4日)</p> <p>(200万人達成謝恩キャンペーンを実施)</p> <p>村上タマオさん(朝鮮民主主義人民共和国在住日本人配偶者)盛岡市へ帰郷(1月29日～30日)</p>
10年	1998	<p>岩手県赤十字大会(岩手県支部創立110周年・同有功会連合会結成10周年記念)</p> <p>名誉副総裁高円宮妃殿下ご臨席宮妃殿下より有功章のご授与62名に</p> <p>盛岡赤十字病院、岩手県赤十字血液センターご視察(11月20日)</p> <p>赤十字活動の財政基盤となる社費実績額が269,499,916円に</p> <p>日赤岩手県支部広報業務連絡調整要綱制定。赤十字施設関係者による広報委員会発足(1月)</p> <p>家庭に眠る善意で“世界の子供を救おう!” 75.50全国統一バザーの開催(5～6月)</p> <p>(青少年赤十字創設75周年・赤十字奉仕団創設50周年記念行事として)</p> <p>岩手県内20会場でバザー収益金 1,818,987円</p> <p>家族計画組織活動セミナー(12カ国13人)が盛岡赤十字病院を視察研修(5月)</p> <p>岩手山西側の大地獄谷周辺で火山性地震が断続的に発生していることから岩手県では災害警戒本部を設置。支部においても災害警戒本部を設置。各施設においては防災体制の強化に努めた(6月)</p> <p>盛岡赤十字病院、厚生省臨床研修病院に指定される(7月)</p> <p>東北地方に停滞した前線の影響で、岩手県南部と沿岸地域に洪水被害</p> <p>一関市、川崎村、平泉町、東山町に毛布、日用品セット、バスタオル等を搬送。福島県支部には700枚の毛布を搬送(8月)</p> <p>9月3日午後4時58分雫石町長山で震度6を記録。震源地は火山活動が活発になってい</p>

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成11年	1999	<p>る岩手山周辺であることから、緊張が高まる</p> <p>赤十字講習(家庭看護法・救急法)専用室を設置し、普及活動の充実を図る(9月)</p> <p>二戸市地区有功会結成(11月6日)</p> <p>献血推進専門員制度が発足。県内6ブロックに6名配置(4月)</p> <p>沿岸地方の大雨災害で、陸前高田市、大船渡市、釜石市、遠野市、大槌町に毛布、日用品セット、バスタオルを搬送(7月14日)</p> <p>日赤鶯鳴荘創立20周年記念式典(10月19日)</p> <p>大雨により軽米町に災害救助法が適用されるなど、県北部に大きな被害が発生したため二戸市、久慈市、軽米町、山形村に毛布、日用品セット、バスタオルを搬送(10月28日)</p> <p>軽米町大雨災害義援金の募集を開始。(10月29日) 274件 20,212,192円が集まり、義援金配分委員会の決定のもと、二戸市、久慈市、軽米町、山形村、九戸村、普代村に配分</p>
12年	2000	<p>水沢市地区有功会創立20周年記念式典(11月27日)</p> <p>支部初の青少年赤十字国際交流事業の準備として、シンガポール赤十字社を事前視察(3月)</p> <p>北海道有珠山噴火(3月31日)。岩手県支部救護班(班長以下7名)伊達赤十字病院内赤十字現地対策本部へ派遣。避難所の巡回診療にあたる(4月11日～14日)</p> <p>盛岡市ふれあいランド岩手において「第1回赤十字フェスティバル」を開催(5月27日)</p> <p>台風3号の影響により、野田村、普代村地域の避難所へ毛布、日用品 セット、バスタオルの救援物資を緊急輸送(7月8日)</p> <p>青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(8月8日～13日)</p> <p>住田町赤十字奉仕団結成(9月26日)</p> <p>赤十字幼児安全法講習が開始され、救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法と併せて、5大講習となる</p>
13年	2001	<p>久慈ライフセービング赤十字奉仕団結成(2月1日)</p> <p>防災ボランティア地区リーダー養成研修会開催(3月6日～7日)</p> <p>盛岡市川徳デパート前広場において「第2回赤十字フェスティバル」を開催(5月12日)</p> <p>青少年赤十字国際交流事業実施。シンガポール国から青少年を迎え交流(6月11日～16日)</p> <p>種市町において支部初の水上安全法「海」講習開催(8月10日～11日)</p>
14年	2002	<p>大船渡市地区と三陸町分区合併(11月)</p> <p>江刺市赤十字芸能奉仕団解団(3月31日)</p> <p>一関市地区赤十字奉仕団と一関市地区婦人赤十字奉仕団が一本化し、一関市赤十字奉仕団として再結成(5月8日)</p>



年 号	西 暦	あ ゆ み
平成15年	2003	<p>北上市江釣子ショッピングセンター・パルにおいて「第3回赤十字フェスティバル」を開催(5月12日)</p> <p>日本赤十字社法制定50周年・日本赤十字社創立125周年記念全国赤十字大会(東京都:明治神宮会館)に岩手県から25名が出席(5月16日)</p> <p>台風6号大雨災害により東山町に災害救助法が適用(7月11日)</p> <p>赤十字防災ボランティアリーダー1名を現地に派遣(7月19日～21日)</p> <p>東山町大雨災害義援金の募集を開始(7月16日)、222件8,403,504円が集まり、義援金配分委員会の決定のもとに被災した29市町村に配分</p> <p>青少年赤十字岩手県賛助会から岩手県青少年赤十字賛助奉仕団に移行(7月25日)</p> <p>富士大学学生赤十字奉仕団結成(10月1日)</p> <p>青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(1月8日～12日)</p> <p>北上市江釣子ショッピングセンター・パルにおいて「第4回赤十字フェスティバル」を開催(5月18日)</p>
		<p>宮城県沖地震(三陸南地震)18時24分発生。県南部を中心に震度6弱を記録。19時10分盛岡赤十字病院医療救護班待機。同日21時20解散。被災者に対し、大船渡市地区から救援物資(毛布・日用品セット・バスタオル)配布(5月26日)</p> <p>宮城県北部地震発生。宮城県支部に日用品セット(200セット)を送付(7月26日)</p> <p>岩手県消防学校、盛岡赤十字病院を主会場に第1ブロック合同災害救護訓練を実施(10月8日～10日)</p>
16年	2004	<p>盛岡赤十字看護専門学校閉校(3月)</p> <p>盛岡赤十字看護専門学校学生奉仕団解団(3月)</p> <p>遠野市ショッピングセンターとぴあにおいて、「第5回赤十字フェスティバル」を開催(5月30日)</p> <p>地域高齢者生活支援の一環として、新たに「セラピューティック・ケア」講座の講習に取り組んだ</p> <p>青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(8月7日～12日)</p> <p>青少年赤十字国際交流事業「パプアニューギニア国」RCYメンバー受入れ(11月13日～19日)</p> <p>新潟県中越地震発生(10月23日 17:56 震度7) 小千谷市に2個班の救護班を派遣し、緊急仮設診療所(ERU)における医療活動、被災者のこころのケア等を行うとともに、日赤現地災害対策本部への要員派遣、救援物資搬送要員派遣を行い救護活動を行った</p> <p>インドネシアスマトラ沖地震(12月26日 津波被害発生)に対し、救援金の受付(～6月30日)</p>

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 17 年	2005	<p>福岡県西方沖地震災害に対する義援金の受付(3 月～5 月)</p> <p>愛知県で開催された愛・地球博(3 月～9 月)の「愛知万博赤十字パビリオン」の運営スタッフとして支部職員を派遣(4 月 10 日～16 日)</p> <p>水沢グランドホテルライブラリーホールにおいて、水沢市商人まつりと併催し「第 6 回赤十字ふれあいフェスティバル」を開催(6 月 12 日)</p> <p>青少年赤十字国際交流事業実施。シンガポール国から青少年を迎え交流(6 月 9 日～14 日)</p> <p>第 3 回「献血スタンド・バイ・ミー」親と子の血液センター見学会を実施(7 月～8 月)</p> <p>アメリカ南部レイジアナ州に上陸したハリケーン「カトリーナ」の被害に対する救援金の受付(9 月～10 月)</p> <p>パキスタン北部で発生した(10 月 8 日)地震災害に対する救援金の受付(10 月～11 月)</p> <p>支部、関係施設、防災ボランティア合同による災害救護訓練の実施(10 月 14 日)</p> <p>いわぎん健康クラブから赤十字血液センターの血液運搬車の寄贈(購入経費の一部)(11 月 29 日)</p>
平成 18 年	2006	<p>「こころのケア」研修の実施(2 月 24 日)</p> <p>バイク奉仕団の結成(2 月 2 日)</p> <p>第一ブロック事業国際活動対象国(ベトナム)視察事業に青少年賛助奉仕団副委員長参加(2 月 20 日～25 日)</p> <p>フィリピン中部のレイテ島で発生した(2 月 17 日)地滑り災害に対する救援金の受付(2 月～3 月)</p> <p>支部国民保護計画の策定(3 月)。保護計画に伴う N B C 災害除染セット整備(3 月)</p> <p>インドネシアのジャワ島中部で発生 (5 月 27 日) した地震災害に対する救援金の受付(5 月～6 月)</p> <p>岩手県ライフセービング赤十字奉仕団結成 (7 月 1 日)</p> <p>「第 7 回赤十字ふれあいフェスティバル」を県立福祉の里センター(大船渡市)で開催(7 月 2 日)</p> <p>地区分区有功会の再編(解散有功会:江刺市地区、宮守村分区、水沢市地区、水沢地区、千厩地区、花巻地区)(結成有功会:奥州市地区)</p> <p>山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団結成(10 月 1 日)</p>
平成 19 年 (120 周年)	2007	<p>A E D(自動体外式除細動器)を旧市町村に 58 台配備(1 月)</p> <p>八幡平市赤十字奉仕団結成(3 月 11 日)</p> <p>救急法基礎講習始まる(4 月)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部増田寛也支部長退任(4 月 29 日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部増達拓也支部長就任(4 月 30 日)</p> <p>新潟県中越沖地震発生(7 月 16 日)</p> <p>岩手県支部救護班(7 名)を現地に派遣(7 月 20 日～22 日)</p> <p>前線停滞の影響による大雨被害発生。盛岡市、紫波町、石鳥谷町に救援物資輸送(9 月 17 日)</p> <p>「第 8 回赤十字ふれあいフェスティバル」を浄法寺文化センターで開催(11 月 11 日)</p> <p>バングラデシュ西海岸を襲った(11 月 15 日)サイクロン災害に対する救援金の受付(11 月～12 月)</p>

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 20 年	2008	<p>ミャンマー・サイクロン災害（5月2日～3日）に対する救援金の受付（5月9日～6月10日）</p> <p>中国大地震災害（5月12日）に対する救援金の受付（5月14日～6月10日）</p> <p>岩手・宮城内陸地震発生（6月14日）</p> <p>岩手県支部救護班（7名）を一関市に派遣（6月14日）</p> <p>こころのケア班（延べ15名）を奥州市に派遣（6月23日～27日）</p> <p>岩手県沿岸北部を震源とする地震発生（7月24日）</p> <p>岩手県支部救護班（7名）を洋野町に派遣（7月24日）</p> <p>防災ボランティアのためのこころのケア研修始まる（10月、12月、3月実施）</p> <p>AED（自動体外式除細動器）をJRC加盟の2高等学校に配備（11月）</p> <p>柔道整復師会赤十字奉仕団結成（11月）</p> <p>赤十字奉仕団基礎研修開催（二戸市、宮古市、釜石市、久慈市、岩泉町）</p> <p>岩手県赤十字大会（岩手県支部創立120周年・同有功会連合会結成20周年記念（11月8日）</p> <p>岩手県支部創立120周年記念事業国内交流派遣事業（本社・東京都支部へ7名高校生）</p>
平成 21 年	2009	<p>「第9回赤十字ふれあいフェスティバル」を花巻市総合体育館で開催（5月4日）</p> <p>盛岡赤十字病院緩和ケア病棟竣工記念式典（5月15日）</p> <p>岩手大学学生赤十字奉仕団・イーハトーブ学生赤十字奉仕団合同結団式（7月18日）</p> <p>台湾台風災害（8月7日）に対する救援金の受付（8月20日～9月18日）</p> <p>岩手県議会議員連盟盛岡赤十字病院緩和ケア病棟視察（9月1日）</p> <p>日赤鶯鳴荘創立30周年記念式典（9月18日）</p>
平成 22 年	2010	<p>スマトラ島沖地震災害（9月30日）に対する救援金の受付（10月2日～10月30日）</p> <p>ハイチ地震災害（1月13日）に対する救援金の受付（1月13日～2月12日）</p> <p>チリ大地震災害（2月27日）に対する救援金の受付（3月1日～4月30日）</p> <p>国内型緊急対応ユニット【dERU】盛岡赤十字病院へ配備（3月30日）</p> <p>国内型緊急対応ユニット【dERU】実技研修 盛岡赤十字病院（4月21日～22日）</p> <p>社員増強運動月間街頭キャンペーン【カワトク前・クロステラス】（5月1日）</p> <p>NBC訓練【盛岡駅・盛岡赤十字病院】（7月30日）</p> <p>「第10回赤十字ふれあいフェスティバル」を宮古市シートピアなどで開催（8月29日）</p> <p>「第1ブロック支部合同災害救護訓練」岩手産業文化センターアピオ（10月5日～6日）</p> <p>中国青海省地震災害（4月14日）に対する救援金の受付（4月15日～5月31日）</p> <p>広島県大雨災害（7月）に対する義援金の受付（7月21日～8月31日）</p> <p>山口県大雨災害（7月）に対する義援金の受付（7月22日～8月20日）</p> <p>奄美地方大雨災害（10月20日）に対する義援金の受付（10月25日～11月30日）</p>
平成 23 年	2011	<p>東日本大震災発生（3月11日）</p> <p>東日本大震災（3月11日）に対する義援金の受付（3月12日～）</p> <p>奈良県台風12号災害義援金の受付（9月8日～10月31日）</p> <p>和歌山県平成23年台風12号災害義援金の受付（9月9日～平成24年3月30日）</p> <p>「第11回赤十字ふれあいフェスティバル」を一関市総合体育館サブアリーナで開催（10月29日）</p>
平成 24 年	2012	<p>東日本大震災復興支援事業「こころのケア」（平成23年9月～平成25年3月まで）</p> <p>東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキング」（平成23年10月～継続）</p>

平成 25 年	2013	<p>東日本大震災復興支援事業「青空教室」(6月・9月・11月)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「炊き出し交流会」(5月～平成25年3月)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月16日)</p> <p>茨城県竜巻災害義援金の受付(5月8日～7月31日)</p> <p>栃木県竜巻災害義援金の受付(5月10日～7月31日)</p> <p>平成24年7月大分県大雨災害義援金の受付(7月5日～8月31日)</p> <p>H24.7.12熊本広域大水害義援金の受付(7月13日～9月30日)</p> <p>平成24年7月福岡県豪雨災害義援金の受付(7月20日～8月31日)</p> <p>平成24年8月京都府南部豪雨災害義援金の受付(8月20日～10月31日)</p> <p>シエラレオネコレラ予防救援金の受付(8月27日～11月30日)</p> <p>「第12回赤十字ふれあいフェスティバル」を八幡平市さくら公園で開催(9月16日)</p> <p>シリア人道危機救援金の受付(10月3日～)</p> <p>平成24年鹿児島県奄美地方台風災害義援金の受付(10月22日～12月31日)</p> <p>フィリピン南部台風救援金の受付(12月19日～平成25年3月18日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成25年4月～継続)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「ふれあい炊き出し交流会」(平成25年4月～平成26年3月)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「被災地の赤十字講習普及とこころのケア」(平成25年4月～平成26年3月)</p> <p>岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所業務開始(5月)</p> <p>「第13回赤十字ふれあいフェスティバル」開催 盛岡市イオンモール盛岡 (5月26日)</p> <p>「赤十字150年写真展」地方巡回展をいわて県民情報交流センターで開催(7月26日～28日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(7月30日)</p> <p>大雨災害に伴い盛岡市、花巻市、矢巾町、紫波町へ救援物資配送(8月9日～10日)</p> <p>岩手県平成25年豪雨・大雨災害義援金の受付(8月14日～9月30日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字キャリア教育支援」(8月28日)</p> <p>台風18号に伴う大雨災害により盛岡市へ救援物資配送(9月16日)</p> <p>2013年フィリピン台風救援金の受付(11月11日～2月28日)</p>
		<p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月12日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成26年4月～継続)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成26年4月～平成27年3月)</p> <p>日赤岩手乳児院盛岡市三本柳へ移転新築(4月)</p> <p>盛岡市林野火災に伴い盛岡市玉山区総合福祉センターへ救援物資配送(4月28日)</p> <p>「第14回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。 盛岡市イオンモール盛岡(5月18日)</p> <p>2014年バルカン半島洪水救援金の受付(6月9日～9月30日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「JRC赤十字ふれあいコンサート」(6月30日)</p> <p>イラク人道危機救援金の受付(7月7日～9月30日)</p> <p>7.9南木曽町豪雨災害義援金の受付(7月16日～3月31日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2014inいわて」(7月29日～31日)</p> <p>ガザ人道危機救援金の受付(7月31日～1月30日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月5日)</p> <p>2014年中国雲南地震救援金の受付(8月8日～10月31日)</p> <p>2014年西アフリカエボラ出血熱救援金の受付(8月14日～平成27年5月29日)</p> <p>平成26年広島県大雨災害義援金の受付(8月22日～12月26日)</p> <p>平成26年8月京都府豪雨災害義援金の受付(8月25日～3月31日)</p>
平成 26 年	2014	

平成 27 年	2015	<p>平成26年8月丹波市豪雨災害義援金の受付(8月25日～3月31日)</p> <p>平成26年徳島県台風11号・12号災害義援金の受付(8月27日～10月31日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月14日)</p> <p>長野県神城断層地震災害義援金の受付(11月27日～平成27年9月30日)</p> <p>防災教育プログラムパイロット事業実施(1月24日)</p> <p>防災ボランティア養成研修開催(2月6日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部盛岡市三本柳へ移転新築(新社屋落成式2月20日、新社屋業務開始3月1日)</p> <p>2015年南太平洋サイクロン救援金の受付(3月18日～平成27年5月29日)</p> <p>中東人道危機救援金(平成27年4月1日～平成31年3月31日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成27年4月～継続)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成27年4月～平成28年3月)</p> <p>2015年ネパール地震救援金(4月27日～7月31日)</p> <p>「第15回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5/28)</p> <p>屋久島町口永良部島新岳噴火災害義援金(6月2日～12月25日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2015inいわて」(7月29日～31日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月4日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修(8月27日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字ふれあいコンサート」(8月30日)</p> <p>平成27年台風第18号等大雨災害義援金(9月11日～12月31日)</p> <p>平成27年台風第21号与那国町災害義援金(10月6日～12月31日)</p> <p>東ティモール赤十字社救急法等普及支援事業支部職員派遣(10月17日～25日)</p> <p>防災教育プログラムパイロット事業実施(10月24日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月4日)</p> <p>カンボジア赤十字社救急法普及支援事業支部救急法ボランティア指導員派遣(11月6日～15日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修(1月26日)</p>
		<p>2016年台湾地震救援金(2月8日～3月15日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成28年4月～継続)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成28年4月～平成29年3月)</p> <p>熊本地震災害発生(4月14日)</p> <p>平成28年熊本地震災害義援金(4月15日～令和2年3月31日)</p> <p>岩手県支部第1救護班(7名)を現地に派遣(4月19日～24日)</p> <p>2016年エクアドル地震救援金(4月20日～7月29日)</p> <p>盛岡赤十字病院医師1名を熊本赤十字病院支援に1名派遣(4月25日～5月1日)</p> <p>盛岡赤十字病院看護師1名を熊本赤十字病院支援に1名派遣(4月29日～5月5日)</p> <p>岩手県支部第2救護班(7名)を現地に派遣(5月1日～6日)</p> <p>「第16回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5/22)</p> <p>盛岡赤十字病院看護師1名を熊本地震被災者健康支援事業に2名派遣(7月15日～22日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2016inいわて」(7月27日～29日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月9日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修(8月19日)</p> <p>2016年イタリア中部地震救援金(8月30日～11月30日)</p> <p>台風10号災害発生(8月31日)</p>



平成 29 年 (130 周年)	2017	<p>岩手県支部救護班6班(33名)を矢巾消防学校SCUに派遣(8月31日～9月2日)</p> <p>久慈市、宮古市、岩泉町、住田町に救援物資輸送(8月31日～9月6日)</p> <p>平成28年台風10号災害義援金(9月5日～平成29年3月31日)</p> <p>日赤災害医療コーディネーター(6名)を岩泉町に派遣(9月6日、9日)</p> <p>第71回国民体育大会・第16回全国障害者スポーツ大会臨時救護に救護員(45名)を派遣(9月25日～10月24日)</p> <p>2016年ハイチハリケーン救援金(10月9日～12月31日)</p> <p>平成28年鳥取県中部地震災害義援金(10月25日～平成29年3月31日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月14日)</p> <p>平成28年新潟県糸魚川市大規模火災義援金(12月26日～平成29年6月30日)</p> <p>日本赤十字社定款の一部変更(4月1日) 年額2,000円以上の会費を納めるものを会員と定め、会員を社法上の社員とした。</p> <p>日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成29年4月～継続)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成29年4月～平成30年3月)</p> <p>釜石市林野火災に伴い釜石市立平田小学校避難所及び旧県立釜石商業高校体育館避難所に救援物資配送(5月8日)</p> <p>「第17回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5/28)</p> <p>赤十字奉仕団岩手県支部委員会増沢委員長が赤十字奉仕団中央委員会委員長に就任(6月1日)</p> <p>平成29年7月5日からの大雨災害義援金(7月7日～平成30年9月28日)</p> <p>秋田県大雨災害義援金(7月27日～8月31日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月8日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修(8月29日)</p> <p>2017年南アジア水害救援金(9月4日～10月31日)</p> <p>平成29年台風第18号災害義援金(9月21日～平成30年3月30日)</p> <p>バングラデシュ南部避難民救援金(9月22日～令和2年3月31日)</p> <p>平成29年台風第21号災害義援金(10月31日～平成30年1月31日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月7日)</p> <p>イラン・イラク地震の救援金(11月20日～12月25日)</p> <p>東日本大震災支援国赤十字・赤新月社会議(2月27日)</p>
	2018	<p>東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(4月～平成31年3月)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(4月～平成31年3月)</p> <p>「第18回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5/26)</p> <p>平成30年大阪府北部地震災害義援金(6月22日～9月28日)</p> <p>特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘:雫石町南畑へ新築移転(落成式6月26日・業務開始7月1日)</p> <p>平成30年米原市竜巻災害義援金(7月6日～9月28日)</p> <p>平成30年7月豪雨災害義援金(7月10日～令和元年6月30日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月8日)</p> <p>平成30年7月豪雨災害発生に伴い、こころのケア班(4名)を広島県呉市に派遣。(8月9日～8月16日)</p> <p>2018年インドネシア・ロンボク島地震救援金(8月22日～11月30日)</p> <p>北海道胆振東部地震発生に伴い、盛岡赤十字病院DMAT班、救護班2班、こころのケア班1班、こころのケア調整班1班を現地に派遣。(9月6日～10月1日)</p> <p>平成30年北海道胆振東部地震災害義援金(9月11日～令和元年9月30日)</p>

<p>平成31年 令和元年</p>	<p>2019</p>	<p>2018年インドネシア・スラウェシ島地震義援金(10月3日～11月30日)          岩手県赤十字大会(岩手県支部創立130周年・同有功会連合会結成30周年記念)(11月2日)          赤十字レッドライトアッププロジェクト初参加 盛岡城跡公園の石垣の一部を赤くライトアップ。          (5/8～5/31)          「第19回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。 盛岡市イオンモール盛岡 (5/11)          ラグビーワールドカップ2019釜石開催に係る岩手県国民保護共同訓練を7月11日に実施、          その後、7月27日のテストマッチ日本対フィジー戦、9月25日のウルグアイ対フィジー戦にて          テロ災害等に備え救護班を派遣。          東日本大震災被災地支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」開催 (7/13～12/17まで          のべ13回)          令和元年8月豪雨災害義援金。(9月2日～2月28日)          令和元年台風第15号千葉県災害義援金。(9月18日～12月30日)          令和元年台風第15号東京都義援金。(9月30日～11月30日)          令和元年東日本台風(台風第19号)災害発生。(10月12日)          被災した市町村に救援物資配送。(10月13日～11月8日)          宮城県丸森町に岩手県支部救護班1班(7名)を派遣。(10月16日～10月19日)          宮城県支部支援のため岩手県支部職員2名を派遣。(10月19日～10月23日)          ボランティアセンターを開設し、沿岸被災地に防災ボランティア等26名を派遣。(10月18日～          11月17日)          令和元年東日本台風(台風第19号)災害義援金。(10月16日～3月31日)  <u>※12月下旬 新型コロナウイルスが中国湖北省武漢市で発生し、全世界に感染拡大した。</u>  <u>日本にも2020年1月に初の感染者が確認され、全国に拡大している。</u>          2月末 今年度の救急法等の講習を全て中止とした。          コロナウイルス感染症対応(ダイヤモンドプリンセス号の乗船者(PCR陰性2週間隔離対象          者)の健康管理のため、税務大学校へ救護班(医師1名・看護師長1名・看護師1名・薬剤師1          名)を派遣(2月28日～3月1日)          3月3日～4日開催予定の赤十字奉仕団委員長・事務担当者会議を中止とした。</p>
-----------------------	-------------	---



# 日本赤十字社現勢

日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

日本赤十字社スローガン 人間を救うのは、人間だ。

赤十字の基本原則 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

1949年のジュネーブ四条約締結国

196カ国

世界の赤十字社・赤新月社等

191社

## 1. 沿革

明治10年(1877) 5月 1日 博愛社設立  
明治20年(1887) 5月20日 日本赤十字社に改称  
昭和27年(1952) 8月14日 日本赤十字社法制定

## 2. 名誉総裁・名誉副総裁(令和元年5月1日現在)

名誉総裁 皇后陛下  
名誉副総裁 秋篠宮皇嗣妃殿下  
常陸宮殿下・同妃殿下  
三笠宮妃殿下 寛仁親王妃信子殿下  
高円宮妃殿下

## 3. 会員

個人 14.1万人  
(平成31年3月31日現在)  
法人 7.6万法人

## 4. 評議員

2,007人

## 5. 代議員

223人

## 6. 役員(令和元年7月1日現在)

社長 大塚 義治(常勤)  
副社長 富田 博樹(常勤) 中西 宏明(非常勤)  
理事 61人(常勤1人、非常勤60人)  
監事 3人(非常勤)

## 7. 青少年赤十字(平成31年3月31日現在)

幼稚園・保育所	1,714校	146,184人
小学校	7,089校	1,978,405人
中学校	3,536校	968,849人
高等学校	1,911校	293,643人
特別支援学校	185校	18,370人
計	14,435校	3,405,451人
指導者	225,506人	

## 8. 赤十字ボランティア(平成31年3月31日現在)

地域赤十字奉仕団	2,128団	1,174,253人
青年赤十字奉仕団	165団	7,076人
特殊赤十字奉仕団	636団	33,341人
個人ボランティア	-	4,355人
計	2,927団	1,219,024人

## 9. 救急法等の講習

資格登録者数(平成31年3月31日現在)			受講者数 (平成30年度)
	指導者	救急員等	
救急法基礎講習	11,186人	174,383人	47,131人
救急法	7,087人	105,426人	481,879人
水上安全法	1,593人	8,931人	70,151人
管上安全法	202人	917人	576人
幼児安全法	2,304人	15,810人	79,425人
健康生活支援講習	1,718人	11,180人	93,259人
計	24,090人	316,647人	772,421人

## 10. 看護師等の教育

施設数		一学年養成定員	
大学(大学院併設)	6	看護師	21校 1,275人
短期大学	1	助産師	6校 88人
看護専門学校	15	保健師	6校 159人
助産師学校	1	幹部看護師	1校 120人
幹部看護師研修センター	1	介護福祉士	1校 30人
計	24		

## 11. 国際活動

国際救援・開発要員派遣(平成30年度)	8カ国	のべ84人
国際赤十字・赤新月社連盟出向	2人(スイス、マレーシア)	
赤十字国際委員会出向	1人(ミャンマー)	
国際援助額(平成30年度)		25億円

## 12. 国内災害救援

救護員数	5,899人(常備救護班要員を含む)	
常備救護班	489班	3,437人
無線局	(平成31年3月31日現在) 3,238局	
救護車両	665台	
赤十字飛行隊(特殊奉仕団)	100機	
災害における救護員出勤数(平成30年度)	11件	1,344人
取扱義援金額(平成31年3月31日現在)		
1.平成30年度受付義援金(東日本大震災を除く)	302億508万9,673円	
2.東日本大震災における平成30年度受付義援金	10億869万9,805円	
配分救援物資(毛布・緊急セット等)	27,806個	

## 13. 医療事業

施設数		
病院	91	診療所 5
		老人保健施設 6
病床総数	35,960床(平成31年3月31日現在)	
総患者数(平成30年度)		1日平均
入院	1,074万人	2.9万人
外来	1,647万人	6.7万人

## 14. 血液事業

施設数		
地域血液センター	47	ブロック血液センター 7
附属施設	172	(分置施設) 5)
(献血ルーム120を含む)		
献血者数(平成30年度)		供給本数(平成30年度)
成分献血	136万人	輸血用製剤 1,734万本
400mL献血	323万人	車両台数(平成31年3月31日現在)
200mL献血	14万人	献血運搬車 777台
計	474万人	移動採血車 284台

## 15. 社会福祉事業

児童福祉施設数(定員)		
乳児院	8(291)	医療型障害児入所施設 3(286)
保育所	3(358)	
児童養護施設	1(40)	
老人福祉施設数(定員)		
特別養護老人ホーム(併設ケアハウス20人を含む)	8(773)	
障害者福祉施設数(定員)	複合型施設 1(定員)	
障害者支援施設	1(60)	特別養護老人ホーム (110)
視覚障害者情報提供施設	2	介護老人保健施設 (100)
補装具製作施設	1	高齢者グループホーム (18)
		障害者支援施設 (10)

## 16. 職員数(施設数)

	職員数
本社(1)	538人
支部(47)	728人
医療事業(117)	58,979人
血液事業(231)	6,012人
社会福祉事業(28)	1,221人
計	67,478人

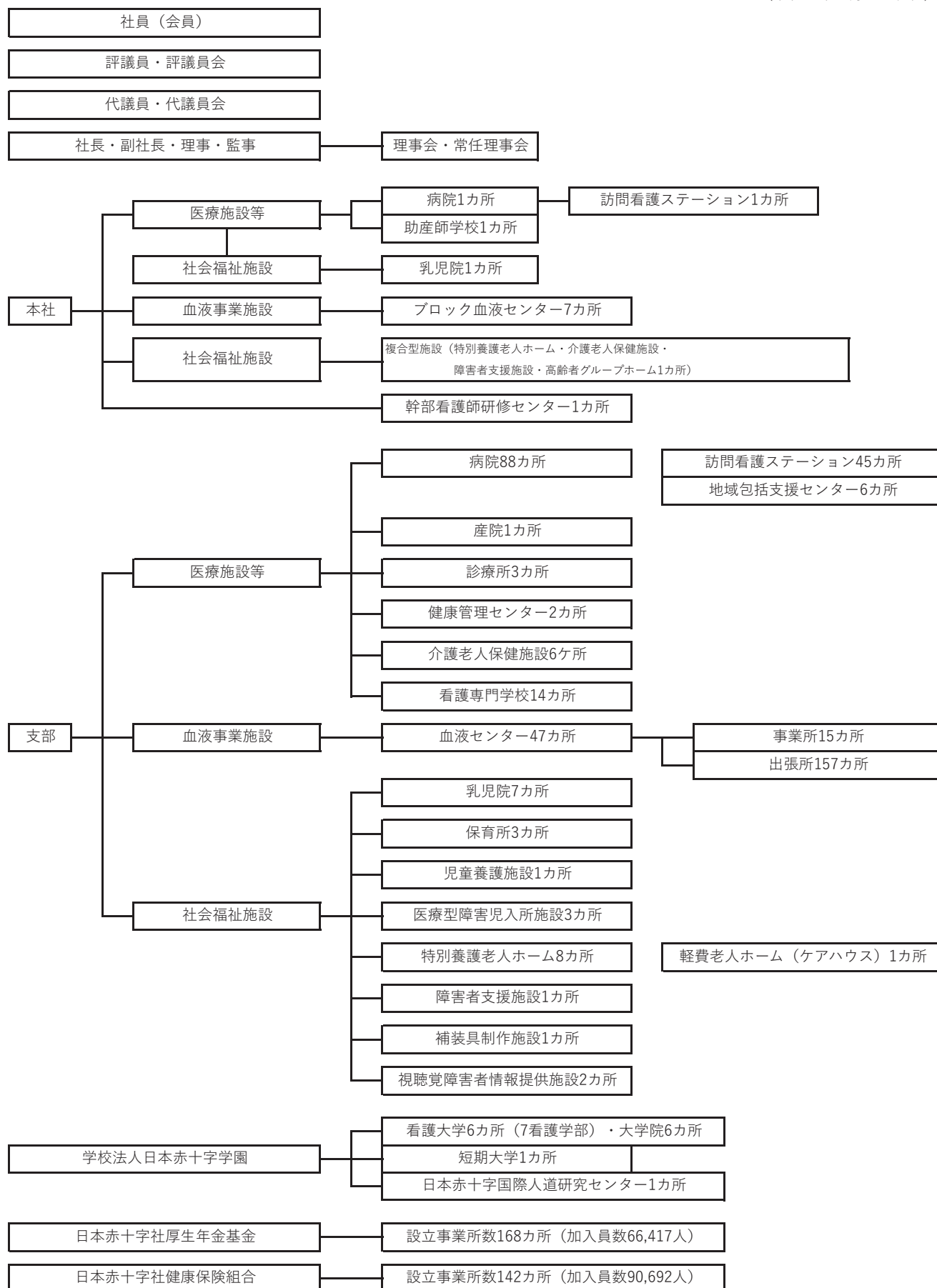
## 17. 会計(令和元年度当初予算)

一般会計	本社 110億2千万円
	支部 189億8千万円
医療施設特別会計	1兆1,006億3千万円
血液事業特別会計	1,587億2千万円
社会福祉施設特別会計	153億3千万円

(特に断りのない統計数字等は、平成31年4月1日現在)

# 日本赤十字社組織機構図

(令和2年4月1日現在)



※日本赤十字社企業年金基金の実施事業所数・加入者数及び日本赤十字社健康保険組合の設立事業所数・加入者数は令和元年12月末日現在。

# 用 語 解 説

(令和2年4月1日現在)

## 代議員会

本社における議決機関。各支部の会員の中から選出された223人の代議員で構成されている。

## 評議員会

支部における審議機関。各地区・分区の会員の中から選出された32人の評議員で構成されている。

## 会員・協力会員

赤十字の理念や活動にご賛同いただき、毎年継続して2,000円以上(会費という)ご支援いただける方を「会員」、500円以上2,000円未満(会費という)のご支援をいただける方を「協力会員」と呼んでいます。個人・法人を問わず、どなたでも「会員」、「協力会員」になることができます。

## 有功章

多額の会費を納めた個人・法人又は団体及び赤十字の業務について特別な功労があった個人・法人又は団体に対し、日本赤十字社有功章等贈与規則に基づき贈られる表彰。銀色(ぎんしょく)と金色(きんしょく)があり、金色有功章は最高の荣誉章とされている。

## 有功会

日本赤十字社の社旨に賛同し多額の金品を拠出し、あるいは功労により有功章を贈られた会員で構成する任意団体。

## 赤十字奉仕団

赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々によって結成されたボランティア組織。

## 青少年赤十字(Junior Red Cross : JRC)

将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら作り上げることを目的とした事業。

RCY(Red Cross Youth : 青年赤十字)とともに世界共通。

## リーダーシップ・トレーニングセンター

合宿生活を通じ、青少年赤十字精神と奉仕活動を学ぶリーダー養成研修会。

## 国際赤十字

赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社・赤新月社の総称。

## 赤十字国際委員会 (International Committee of the Red Cross : ICRC)

戦時救護事業の中心機関で、中立を保つことができるよう委員は永世中立国のスイス人で構成されている。ジュネーブに本部を置く。

## 国際赤十字・赤新月社連盟 (International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies : IFRC)

平時における赤十字事業の中心となる各国赤十字社の国際的連合体。最高議決機関は通常 2 年ごとに開催される総会。本社所在地ジュネーブ。

## 各国赤十字社・赤新月社

各々の国における人道的事業の実施機関。使用する標章の違いから、赤十字社と赤新月社の 2 種の呼称があるが、権利・義務、役割等は全く同じ。令和 2 年 1 月 1 日現在で 192 社。

## 赤十字・赤新月国際会議

国際赤十字・赤新月運動の最高議決機関。赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国の赤十字社及びジュネーブ条約加入国政府の代表によって構成され、原則として 4 年ごとに開催される。それぞれの国の赤十字社代表と政府代表等が一票ずつの投票権をもっている。

## ジュネーブ条約

赤十字の目的を達成するには国家間の取り決めが必要で、戦場で負傷した兵士を敵、味方の区別なく救助することとし、救助する人たちの活動の安全保障をするために 1864 年成立した条約。赤十字条約とも国際人道法ともいわれる。

各国赤十字社・赤新月社等一覧

(令和2年1月1日現在)

国際 委員会 承認順	国 名	国際 委員会 承認年	マ ーク
1	ベルギー	1864	+
2	イタリア	1864	+
3	スウェーデン	1865	+
4	ノルウェー	1865	+
5	スイス	1866	+
6	オーストリア	1867	+
7	トルコ	1868	☾
8	オランダ	1868	+
9	英 国	1870	+
10	デンマーク	1876	+
11	ルーマニア	1876	+
12	ギリシャ	1877	+
13	ベルー	1880	+
14	アルゼンチン	1882	+
15	ハンガリー	1882	+
16	アメリカ	1882	+
17	ブルガリア	1885	+
18	ポルトガル	1887	+
19	日 本	1887	+
20	スペイン	1893	+
21	ベネズエラ	1896	+
22	ウルグアイ	1900	+
23	南アフリカ	1900	+
24	フランス	1907	+
25	チ リ	1909	+
26	キューバ	1909	+
27	メキシコ	1912	+
28	中 国	1912	+
29	ブラジル	1912	+
30	ルクセンブルク	1914	+
31	ポーランド	1919	+
32	フィンランド	1920	+
33	タ イ	1920	+
34	ロ シ ア	1921	+
35	コスタリカ	1922	+
36	コロンビア	1922	+
37	パラグアイ	1922	+
38	エストニア	1922	+
39	ボリビア	1923	+
40	ラトビア	1923	+
41	エクアドル	1923	+
42	アルバニア	1923	+
43	グアテマラ	1923	+
44	リトアニア	1923	+
45	エジプト	1924	☾
46	パナマ	1924	+
47	イ ラ ン	1924	☾
48	アイスランド	1925	+

国際 委員会 承認順	国 名	国際 委員会 承認年	マ ーク
49	エルサルバドル	1925	+
50	カナダ	1927	+
51	ドミニカ共和国	1927	+
52	オーストラリア	1927	+
53	イ ン ド	1929	+
54	ニュージーランド	1932	+
55	イ ラ ク	1934	☾
56	ニカラグア	1934	+
57	ハ イ チ	1935	+
58	エチオピア	1935	+
59	ホンジュラス	1938	+
60	ミャンマー	1939	+
61	アイルランド	1939	+
62	リヒテンシュタイン	1945	+
63	シ リ ア	1946	☾
64	レバノン	1947	+
65	フィリピン	1947	+
66	モ ナ コ	1948	+
67	パキスタン	1948	☾
68	ヨ ル ダ ン	1948	☾
69	インドネシア	1950	+
70	サンマリノ	1950	+
71	スリランカ	1952	+
72	ド イ ツ	1952	+
73	アフガニスタン	1954	☾
74	大韓民国	1955	+
75	朝鮮民主主義人民共和国	1956	+
76	ラ オ ス	1957	+
77	チュニジア	1957	☾
78	ス ー ダ ン	1957	☾
79	ベトナム	1957	+
80	モ ロ ッ コ	1958	☾
81	リ ビ ア	1958	☾
82	ガ ー ナ	1959	+
83	リベリア	1959	+
84	モンゴル	1959	+
85	カンボジア	1960	+
86	ナイジェリア	1961	+
87	ト ー ゴ	1961	+
88	シエラレオネ	1962	+
89	ブルキナファソ	1962	+
90	コンゴ民主共和国	1963	+
91	マレーシア	1963	☾
92	アルジェリア	1963	☾
93	カメルーン	1963	+
94	コートジボワール	1963	+
95	サウジアラビア	1963	☾
96	セ ネ ガ ル	1963	+

国際 委員会 承認順	国 名	国際 委員会 承認年	マ ーク
97	タンザニア	1963	+
98	トリニダード・トバゴ	1963	+
99	ブルンジ	1963	+
100	ベ ナ ン	1963	+
101	マダガスカル	1963	+
102	ネ パ ール	1964	+
103	ジャマイカ	1964	+
104	ウ ガ ン ダ	1965	+
105	ニジェール	1965	+
106	ケ ニ ア	1966	+
107	ザ ン ビ ア	1966	+
108	マ リ	1967	+
109	クウェート	1968	☾
110	ガイアナ	1968	+
111	ソマリア	1969	☾
112	ボツワナ	1970	+
113	マラウイ	1970	+
114	レ ソ ト	1971	+
115	バーレーン	1972	☾
116	モーリタニア	1973	☾
117	シンガポール	1973	+
118	バングラデシュ	1973	☾
119	フィジー	1973	+
120	中央アフリカ	1973	+
121	ガンビア	1974	+
122	コンゴ共和国	1976	+
123	バ ハ マ	1976	+
124	バブアニューギニア	1977	+
125	モーリシャス	1977	+
126	スワジランド	1979	+
127	ト ン ガ	1981	+
128	カタール	1981	☾
129	イエメン	1982	☾
130	ルワンダ	1982	+
131	ジンバブエ	1983	+
132	ベリ ー ズ	1984	+
133	サ モ ア	1984	+
134	バルバドス	1984	+
135	カーボベルデ	1985	+
136	サントメ・プリンシペ	1985	+
137	ギニアビサウ	1986	+
138	アラブ首長国連邦	1986	☾
139	セントルシア	1986	+
140	ギ ニ ア	1986	+
141	ア ン ゴ ラ	1986	+
142	ス リ ナ ム	1986	+
143	ジ ブ チ	1986	☾
144	グレナダ	1987	+

国際 委員会 承認順	国 名	国際 委員会 承認年	マ ーク
145	チ ャ ド	1988	+
146	モザンビーク	1988	+
147	ドミニカ国	1989	+
148	セントビンセント及び グレナディーン諸島	1989	+
149	ソロモン諸島	1991	+
150	セイシェル	1992	+
151	セントクリストファー・ネイビス	1992	+
152	アンティグア・バーブーダ	1992	+
153	ナミビア	1993	+
154	スロバキア	1993	+
155	チ ェ コ	1993	+
156	スロベニア	1993	+
157	クロアチア	1993	+
158	ウクライナ	1993	+
159	バヌアツ	1993	+
160	マルタ	1993	+
161	アンドラ	1994	+
162	赤道ギニア	1994	+
163	トルクメニスタン	1995	☾
164	ウズベキスタン	1995	☾
165	アルメニア	1995	+
166	アゼルバイジャン	1995	☾
167	ベラルーシ	1995	+
168	マダガスカル	1995	+
169	ブルネイ	1996	☾
170	キルギス	1997	☾
171	キリバス	1997	+
172	パラオ	1997	+
173	タジキスタン	1997	☾
174	ジョージア	1997	+
175	ガ ボ ン	1999	+
176	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2001	+
177	モルドバ	2001	+
178	クック諸島	2002	+
179	カザフスタン	2003	☾
180	ミクロネシア	2003	+
181	コ モ ロ	2005	☾
182	東ティモール	2005	+
183	パレスチナ	2006	☾
184	イスラエル	2006	◆
185	セルビア	2006	+
186	モンテネグロ	2006	+
187	モルディブ	2011	☾
188	キプロス	2012	+
189	南スーダン	2013	+
190	ツ バ ル	2015	+
191	マーシャル諸島	2017	+
192	ブ ー タ ン	2019	+

⊕ は赤十字社(157社) ☾ は赤新月社(34社) ◆ はイスラエル・ダビデの赤盾社

※標準としての赤新月の向きについては、特に定めはない。それぞれの社が設立時に右向き又は左向きを定める。

